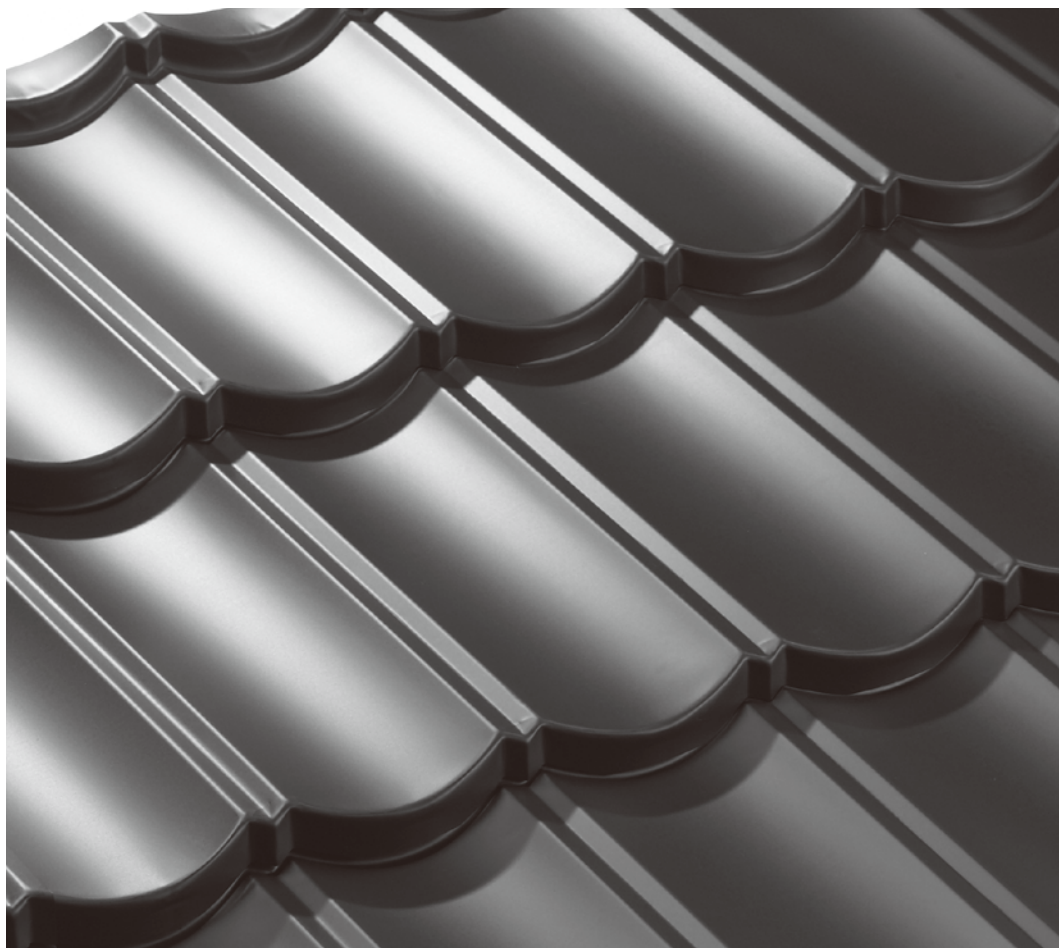


超高耐久性ガルバリウム鋼板 エスジーエル®

金 属 瓦 【穴あき 25 年保証】

メタルルーフ 施工資料

2020 年 7 月版



メタルルーフ

設計・施工マニュアルのご使用にあたって

本マニュアルは、化粧スレート板等のカバー工法をベースに作成しています。
新築(瓦の葺き替え)とは異なる部分がございます。

- 本マニュアルには、**メタルルーフ**を安全に正しくお使いいただくための重要な情報を記載しています。
- メタルルーフ**工事にあたり、本マニュアルを必ずお読みの上、設計・施工を行って頂きますようお願い致します。
- 施工や納まりの方法は本マニュアル記載のもの以外にもありますが、本マニュアルでは、製品品質や施工品質を確保するための方法として、代表的な例を記載しています。
- 本マニュアルは施工や納まりの方法を拘束するものではありませんが、**メタルルーフ**の機能及び性能が確保できるように方法を決定してください。
- お施主様と工事店様とで協議し、別途定めた設計・施工仕様（施工マニュアルなど）につきましては、本マニュアルに定める限りではありません。
- なお、本マニュアル内で示す数値は、設計値（標準設定値）であり、現場での実施工においては、納まり状況等により前後することがあります。

CONTENTS

安全上のご注意	2
取り扱い時のお願い	3
1. 製品仕様	4
2. 純正部材	5
3. 部 材	6
4. 適用条件	7
4-1 流れ長さ基準	7
4-2 積雪基準	7
5. 既設屋根の調査	8
6. 本屋根部の施工方法	9
6-1 工事の手順	9
6-2 下葺材の施工(積雪1m以下の場合)	10
6-3 木下地及び役物の納まり	11
6-4 割付け・墨出し	12
6-5 屋根材の取付け	13
7. 軒先部の納め	14
7-1 軒先瓦による納め	14
7-2 屋根材本体による軒先納め	16
8. けらばの納め	18
8-1 袖瓦による納め	18
8-2 けらばによる納め	20
9. 主棟部の納め	22
9-1 平棟による納め	22
9-2 丸棟による納め(屋根本体を切断しない場合)	24
10. 降り棟の納め	26
10-1 降り棟による納め	26
10-2 三ツ又の納め(現場加工)	29
11. 谷樋部の納め	30
11-1 谷カバーの納め	30
11-2 屋根材現場加工の場合	32
12. 下屋部(壁取合い)の施工方法	34
12-1 側面雨押え部(流れ方向)	34
12-2 正面雨押え部(桁行方向)	38
12-3 流れ方向 出隅	40
12-4 流れ方向 入隅	44
12-5 流れ方向 軒先～棟	46
13. 他納め部の施工方法	48
13-1 入母屋の施工 新築(葺替え)	48
13-2 鬼飾りの納め	52
13-3 入隅鬼飾り(そり巴付)の納め	53
14. 雪止め金具の取付け	54
15. 点検/清掃・補修方法	55
15-1 屋根面の点検	55
15-2 屋根面の清掃・補修	55
16. メンテナンス	56
16-1 メンテナンス項目	56
16-2 屋根材補修塗料について	56
17. 納まり断面図集(スレートカバー工法)	58

安全上のご注意

メタルルーフは専門施工が必要です。必ず施工は専門工事業者が行ってください。
お施主様ご自身で施工を行わないでください。



警告

取扱いを誤った場合に、人が死亡または重傷を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される場合の表示

1. 正しい服装

屋根工事は高所作業です。着装は作業時に支障のない身軽な作業服を着用し、保護具(ヘルメット、命綱など)を着装してください。

2. 雨天時の心得

雨天時や事前に降った雨や雪などで、屋根表面が濡れている場合は、滑りやすいのでご注意ください。

3. 天候異常の時は工事の中止を

瞬風、つむじ風などの異常気象の発生が予想されている時は、屋根材が飛散して2次災害を起こす危険があります。

4. 高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性あります。

5. 既存の屋根用スレートの解体、破砕などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。著しい健康障害をまねく可能性があります。



注意

取扱いを誤った場合に、人が障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される場合の表示

1. **メタルルーフ**は2.5/ 10以上の勾配で使用してください。

2.5/10未満の勾配では漏水のおそれがありますので使用できません。(P.7参照)

2. 防水のため、下葺材は適切に葺いてください。

3. 下葺材に打ち損じなどの穴ができた場合は、シーリングで防水処理を行ってください。

4. 下葺材の施工時に天候が急変し工事が中断する場合、下葺材の養生を行ってください。

5. **メタルルーフ**は一般地域で使用してください。積雪地域では、屋根勾配を確認し、適切に下葺材を施工してください。(P.7参照)

6. 落雪による事故を防止するため雪止め金具を使用してください。

7. 電動工具等を使用する際は、安全操作、漏電・感電防止、及びこれらの落下防止に心がけてください。

8.シーリング・タッチアップペイントなどは安全データシート(SDS)に従って正しく使用してください。

施工上のPoint

施工する上で、意識する重要なポイント

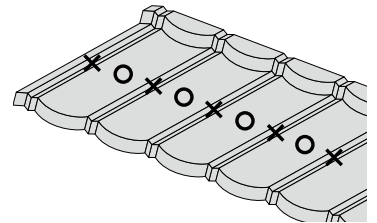
取り扱い時のお願い

運搬、保管上の注意

- 1 ケースあるいは開梱した商品を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。
- 車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れ、汚れがないことを確認した上で、平積みにしてください。
- 急ブレーキなどによる荷崩れ、損傷を防ぐため、ロープをかけ、角には必ず当て板を入れてください。
- ロープの締め付けが強すぎると商品の破損につながるおそれがあります。過度の締め付けは避けてください。
- 商品の保管は、雨水、湿気などの影響を受けない風通しのよい屋内の平らな場所で行ってください。
- 屋外に保管する際は、パレットあるいは、りん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。また防水シートが風などで飛ばないようにしてください。
- 商品が破損するおそれがありますので、次のような行為は避けてください。
 - 商品を放り投げる、または落とすこと。
 - 商品の上に人が乗る、または重量物を載せること。
 - 商品の片方をりん木やトラックのあおりなどに載せて斜めに置き、保管や運搬をすること。
- 商品を保管するときは横置きにしてください。
- 屋根材を一時的に保管する場合は、次のことに注意してください。
 - 荷上げの際の落下事故には十分注意してください。
 - 屋根面や足場に一時保管する場合、滑落・落下防止策を講じてください。

施工上の注意

- 滑落防止のため屋根に登る際には、地下足袋など滑り止めの付いた履物を着用してください。強風や雨天時には特に注意してください。
 - 座屈を避けるため屋根上では○印の箇所(谷部)を踏むようにしてください。屋根工事中はもとより、アンテナ・ソーラーシステム・バルコニーなどの取付け工事に際しても、×印の箇所を踏まないように注意してください。
- ※万全のためメタルルーフの下に断熱材(補強材)を敷くことをお勧めいたします。
- 泥等で靴が汚れたまま屋根面を歩くと、泥が屋根材に付着し取れなくなります。汚れた靴で屋根の上を歩かないでください。
 - 下葺材の施工後、天候の悪い日は下葺材に目貼りし、雨水及び飛散に注意してください。
 - 最大長さを超える屋根への使用は、軒先部での雨水量が増大し雨漏れの原因になります。各勾配ごとの最大流れ長さの基準を守ってください。(P.7参照)
 - 不適切な下葺材を使用しますと雨漏れの原因となりますので、絶対に使用しないでください。

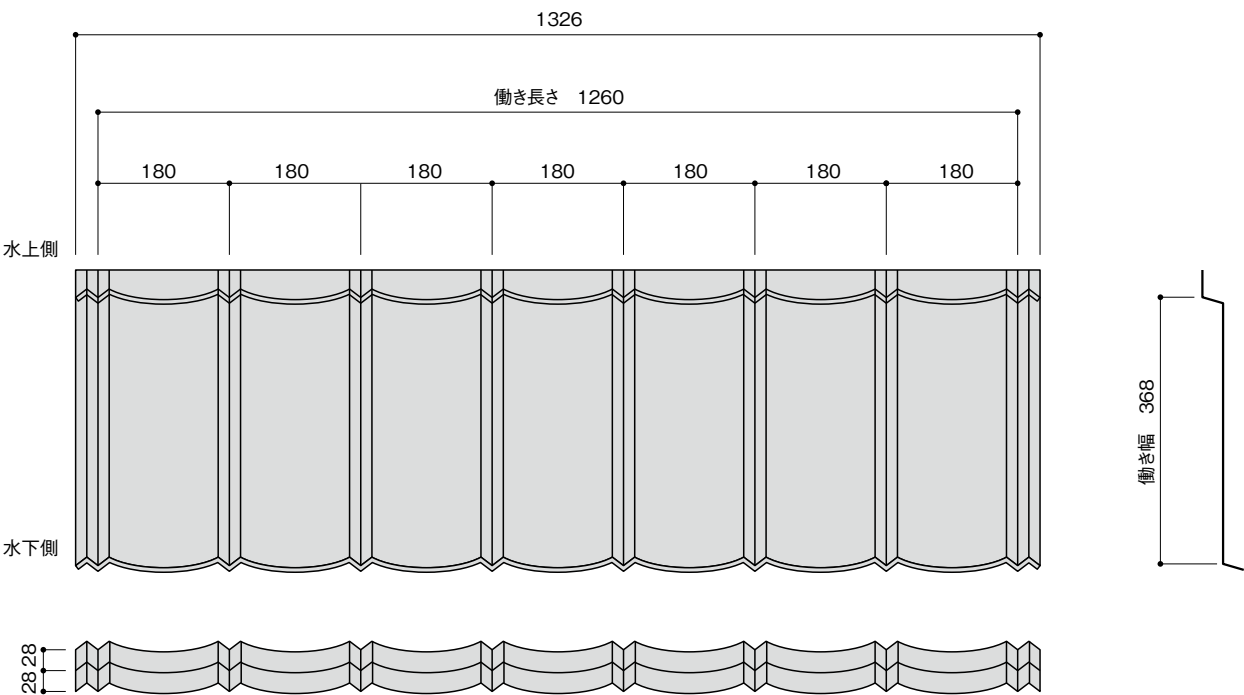


屋根面の清掃・補修

- キリコや汚れの付着は必ず清掃し、除去してください。
- ⚠注意 キリコやゴミを放置しますと錆発生の原因になります。
- 清掃用具は、表面塗膜にキズをつけないよう配慮してください。
- ⚠注意 金属ブラシ・プラスチック製ブラシ、スチールウール、金属へら等は使用しないでください。
- 簡単に取れない汚れを取る清掃には、中性洗剤を使用し、布で拭き取ってください。
- 屋根表面の塗膜のキズは、清掃後にまず布等で脂・ゴミを完全に除去し、それぞれの表面材を同色の純正補修塗料で塗装補修してください。
- 残材は作業現場に残さないよう処理し、検査に支障をきたさないよう周辺環境の整備を行ってください。

1. 製品仕様

■本体形状



■本体・役物

原 板	●ポリエステル樹脂塗装銅板 ●フッ素樹脂塗装銅板 ●銅板
規 格	エスジーエル® (2%マグネシウム添加ガルバリウム鋼板) (銅板は除く)
板 厚	本体0.4mm 役物0.4mm
色 相	●SGLフッソ 穴あき25年 赤錆20年 塗膜20年保証 (海岸以遠500m) Fブラック・Fいぶし銀 ●SGLカラー (ちぢみ) 穴あき25年 赤錆10年 塗膜10年保証 (海岸以遠500m) Nブラック・Nグレー ●SGLカラー 穴あき25年 赤錆10年保証 (海岸以遠500m) ブラック・ギングロ・レッドブラウン ●銅板タイプ カッパー(銅)

■形状・寸法・重量

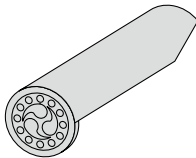
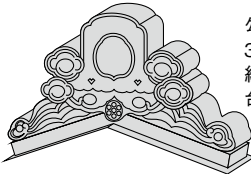
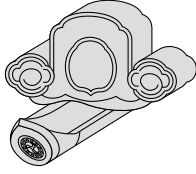
働 き 長 さ	1260mm(山ピッチ180mm×7山)
製 品 幅	1326mm
働 き 幅	368mm (瓦1段分有効幅)
山 高 さ	30mm
葺上げ重量	4.7kg/m ²

2. 純正部材

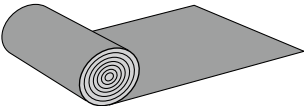
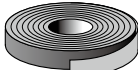
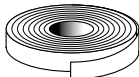
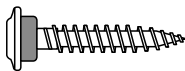
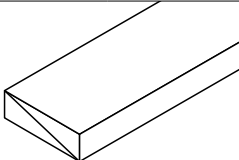
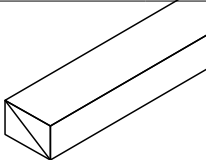
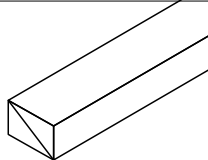
軒先瓦 K4 	軒先巴 K6 	袖瓦 N5(L・R) ※この図は右(N5R)になります。	断熱材 SR 材質：耐熱発泡ポリスチレン ※屋根本体と働き長さが異なります。
軒先水切65 NK3 	軒先水切90 NK2 	丸棟カバー W2 水上側 水下側	隅棟カバー W3 水上側 水下側
平棟 R4 	棟包みキャップ RC2 	剣先 軒先キャップ SC2 軒先 S2 	
けらば けらばキャップ NC2 (左右兼用) 軒先 N2 		捨板 TS 	正面側面雨押え P4
雪止め金具(温暖地用) YUK 	雪止め金具(積雪地用) YUK 	雪止め金具(アングル支持台) YUK 	棟面戸 Q3
ケミカル面戸40谷 K40 ※谷・主棟・隅棟用 L=2000mm	ケミカル面戸10 K10 ※正面雨押え用 L=2000mm	ケミカル面戸40S K40S ※けらば・側面雨押え用 L=1840mm	コイル H サイズ：914W×10M
平板 H サイズ：914W×1829mm	スクリュー釘 ST-V SUS304 #12×45L	スチール釘 V ※銅板には使用できません。 #12×45L	補修用塗料 90ml / 缶

3. 部材

■オプション部材

主棟巴	FA2号丸型	FC3号丸型(そり巴付)
 内寸4寸120 長さ9寸8分300 ※切妻の場合、鬼と一緒に注文することもできます。	 勾配変化範囲 3寸勾配～1尺勾配 紋章径2寸 台の側面幅2寸7分82 ※切妻の場合	 紋章径2寸6分 頭の側面幅3寸7分112 ※寄せ棟・隅 棟の場合

■現場手配部材

下葎材	両面プチルテープ	木ズリテープ	木ズリテープ	
 P.11を参照願います	 材 質：プチル両面接着タイプ サイズ：50mm幅×20m 積雪地域での下葎材の防水性向上対策用	 サイズ：20 ～ 30mm幅	 材質：変成シリコーン	
化粧ねじ	コーススレット	笠木	桟木	木下地
 材 質：SUS サイズ：φ4×27mm	 材 質：炭素鋼 サイズ：5×90mm	 サイズ：18～24×105mm	 サイズ：30×30～40mm	 サイズ：30×40～45mm

木下地の防腐・防蟻処理の仕様について

鋼板と直接接する事で、鋼板を腐食させる為

⚠ 銅系の薬剤を使用した防腐・防蟻処理木材は使用しないでください。

防腐・防蟻処理木材との接触腐食(参考資料)

住宅内部でめっき鋼板との接触する(下葎材との接合など)可能性のある金属以外の異種材料として、防腐・防蟻処理木材があり、この木材との関係について紹介します。

1.防腐・防蟻処理木材とめっき鋼板の直接腐食試験の結果

〔(社)日本鉄鋼連盟 薄板軽量形構造技術小委員会資料〕

1)防腐・防蟻処理木材について

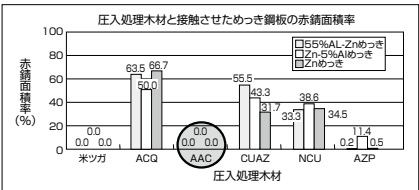
圧入処理木薬剤(木材：米ツガ)	薬剤の略号
●銅、アルキルアンモニウム化合物系	ACQ
●アルキルアンモニウム化合物系	AAC
●銅、ホウ酸、アゾール系	CUAZ
●ナフテン酸銅系	NCU
●シプロコナゾール・プロベンタフォス系 [クロム、銅、ヒ素化合物]	AZP [CCA]

※太字囲みは当社仕様
出典：塗装/〔亜鉛系めっき鋼板の異種金属接触さび防止方法〕
(社)日本鉄鋼連盟より

2)試験材(めっき鋼板)

試験剤の種類 (いずれもクロメート処理済み)	めっき 付着量記号
●熔融Znめっき鋼板	Z27
●熔融Zn-5% Alめっき鋼板	Y18
●熔融55% Al-Znめっき鋼板	AZ150

3)サイクル腐食試験



①試験条件

塩水噴霧[5% NaCl水溶液35℃] 8時間→室内放置16時間、40サイクル[塩水は木材から噴霧し、試験体は垂直から20度傾けて設置(木材厚38mm、めっき鋼板1mm)]

②評価方法

サイクル腐食促進試験後に試験片を解体し、木材と接触していた鋼板の表面の赤錆面積率(%)を評価した。

③結果

●圧入処理木材との関係

熱処理剤(米ツガ)と接触させためっき鋼板からは、赤錆は発生しなかった。銅・アルキルアンモニウム化合物系(ACQ)、銅・ホウ酸アゾール系(CUAZ)、ナフテン酸銅系(NCU)といった銅を含有する防腐・防蟻を施した処理木材の場合、いずれのめっき鋼板にも赤錆が多く発生しており耐食性に影響を与えます。

●表面処理木材との関係

銅を含む表面処理薬剤(酢酸銅など)で処理した木材と接触させた場合も、圧入処理木材と同様に耐食性に影響を与えます。

4)錆発生機構のまとめ

防腐・防蟻処理(銅系の薬剤使用)した木材が水分を含んだ場合、銅は木材の中で銅イオン(Cu^{2+})として存在すると考えられ、銅に対しイオン化傾向の卑な金属である亜鉛やアルミニウムは溶け出し、腐食がおきます。塗膜は基本的には、水分を通すため亜鉛めっき系の塗装鋼板は亜鉛めっき系鋼板と同様の傾向を示します。つまり、銅系の防腐・防蟻処理剤が圧入された木材が水分を含むと、めっき鋼板や塗装鋼板は急激に腐食が進行していきます。また、木材中に多量の水分が存在し、長期の直接接合があれば腐食はゆっくりではありますが進行します。

4. 適用条件

新築（瓦からの葺き替え）、化粧スレート板・シングル葺・鋼板平葺等で施工されている屋根に適用できます。
カバー工法は、既設野地板に固定する工法です。既設野地板に問題がないか総合的に判断して施工してください。（P.8 参照）

項 目	条 件
屋 根 高 さ	地上13mまで
基 準 風 速	40m/秒以下の地域
地 表 面 粗 度 区 分	Ⅲ
屋 根 勾 配	2.5寸以上(多雪地域3寸以上)
野 地 板	厚さ12mm以上の構造用合板
栈 木 固 定 間 隔	450mm以下

上記範囲によらない場合は別途ご相談します。

工 法	既存屋根材
リフォーム カバー工法	着色石綿セメント板(平板)
新築工法	新築(瓦からの葺き替え)または既存屋根葺き材全面撤去

4-1 流れ長さ基準

屋 根 勾 配	2.5/10 ～ 3.0/10	3.5/10 ～ 4/10	4.5/10以上
流 れ 長 さ	8m以下	13m以下	20m以下

4-2 積雪基準

積雪深度2m以下で使用してください。

	積雪深度1m以下の地域	積雪深度1 ～ 2m以下の地域
下 葺 材	1段目、2段目にはプチルテープで防水補強してください。 (P.11参照)	すが漏れ対策として、軒先部は軒先先端から2m位まで防水補強してください。 (アスファルトルーフィングの2層貼り、または改質アスファルトルーフィング、粘着層付アスファルトルーフィングを使用してください。)
屋 根 勾 配	2.5寸以上	3寸以上
雪止め金具	全ての雪止め金具が使用できます。	温暖地用(YUK)は使用不可。
断 熱 材	必ず設置してください。	

5. 既設屋根の調査

このマニュアルは、既設屋根の上に直接施工する工法(カバー工法)をベースに記載しています。

カバー工法では既設屋根の状態が重要です。

リフォームでは、元請およびお施様との事前調査、確認が大切です。その上で適切な工法を選択してください。

⚠ 注意

既設屋根に上がる際は、足場や落下防止対策を実施し、安全を確保し作業を行ってください。

労働安全衛生規則第518条

高さが2メートル以上の箇所(作業床の端、開口部等を除く)で作業を行う場合において墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのあるときは、足場を組み立てる等の方法により作業床を設けなければならない。

既設屋根の確認

メタルルーフは、化粧スレート板・シングル葺・鋼板平葺等に施工できます。

その他、粘土瓦は全面葺き替えで対応できます。

屋根の状態

漏水がある場合事前に対策を立案してください。

(1)既設屋根以外のトップライト廻りや壁面からの漏水は、事前に止水処理が必要です。

(2)既設シーリングに亀裂や劣化がある場合、補修してください。

既設屋根材にずれ、割れがある時、補修する場合があります。

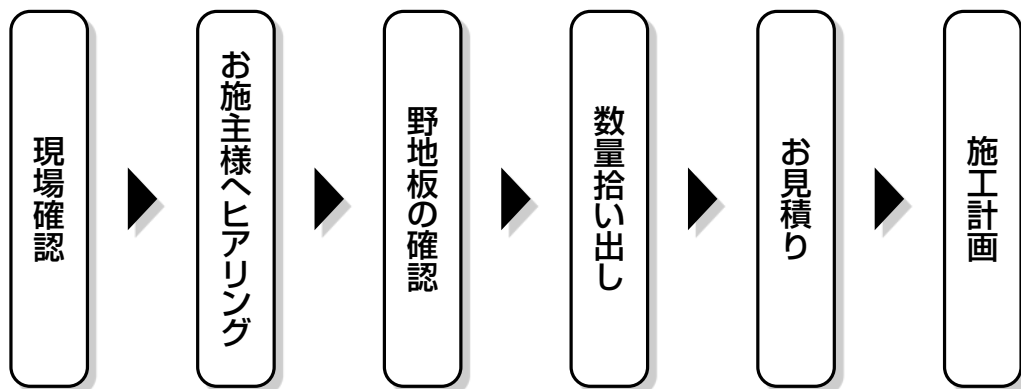
野地板の健全性確認

目視でたるき間に沈みがないことを確認します。

歩行して屋根面に沈みが感じないか確認します。

湿気のこもり易い北面側やキッチン、浴室等に該当する屋根面は特に注視してください。

また、野地板に対するビスの保持力を確認する場合があります。ビス固定ピッチを考慮してください。



屋根寸法の確認

屋根勾配、流れ長さを確認し屋根材本体の数量や部材数量を拾い出します。

屋根上器物の確認

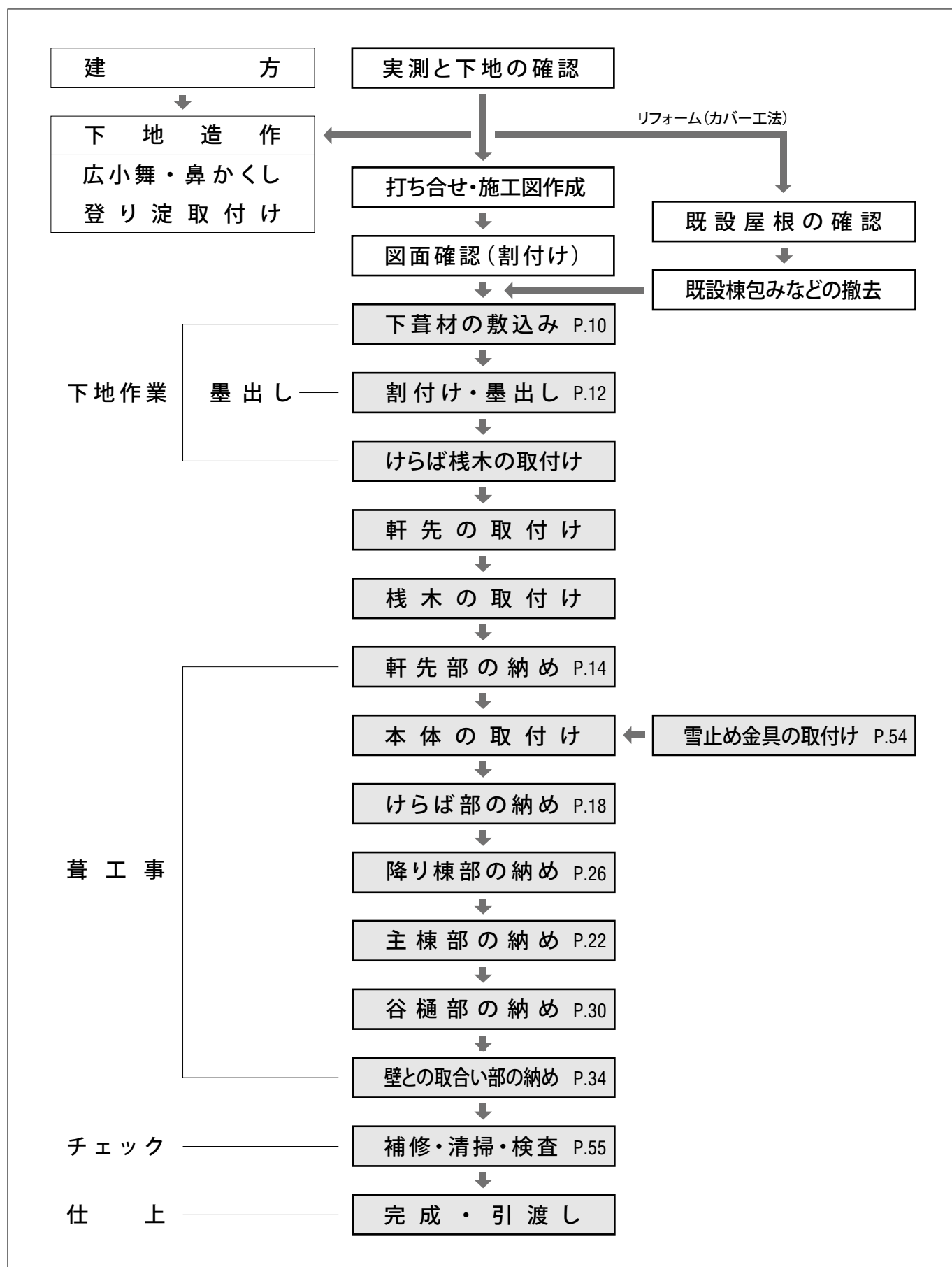
既設屋根上にテレビアンテナ・温水器等を確認し、リフォーム前に一時撤去が必要となる場合があります。

既設屋根用スレートの解体、破碎などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。

なお、関連法規や工事の届け出、廃棄物の処理方法などにつきまして不明な場合は、所轄する労働基準監督署や自治体の担当窓口へご相談ください。

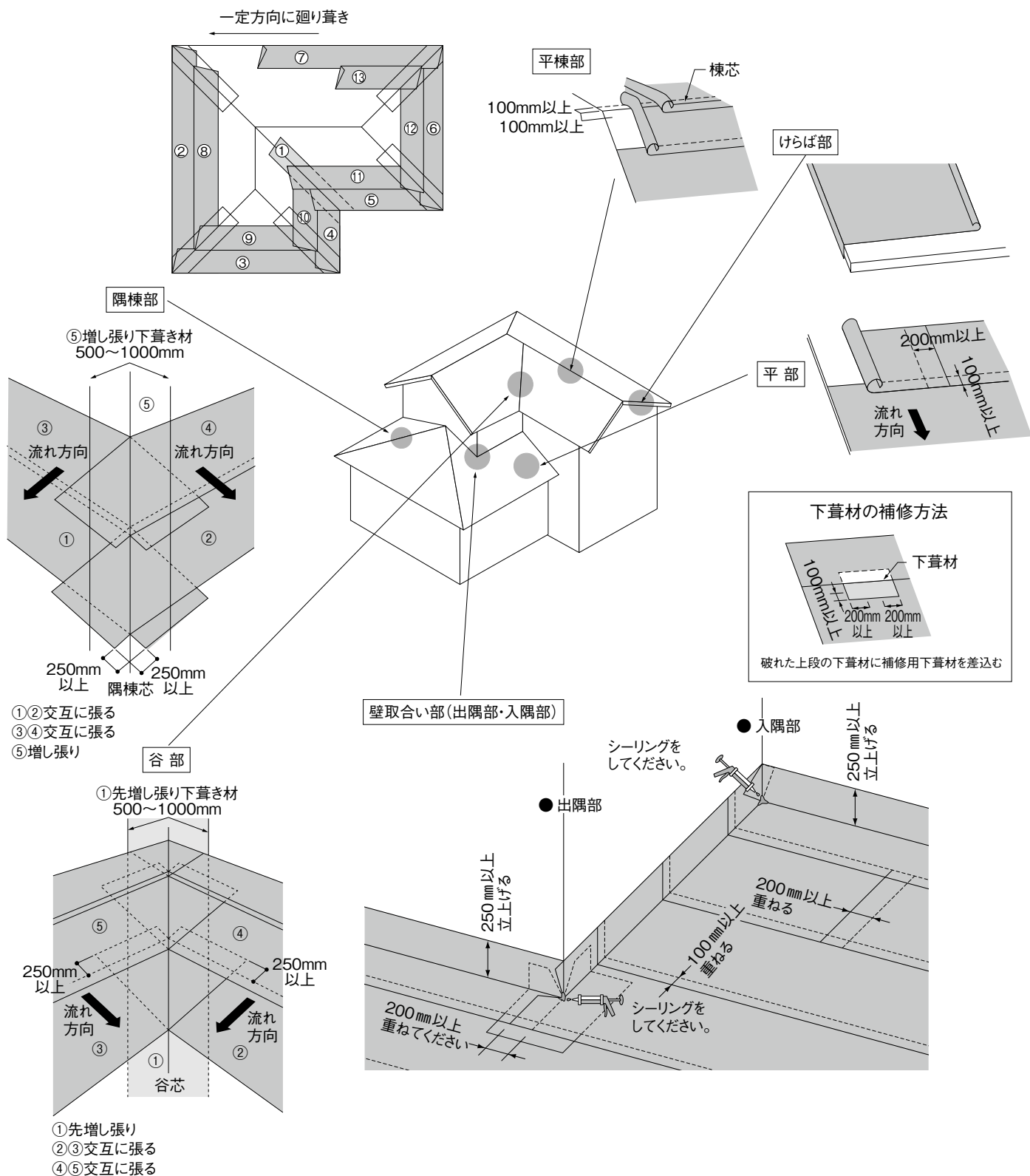
6. 本屋根部の施工方法

6-1 工事の手順



※ 現場の状況に見合った施工手順を作成してください。

6-2 下葺材の施工(積雪1m以下の場合)



⚠ 注意

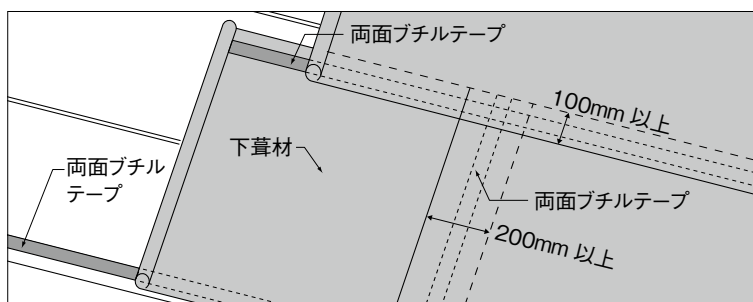
⊙下地が含湿している時や雨天時の敷込みは避けてください。

リフォームの場合の下葺材の敷込み

アスファルトルーフィング940以上を使用の場合は、風によるあおりを防水するため、数カ所を両面テープ等で止めてください。

積雪が 1m 以上 2m 以下の場合 (P.7 参照)

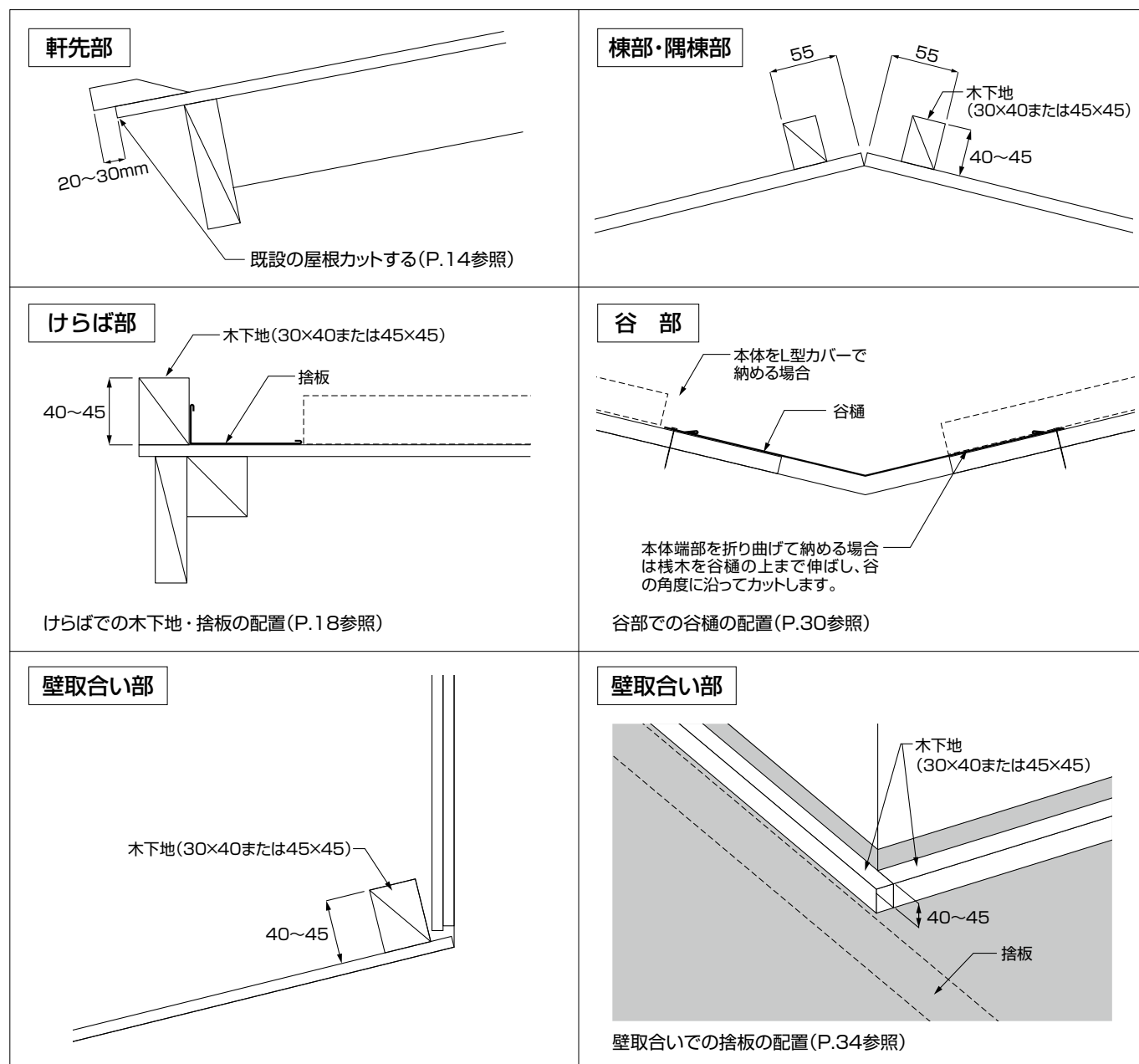
葺き始めの軒ライン、及び1段目重ねライン、横継ぎラインには、両面プチルテープ(現場手配)を貼り、下葺材を葺いてください。



6-3 下木下地及び役物の納まり

⚠ 注意

桟木取付け前に先行して、木下地及び役物の取付け加工を行います。

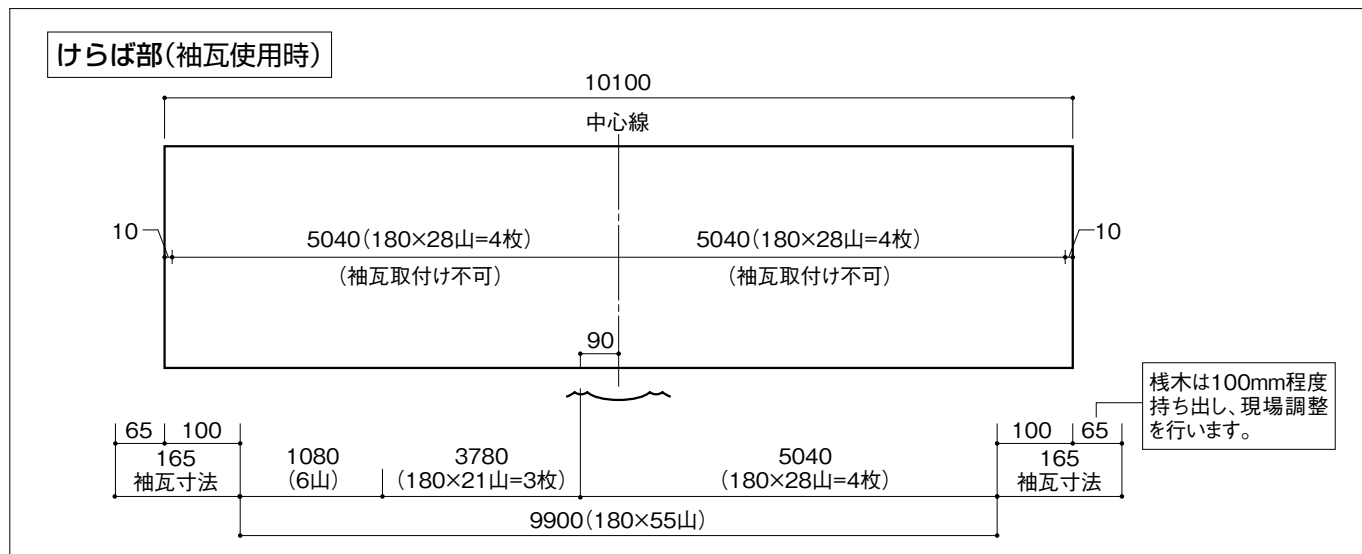


※桟木施工後、桁行の中心墨を入れてください。

※けらば部で左右均等とするのが重要です。

6-4 割付け・墨出し

割付け例



山部を中心線に合わせ、左右均等に割付けることが重要であり、桁行長さを屋根1山(180mm)で割り、両端のはみ出し幅が60～150mmとなるよう割付けます。60mm以下、150mm以上の場合は谷部を中心線に合わせて(半山ずらし)割付けをしてください。

計算例

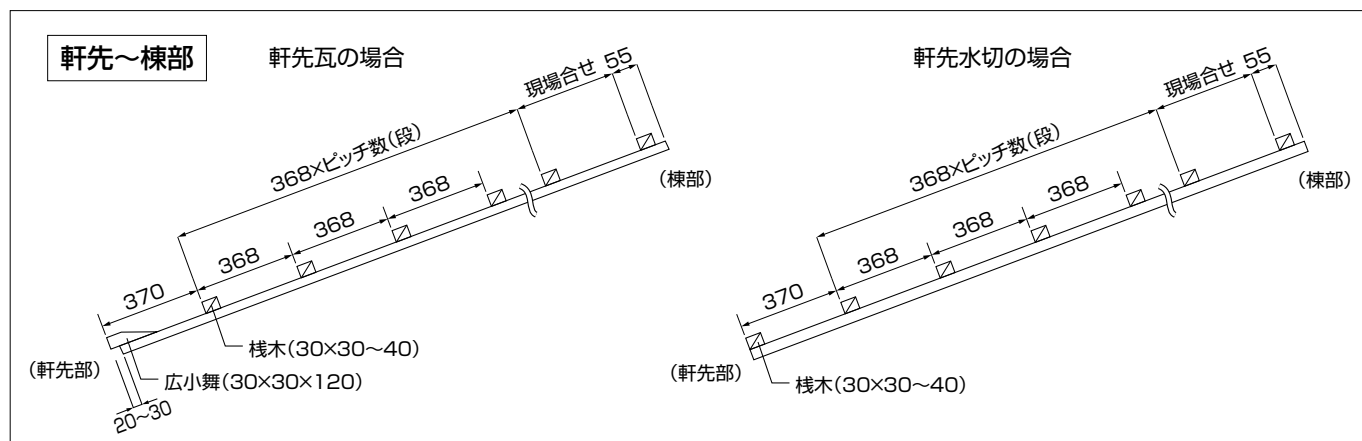
$10100 \div 180 = 56\text{山}(10080) + 20$ 両端端数10mm
中心に山部を合わせるの不可です。

半山(90mm)ずらして検討してください。

$55\text{山}(9900) + 200$ 両端端数100mm
よって中心線より半山ずらして割付けてください。

※けらば役物を使用する場合、中心線に山部を合わせての施工は可能です。

割付け例



栈木の固定

新築・葺替

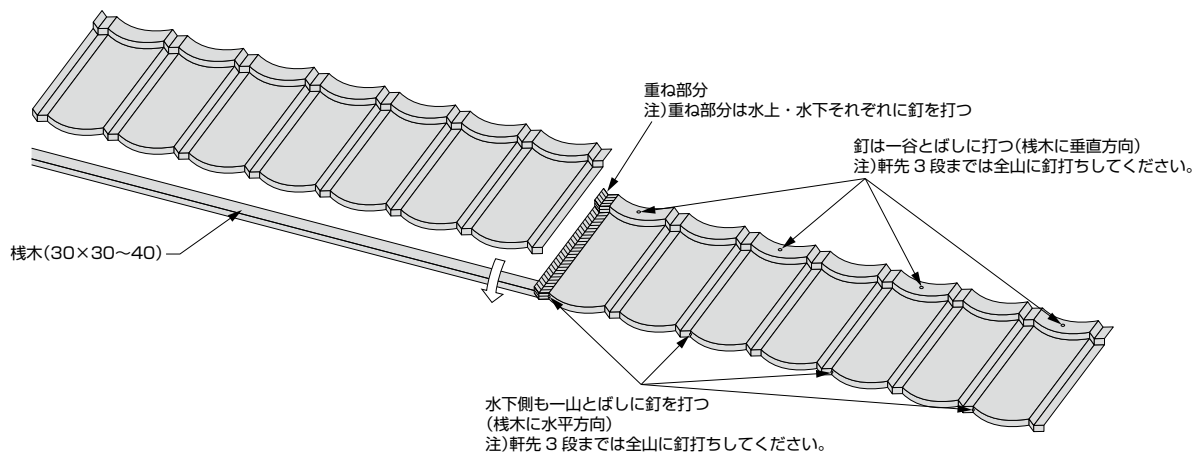
木たるき(@450以下)に対し、L=65の釘またはコーススレッドビスにて固定。

カバー工法

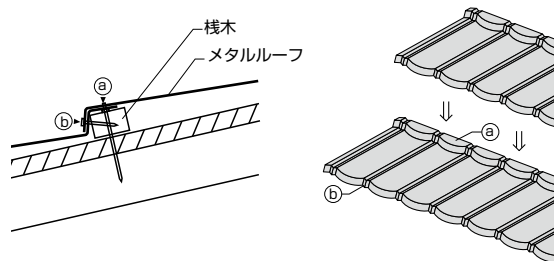
野地板に対し、一般部はピッチ450以下、軒先・けらば・棟部はピッチ300以下にてL=65のコーススレッドビスにて固定。

6-5 屋根材の取付け

- メタルルーフは左右どちらからでも施工が可能です。棟に向かって右から左に施工しますが、地域の風向きを考慮して左から右に施工することも可能です。
- 流れ方向で、横の重ね部は千鳥になるよう施工します。
- けらば部では屋根本体2山以上の長さとしてください。



- 右図㊸の部分は桟木に上から一谷おきに釘止めします。
 - ㊹の部分は一山おきに軒先部から桟木の芯に向かって釘止めします。
- なお、袖瓦は㊸の部分と本体との継ぎ目および側面から桟木に釘止めしてください。



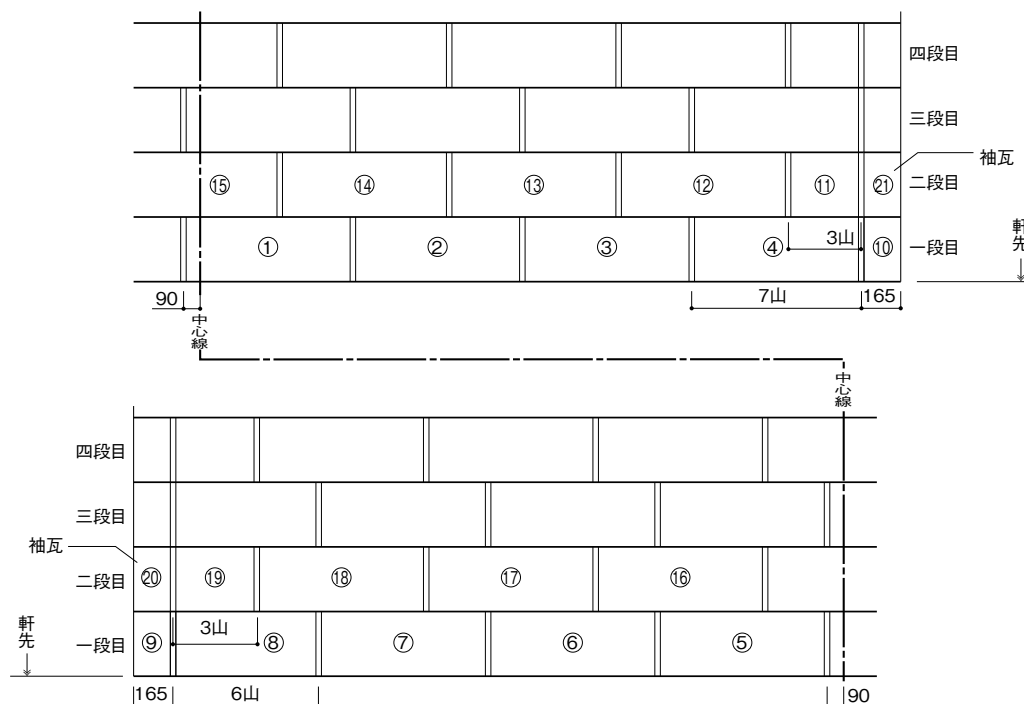
- 左右均等に仕上げるのが重要であり、下図の施工を参照願います。

- 左右均等に仕上げるために

軒先一段目は、中心線より左右に屋根本体の施工を行います。

①～④は左から右に施工を行う。次に⑤～⑧を右から左に施工する。両側の袖瓦⑨、⑩を施工する。

二段目からは⑪の位置より右から左に施工する。

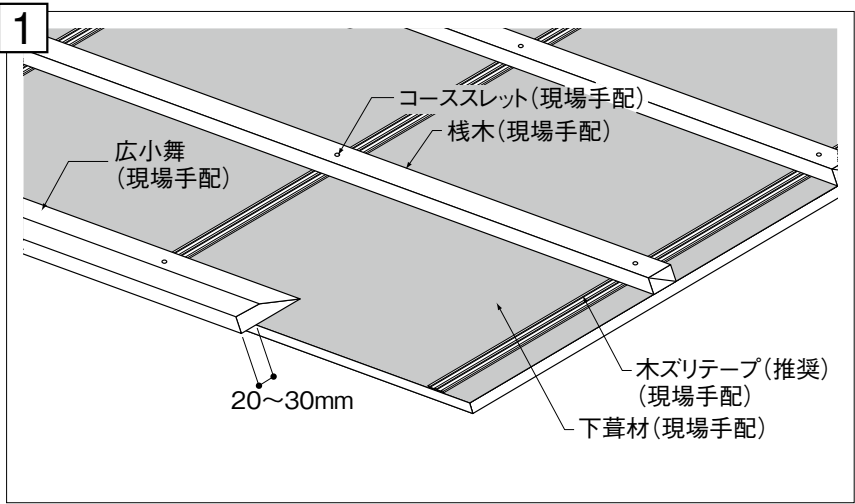
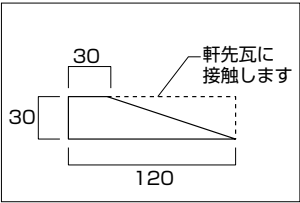


7. 軒先部の納め

7-1 軒先瓦による納め

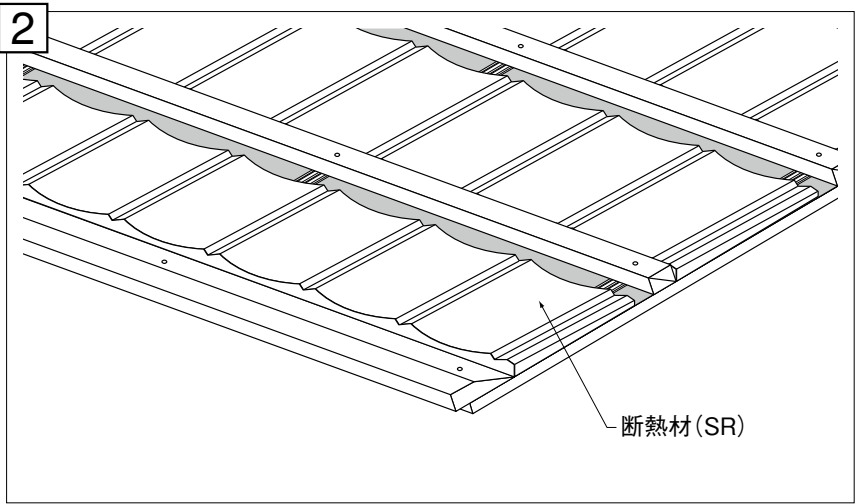
(1) 広小舞と棧木の取付け

広小舞 (30×30×120) を軒先から20～30mmほど出して取付けます。
棧木は (30×30～40) 屋根材の割付に従って取付けます。



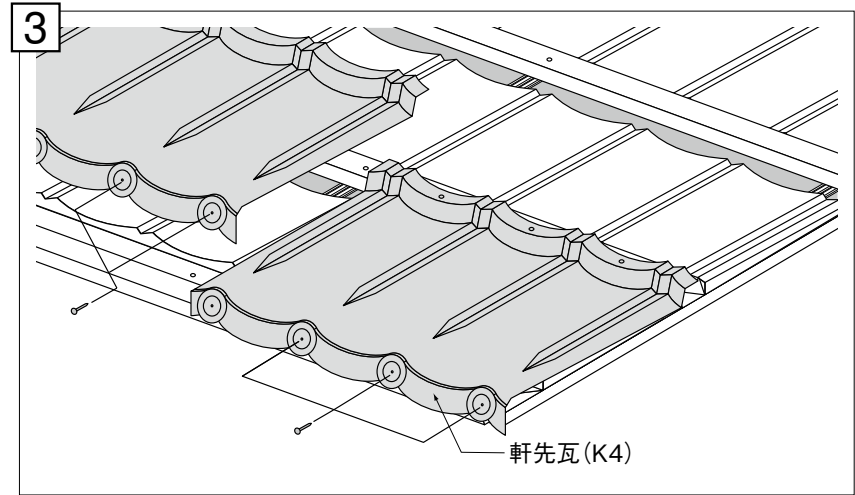
(2) 断熱材の取付け

棧木の間に断熱材を敷きます。

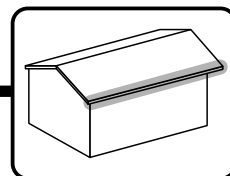


(3) 軒先瓦の取付け

軒先瓦をa広小舞に取付けます。
棧木の水平方向の全山に釘打ちしてください。

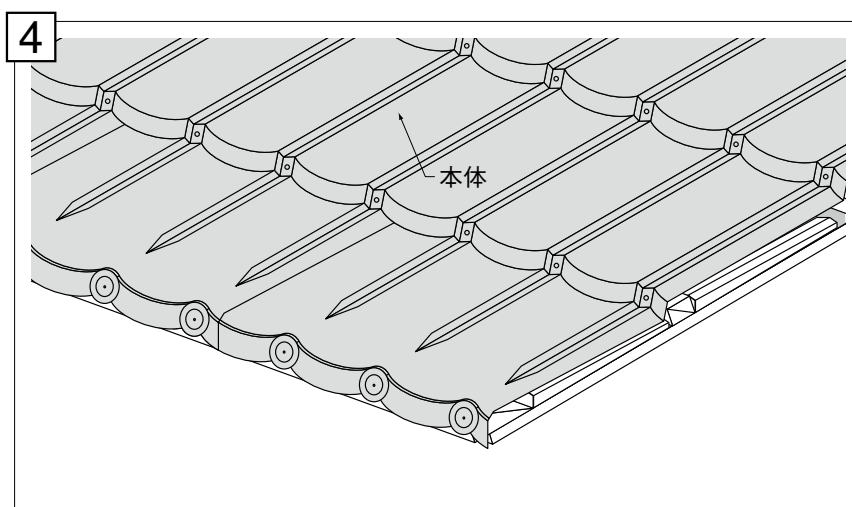


断熱材 SR	軒先瓦 K4



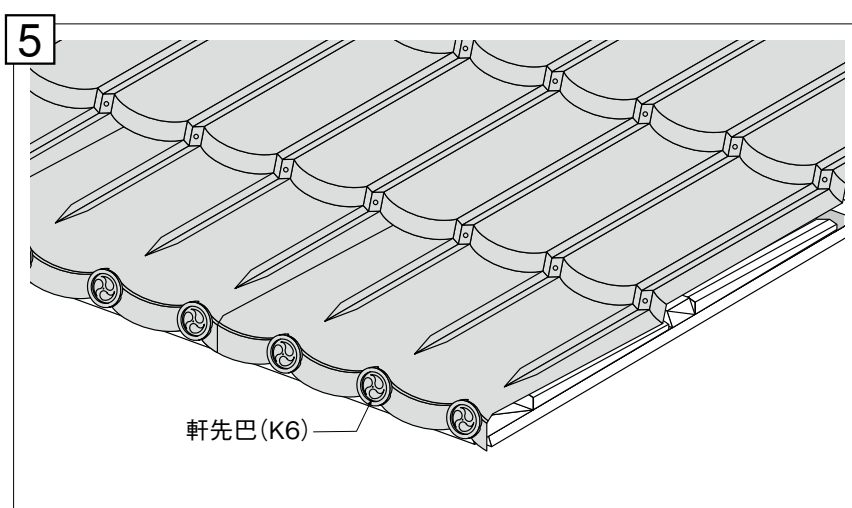
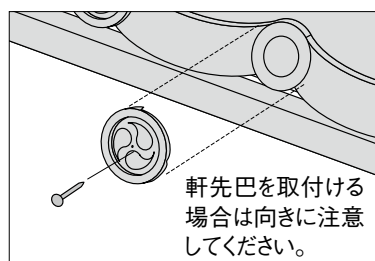
(4) 本体の取付け

本体を取付けます。
水上側は桟木の垂直方向、水下側は桟木の水平方向に、一山ごとに釘を打ってください。



(5) 軒先巴の取付け

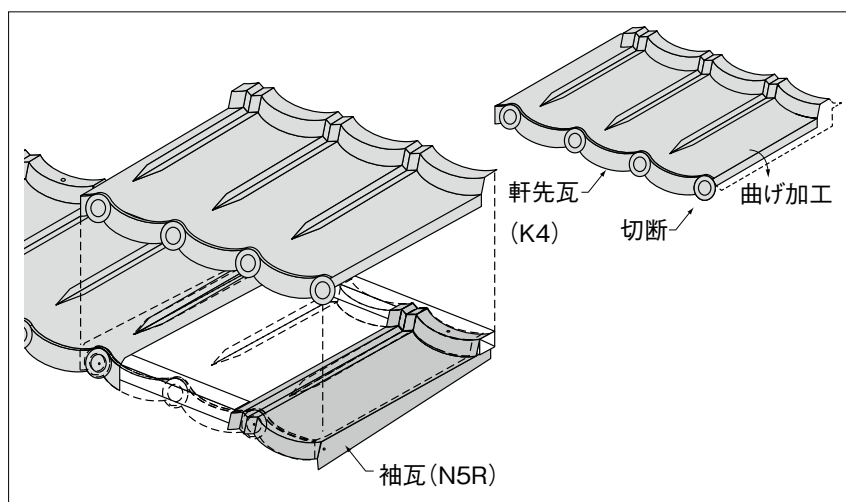
軒先巴は、軒先瓦の波形の曲面に丸飾りを合わせ、中心部からステンレス製のスクリー
ン釘で取付けます。



⚠ 注意

軒先瓦と袖瓦の納まり

けらば唐草を取付けておきます。
袖瓦を軒先一段目に取付けます。
軒先瓦を図の位置で切り、曲げ加工し袖瓦に
被せて取付けます。

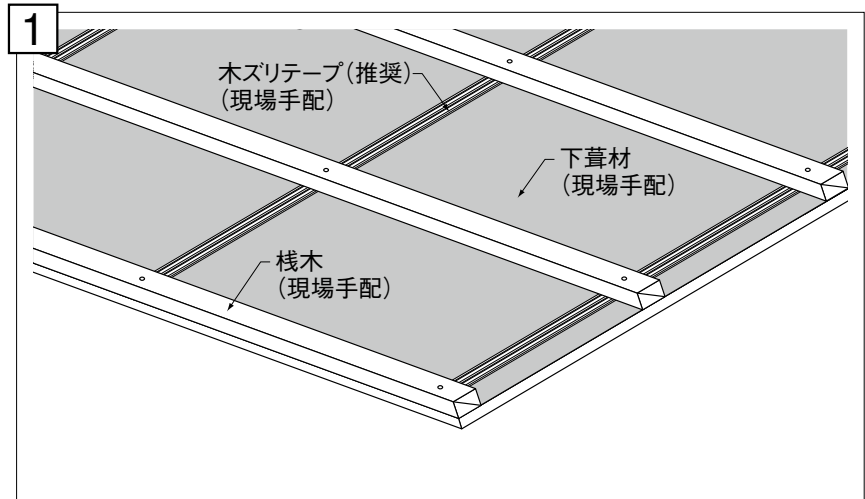


軒先巴 K6	袖瓦 N5 (L・R)

7-2 屋根材本体による軒先納め

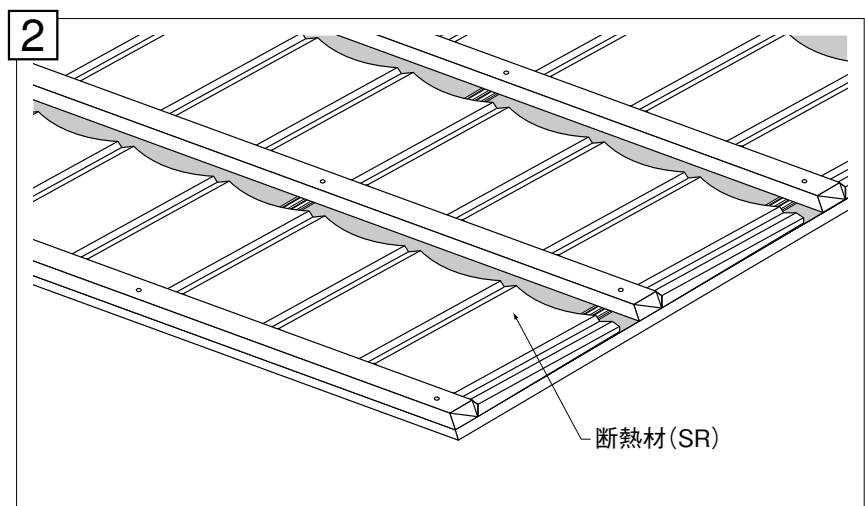
(1) 栈木の取付け

栈木(30×30～40)を軒先から屋根材の割付けに従って取付けます。



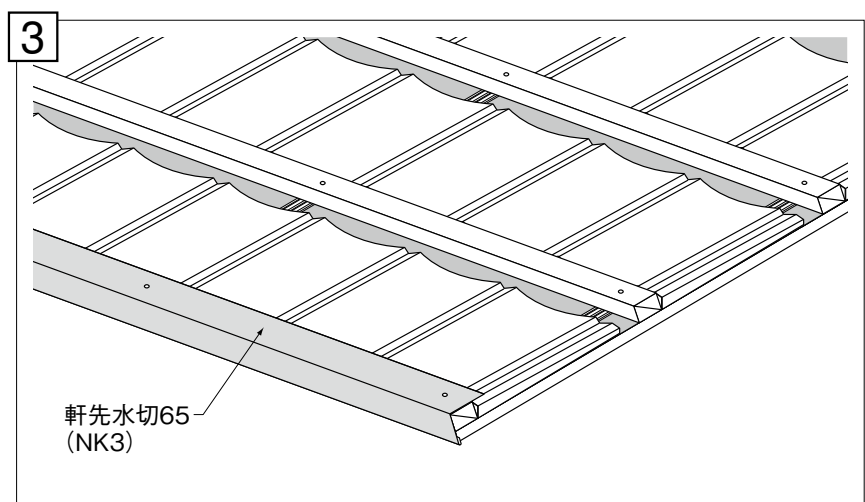
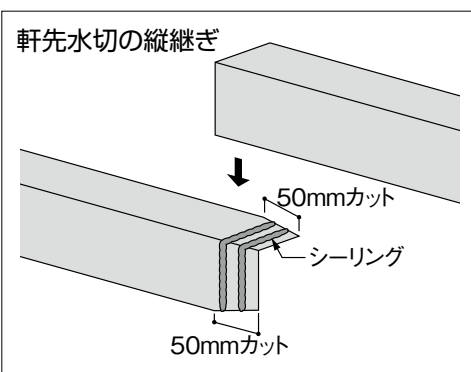
(2) 断熱材の取付け

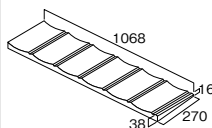
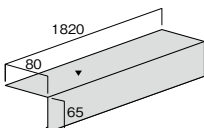
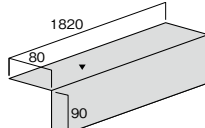
栈木の間に断熱材を敷きます。

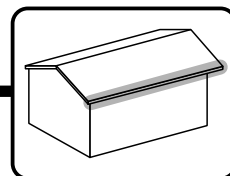


(3) 軒先水切の取付け

軒先水切65を軒先の栈木に取付けます。

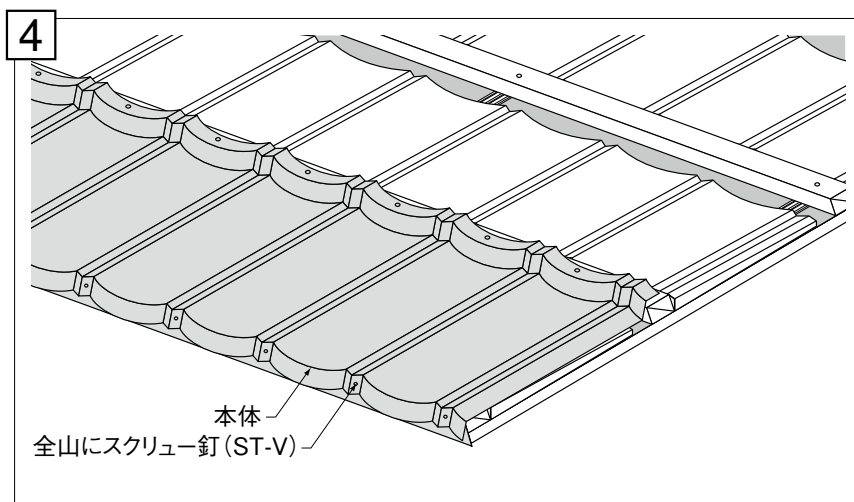


断熱材 SR	軒先水切65 NK3	軒先水切90 NK2
		

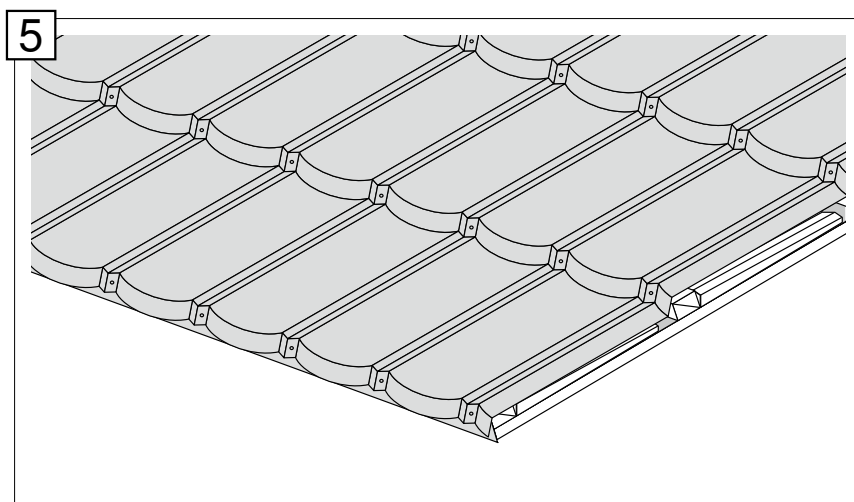


(4) 本体の取付け

軒先から本体を取付けていきます。



(5) 順次葺き上げます。

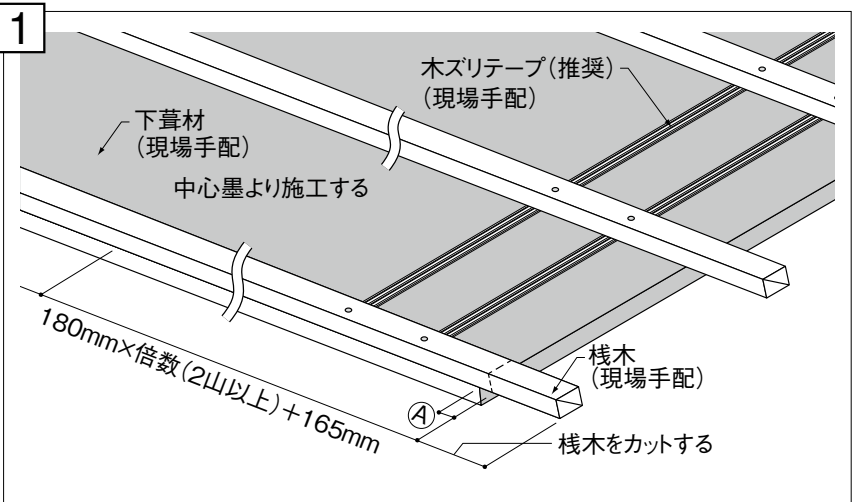


8. けらばの納め

8-1 袖瓦による納め

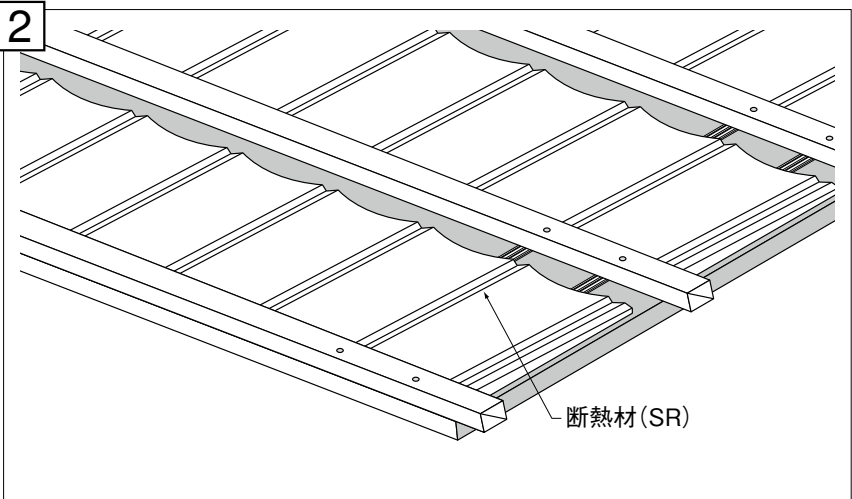
(1) 栈木の取付け

栈木(30×30～40)を図のように割付けに合わせて、けらば部から持ち出して取付けます。
 ④寸法について、袖瓦の出寸法に合わせて栈木を切断します。



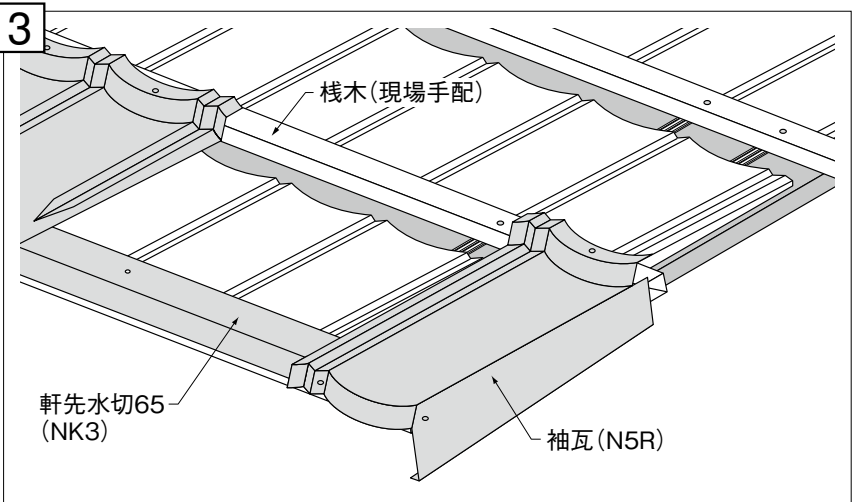
(2) 断熱材の敷き込み

栈木の間に断熱材を敷きます。

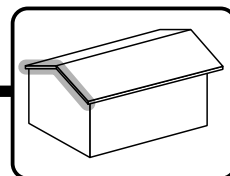


(3) 軒先瓦・袖瓦の取付け (一段目)

軒先瓦を取付けます。
 軒先瓦一枚分を残して、一段目の袖瓦を取付けます。



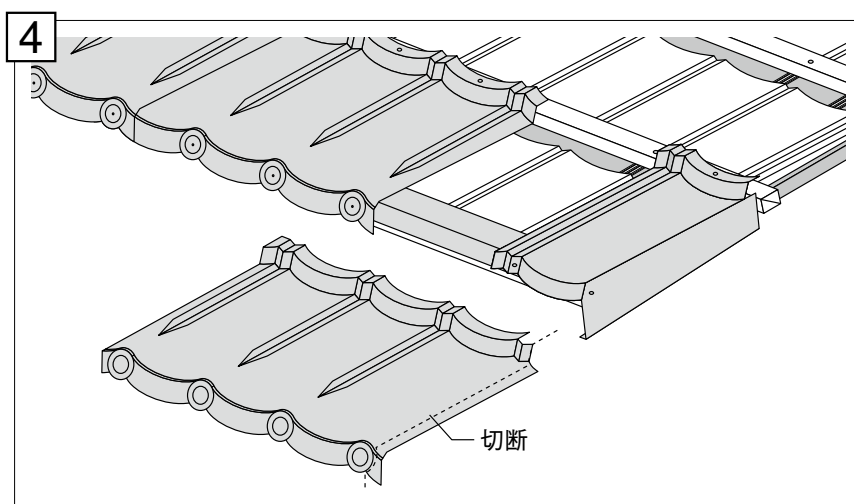
断熱材 SR	軒先水切65 NK3	軒先水切90 NK2	軒先瓦 K4	袖瓦 N5 (L・R)



(4) 軒先瓦の取付け

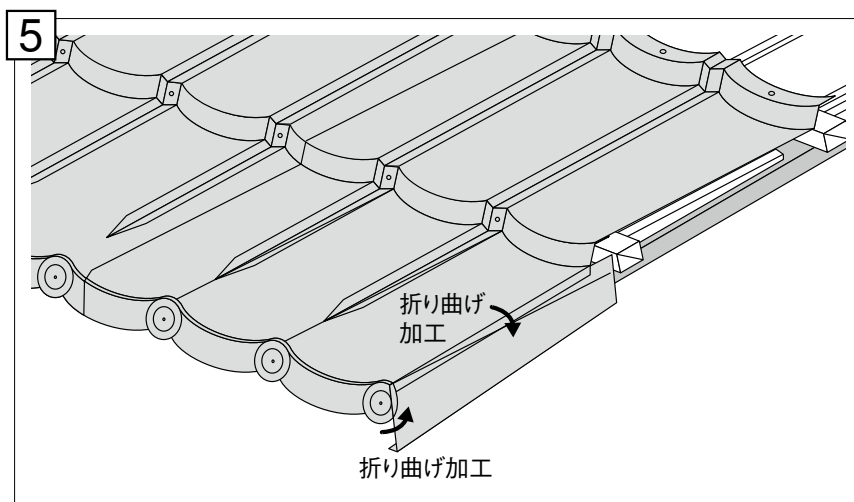
軒先瓦を切断・加工して取付けます。

※軒先瓦と袖瓦の収まりは P.15 参照



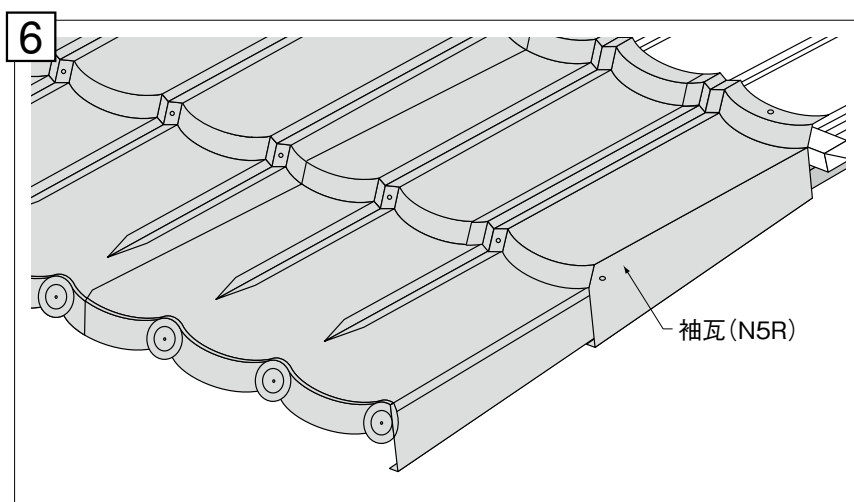
(5) 二段目以降の取付け

二段目以降は本体を先に施工します。
施工後に袖瓦(二段目)を取付けます。



(6) 袖瓦の取付け

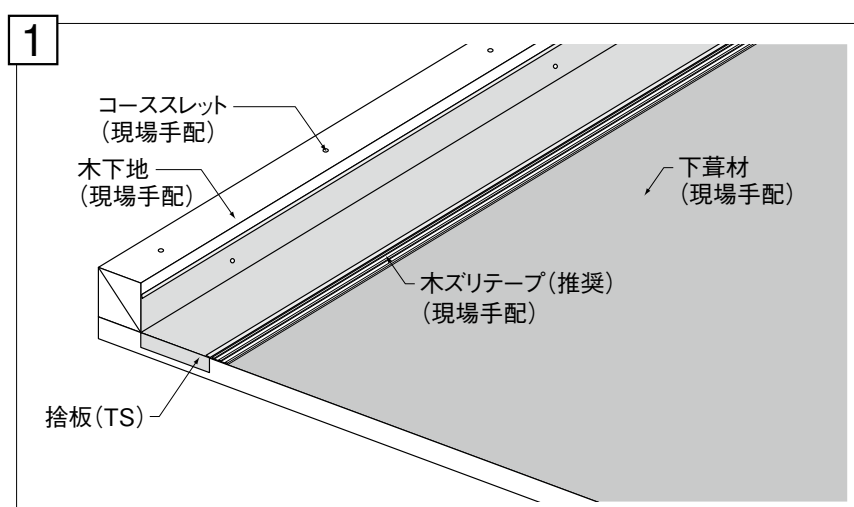
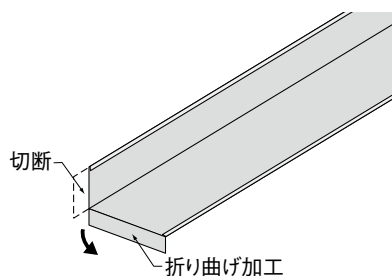
袖瓦を取付けます。



8-2 けらばによる納め

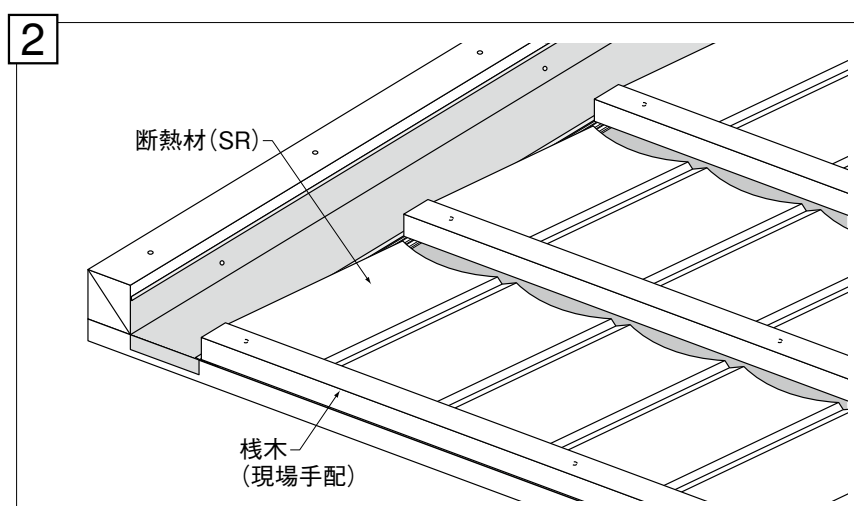
(1) 捨板の取付け

木下地(30×40または45×45)を取付けます。
長さ90mm以上のコーススレット等を用い、
300mm以下の間隔で固定します。
現場加工した捨板を釘で固定します。



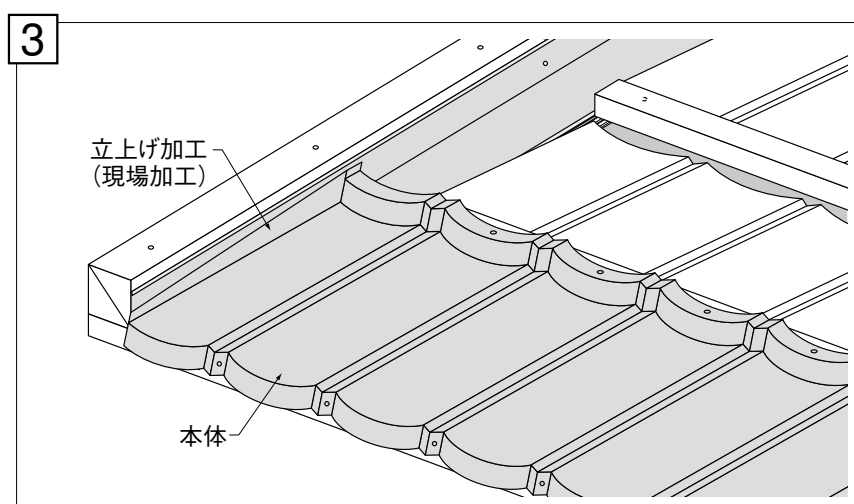
(2) 栈木・断熱材の施工

捨板の位置まで栈木(30×30～40)を取付け、
栈木の間に断熱材を敷きます。

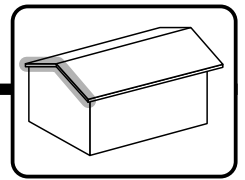


(3) 本体の取付け

本体に立上げ加工を施して、葺いていきます。

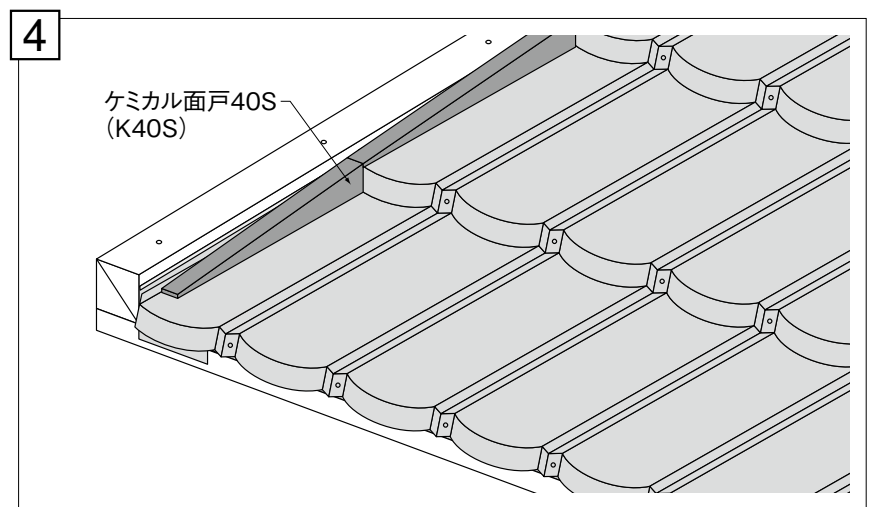


捨板 TS	断熱材 SR



(4) ケミカル面戸の取付け

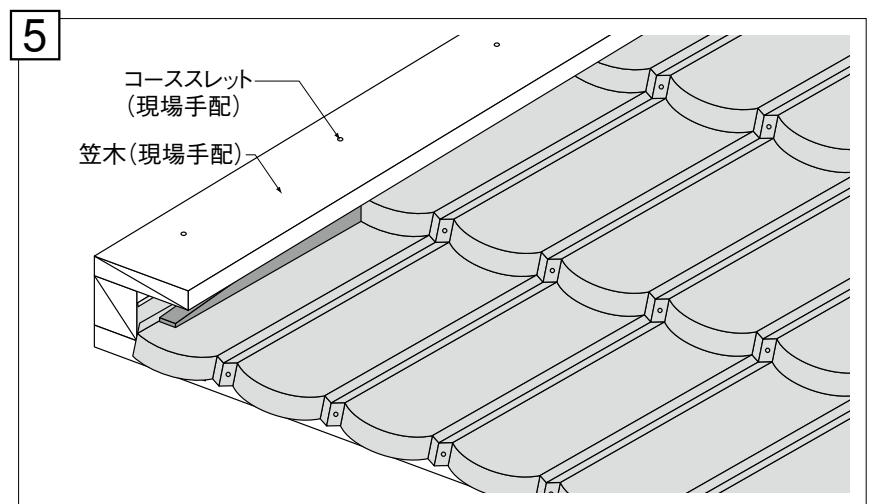
ケミカル面戸40Sを取付けます。



(5) 笠木の取付け

笠木(18～24×105)を取付けます。

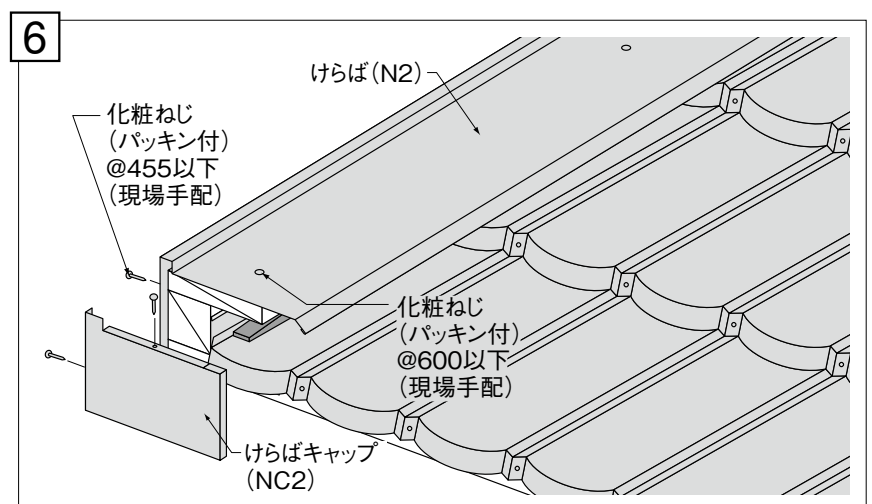
長さ90mm以上のコーススレット等を用い、300mm以下の間隔で固定します。



(6) けらば・けらばキャップの取付け

けらばを取付けます。

けらばキャップは左右兼用のため、加工して納めてください。



ケミカル面戸40S K40S	けらば N2	けらばキャップ NC2
		※左右兼用

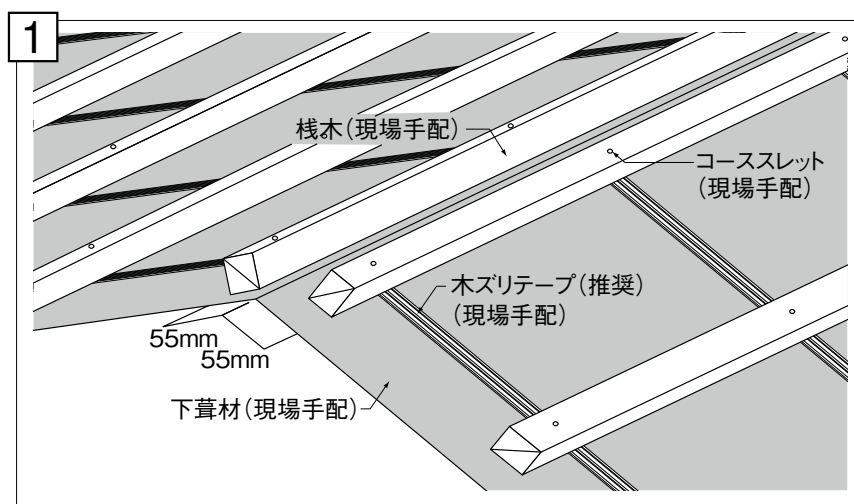
9. 主棟部の納め

9-1 平棟による納め

(1) 栈木の取付け

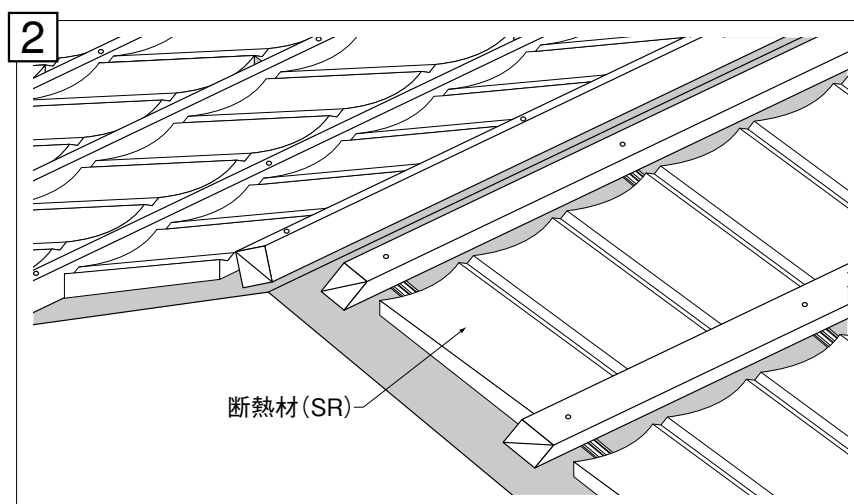
棟芯より、55mmのところへ栈木(30×40または45×45)を取付けてください。

長さ90mm以上のコーススレット等を用い、450mm以下の間隔で固定します。



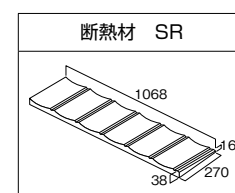
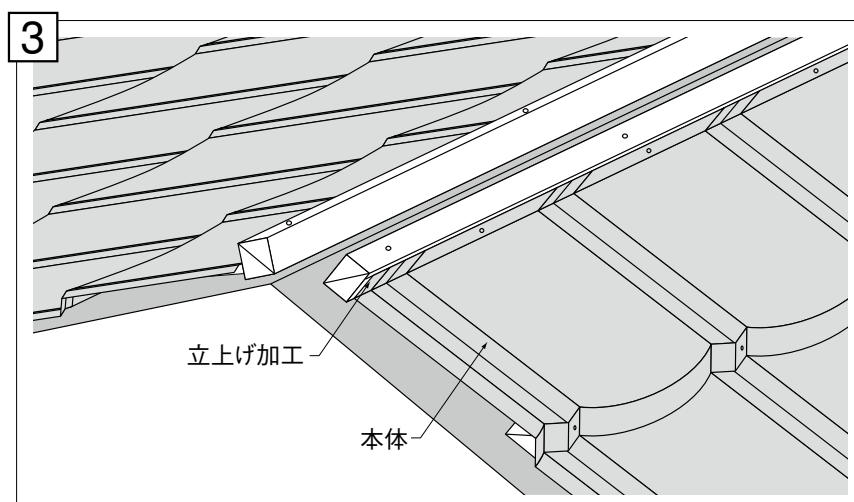
(2) 断熱材の敷き込み

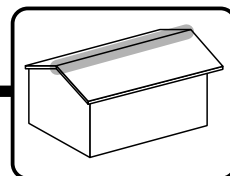
栈木の間に断熱材を敷きます。



(3) 本体の取付け

本体に立上げ加工を施して、栈木に固定します。

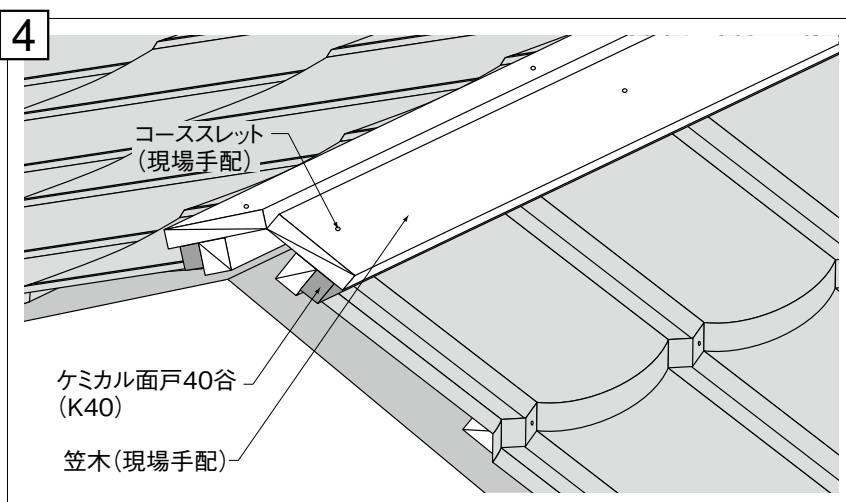




(4) ケミカル面戸・笠木の取付け

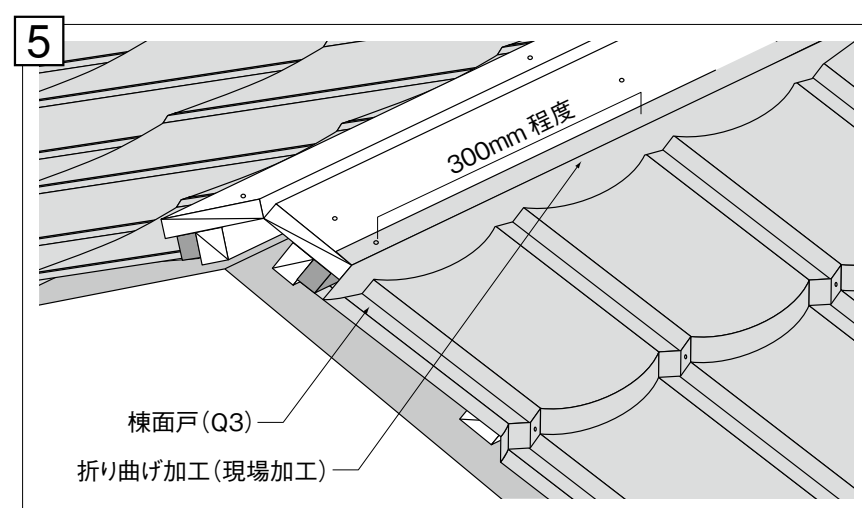
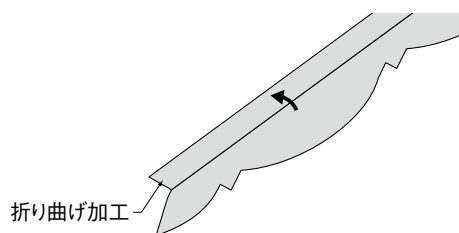
ケミカル面戸40谷を本体立上げ部に取付けます。

笠木(18 ~ 24×105)を長さ75mm以上のコーススレット等を用い、600mm以下の間隔で固定します。



棟面戸の取付け

棟面戸を現場で合わせて、折り曲げ加工し取付けます。(3ヶ所固定)

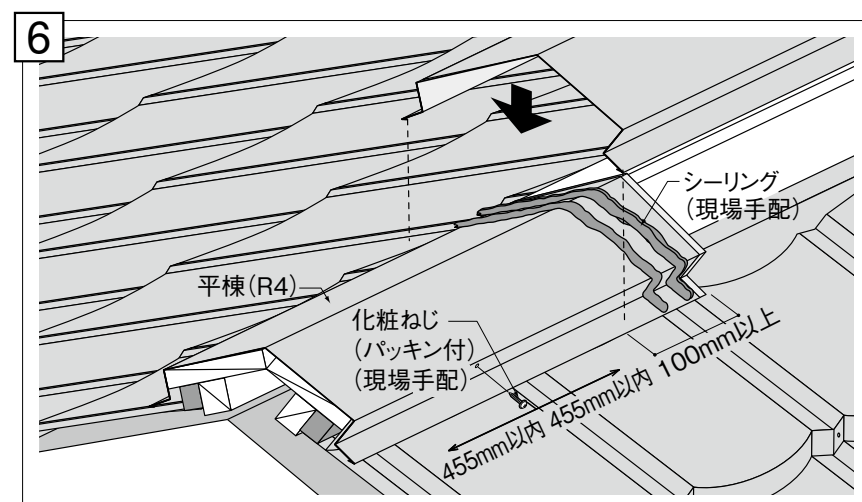


(6) 平棟の取付け

化粧ねじ又は釘で、455mm以下の間隔で固定します。

縦継ぎは、100mm程度重ねます。

重なり部は、2列に分けて十分にシーリングをしてください。



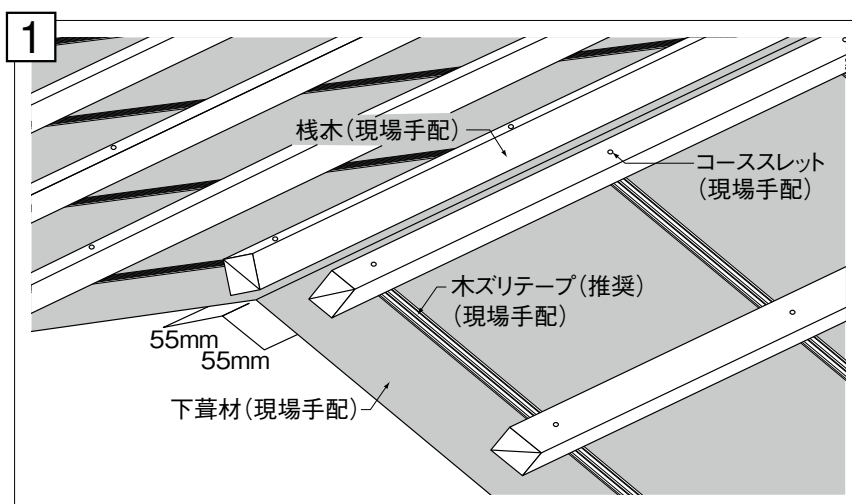
ケミカル面戸40谷 K40	棟面戸 Q3	平棟 R4

9-2 丸棟による納め(屋根本体を切断しない場合)

(1) 栈木の取付け

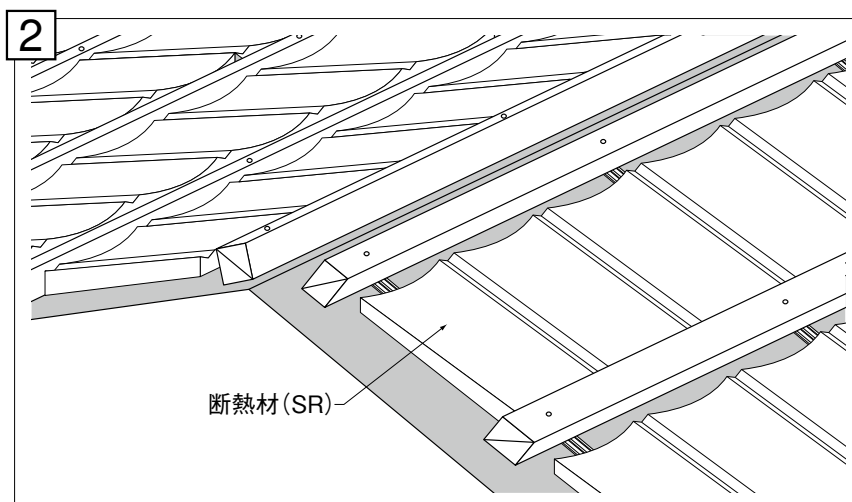
棟芯より、55mmのところへ栈木(30×40または45×45)を取付けてください。

長さ90mm以上のコーススレット等を用い、450mm以下の間隔で固定します。



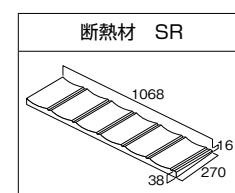
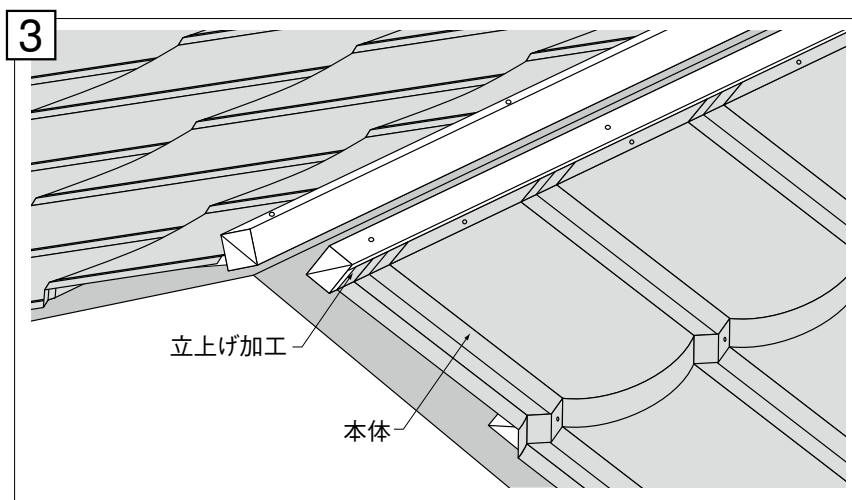
(2) 断熱材の敷き込み

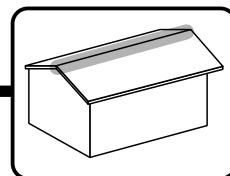
栈木の間に断熱材を敷きます。



(3) 本体の取付け

本体に立上げ加工を施して、栈木に固定します。

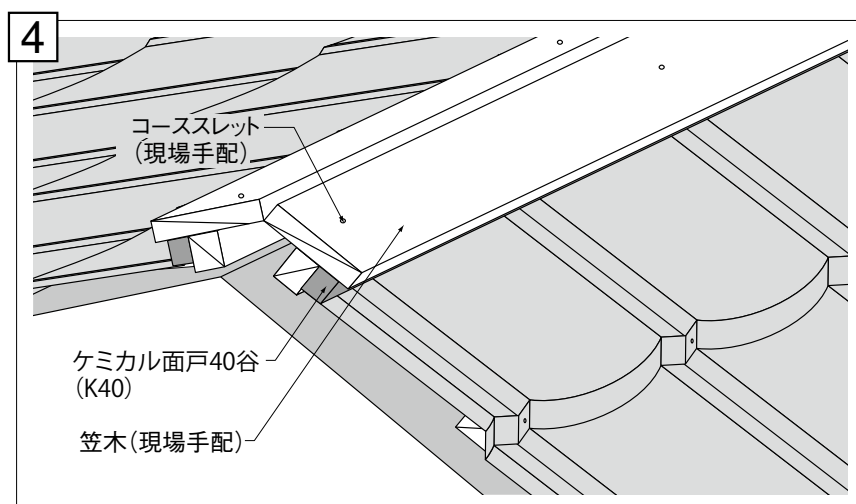




(4) ケミカル面戸・笠木の取付け

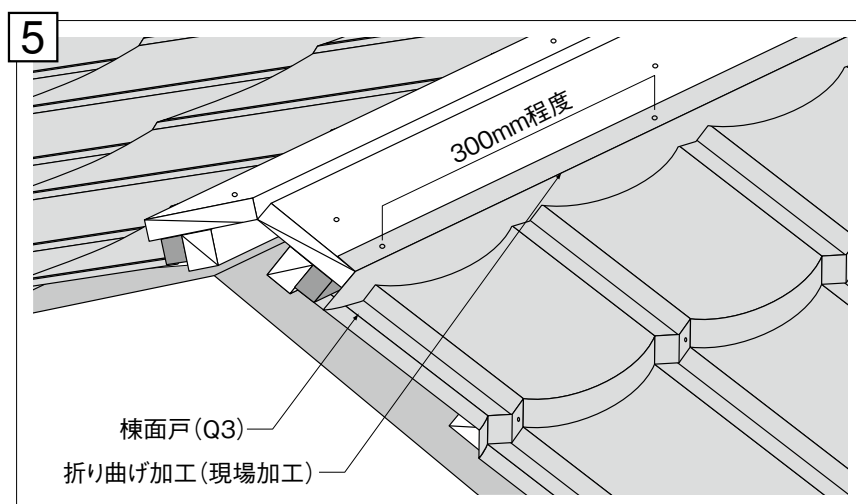
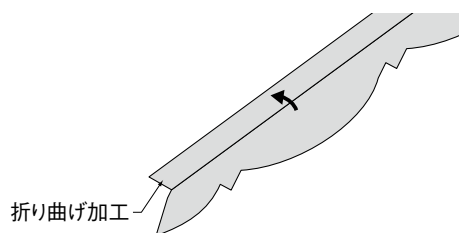
ケミカル面戸40谷を本体立上げ部に取付けます。

笠木(18 ~ 24×105)を長さ75mm以上のコーススレット等を用い、600mm以下の間隔で固定します。



(5) 棟面戸の取付け

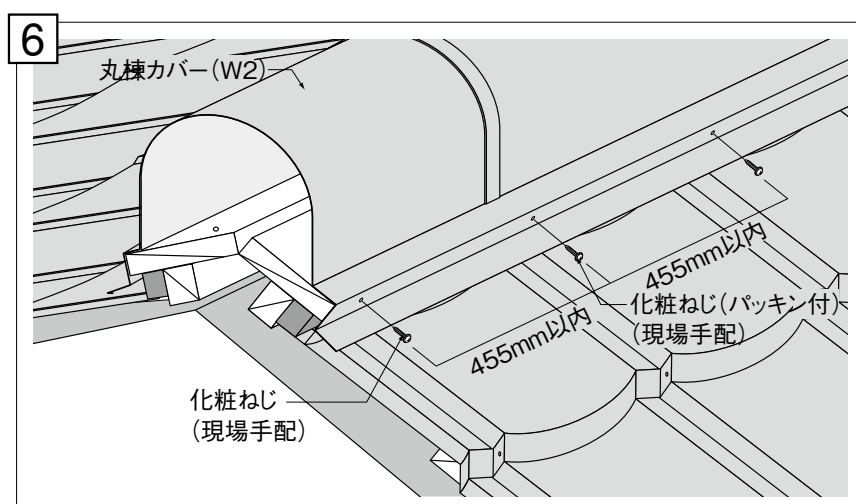
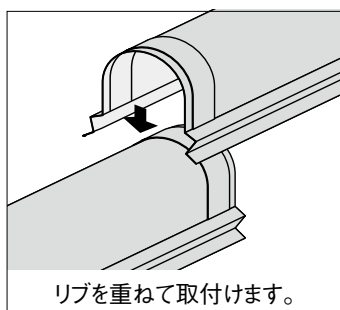
棟面戸を現場で折曲げ加工して笠木に取付けます。(3ヶ所固定)



(6) 丸棟力バーの取付け

化粧ねじまたはスクリュー釘で、455mm 以下の間隔で固定します。

丸棟力バーを使用する場合には、現場で丸棟キャップを加工して開口部を納めてください。



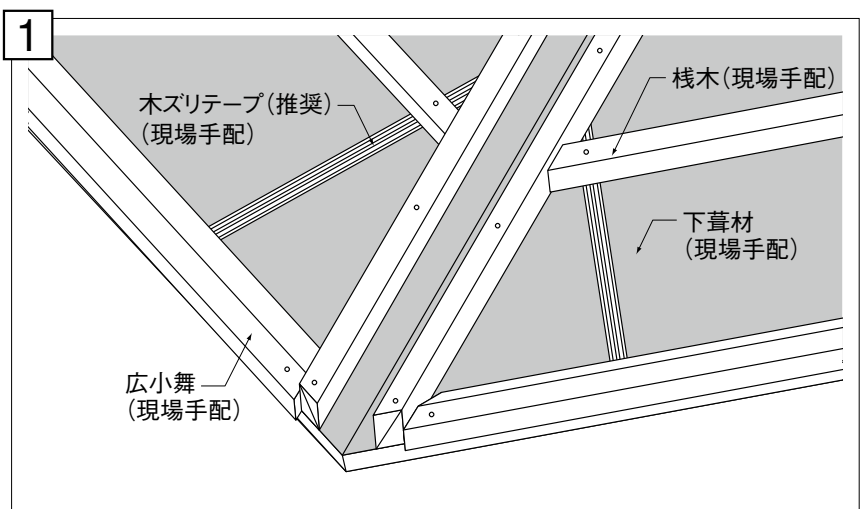
ケミカル面戸40谷 K40	棟面戸 Q3	丸棟力バー W2

10. 降り棟の納め

10-1 降り棟による納め

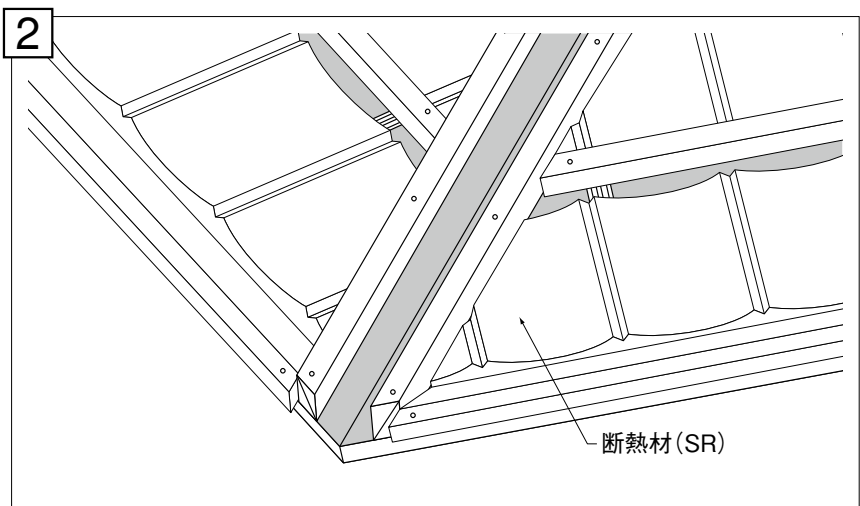
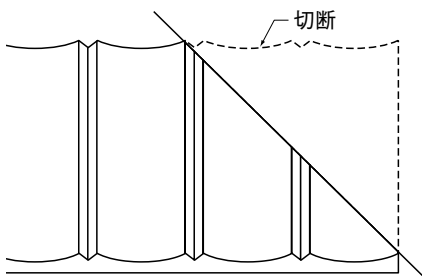
(1) 広小舞と桟木の取付け

広小舞(30×30×120)を軒先から20mmほど出して取付ます。
桟木(30×30~40)は屋根材の割付けに従って取付けます。



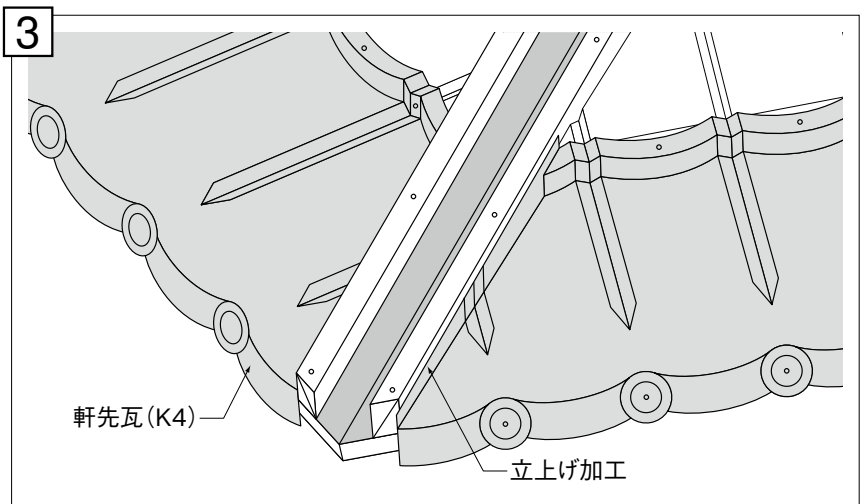
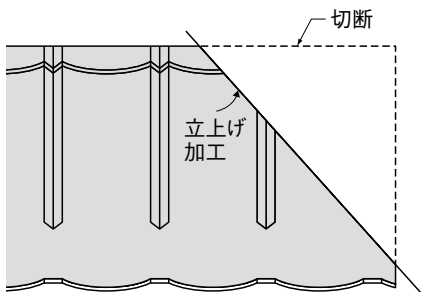
(2) 断熱材の加工・敷き込み

断熱材を斜めに切断して、桟木の間に断熱材を敷きます。

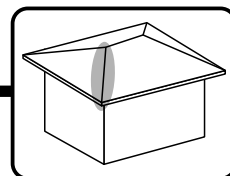


(3) 軒先瓦の加工・取付け

軒先瓦は隅の桟木に合わせ切断・立上げ加工を施して、広小舞および桟木に固定します。

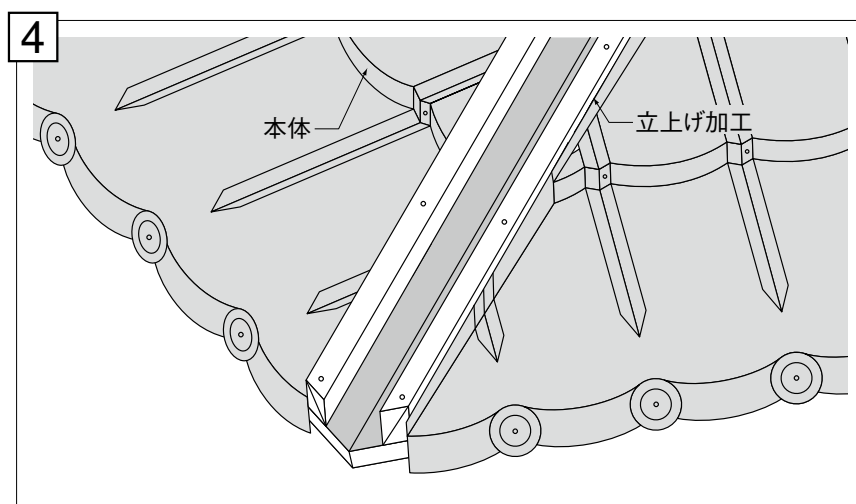


断熱材 SR	軒先瓦 K4



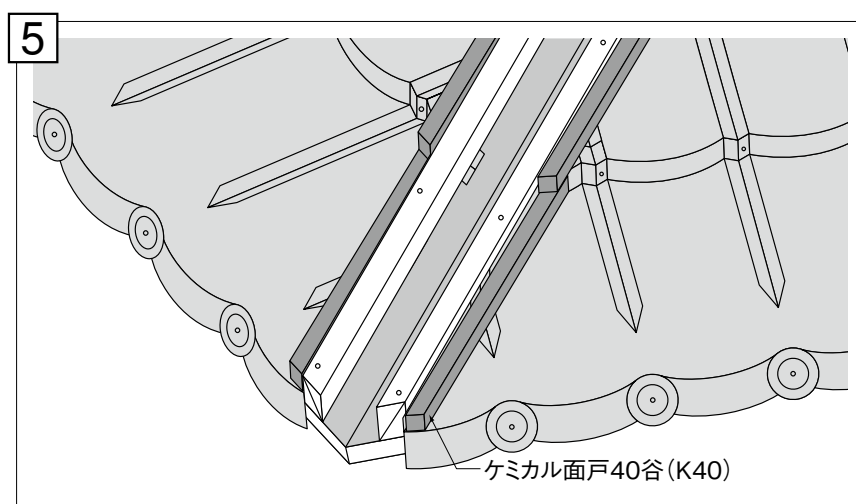
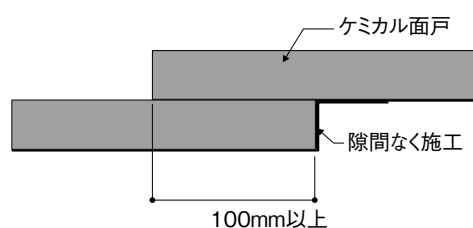
(4) 本体の取付け

本体に立上げ加工を施して、葺いていきます。



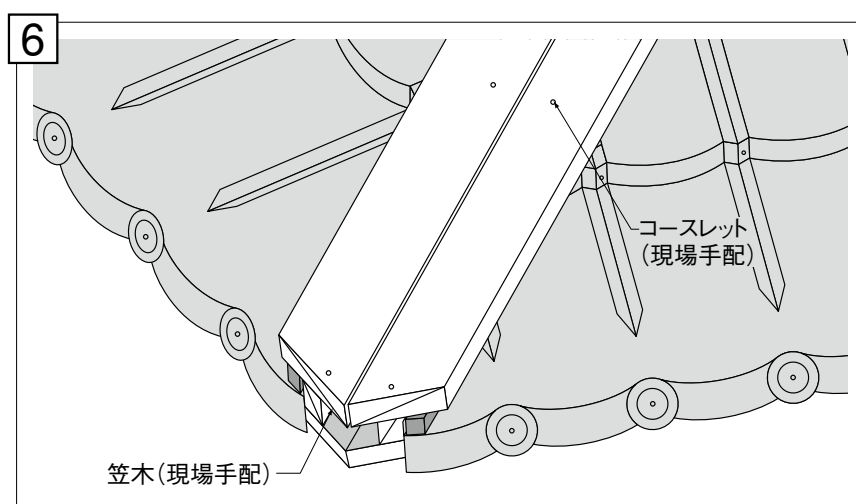
(5) ケミカル面戸の取付け

ケミカル面戸40谷を1段ごとに取付けます。
ケミカル面戸の重なりは100mm以上としてください。

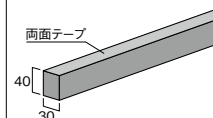


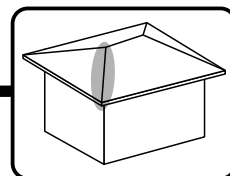
(6) 笠木の取付け

笠木(18 ~ 24×105)を取付けます。
長さ90mm以上のコーススレット等を用い、
450mm以下の間隔で固定します。



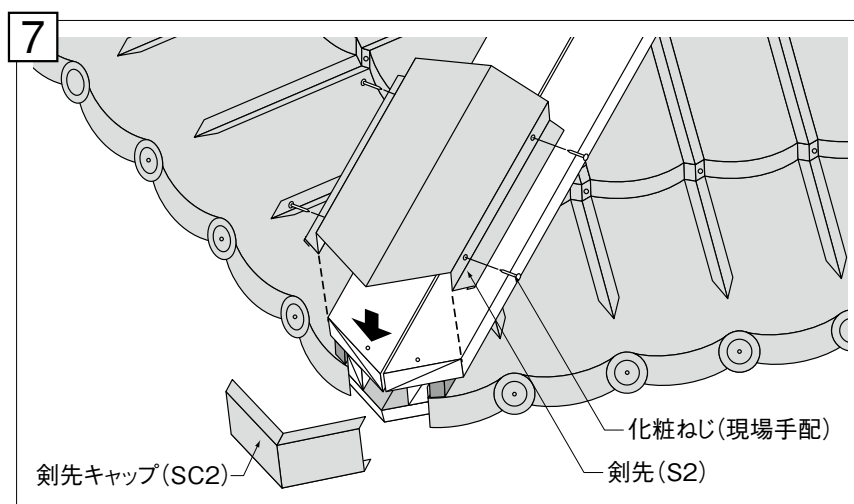
ケミカル面戸40谷 K40





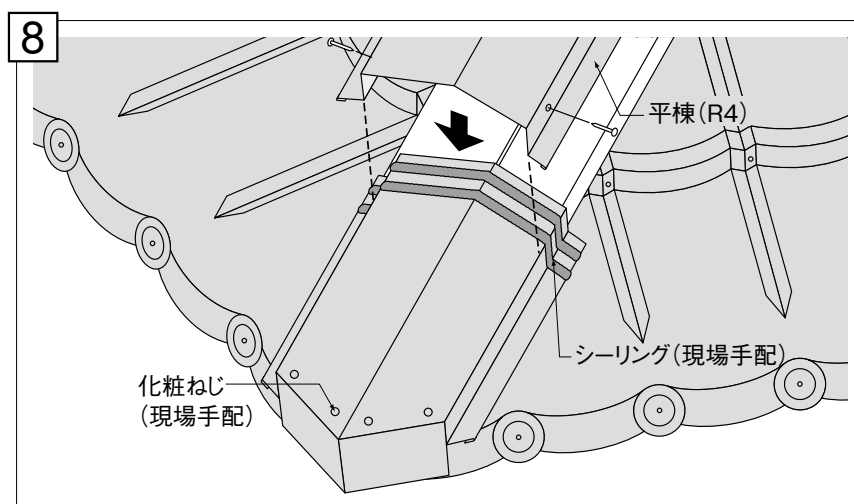
(7) 剣先の取付け

降り棟部の笠木の先端に合わせ取付けます。
化粧ねじ又は釘で、4箇所を固定してください。

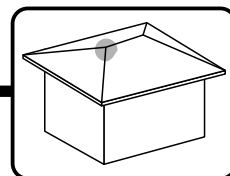


(8) 平棟の取付け

化粧ねじ又は釘で、455mm以下の間隔で固定します。
縦継ぎは、100mm以上重ねます。
重なり部は、2列に分けてシーリングをしてください。

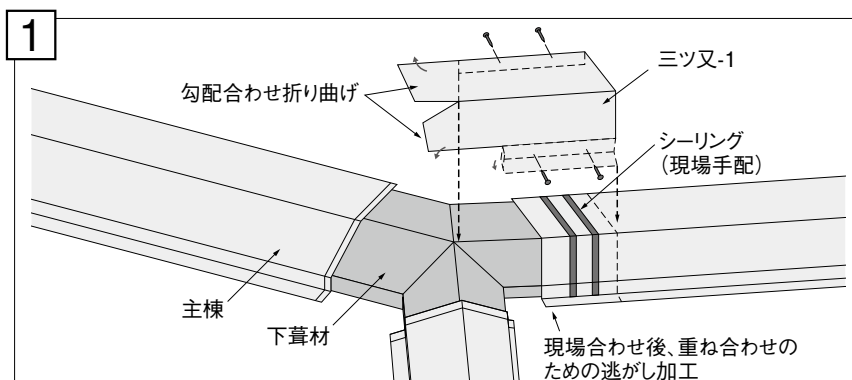


剣先 S2	剣先キャップ SC2	平棟 R4

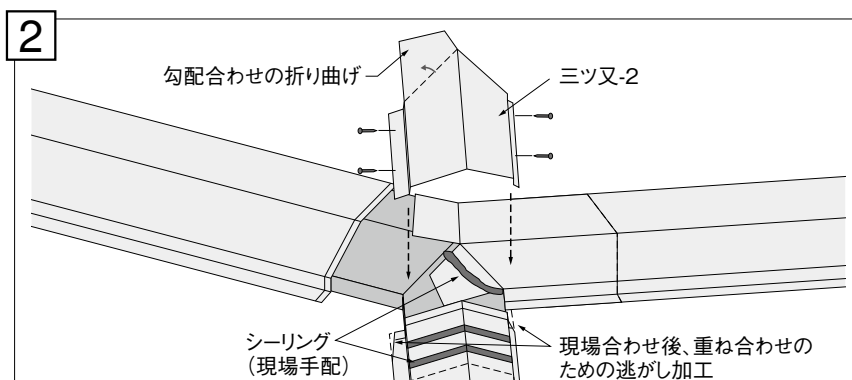


10-2 ミツ又の納め(現場加工)

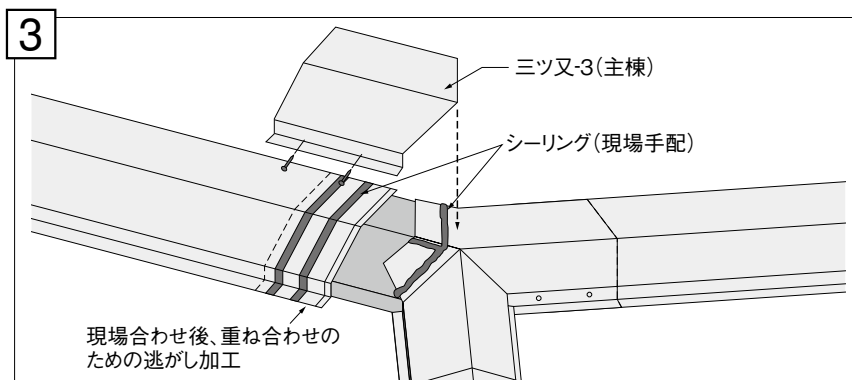
(1) ミツ又-1 (現場加工) の取付け
勾配に合わせ折曲げ、隅棟に取付けてください。



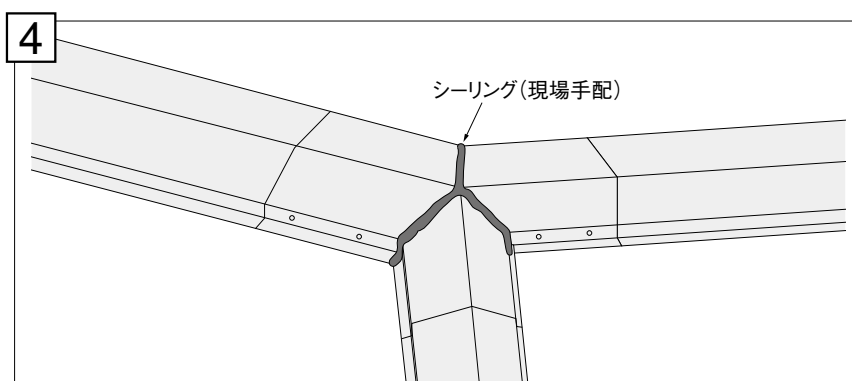
(2) ミツ又-2 (現場加工) の取付け
勾配に合わせ折曲げ、もう一方の隅棟に取付けてください。



(3) ミツ又-3 (現場加工) の取付け
勾配に合わせ折曲げ、主棟に取付けてください。



(4) 仕上げ
ミツ又継ぎ部には、シーリングを改めて行ってください。

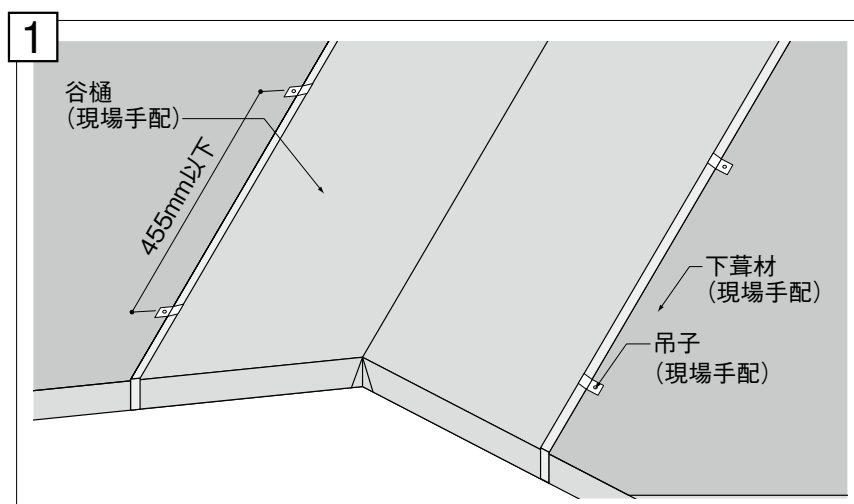


11. 谷樋部の納め

11-1 谷カバーの納め

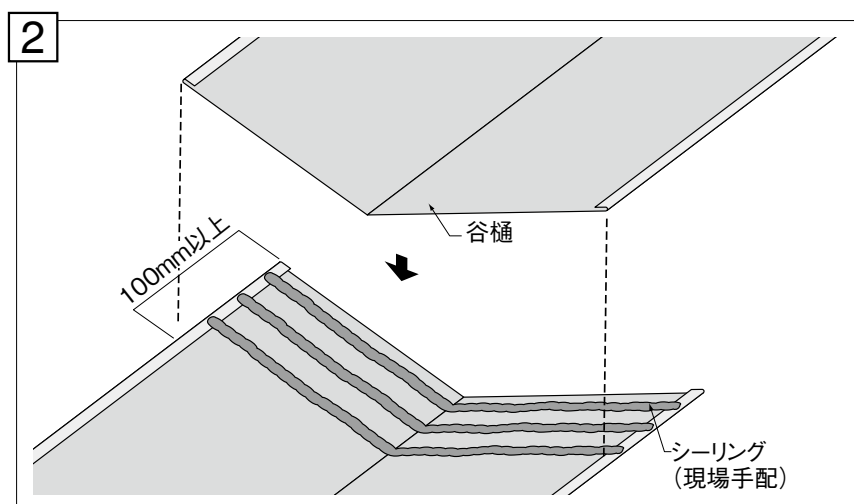
(1) 谷樋の取付け

谷樋は役物用コイルまたはシートより切り出して現場加工し、吊子(現場手配)を介し、455mm以下で固定します。



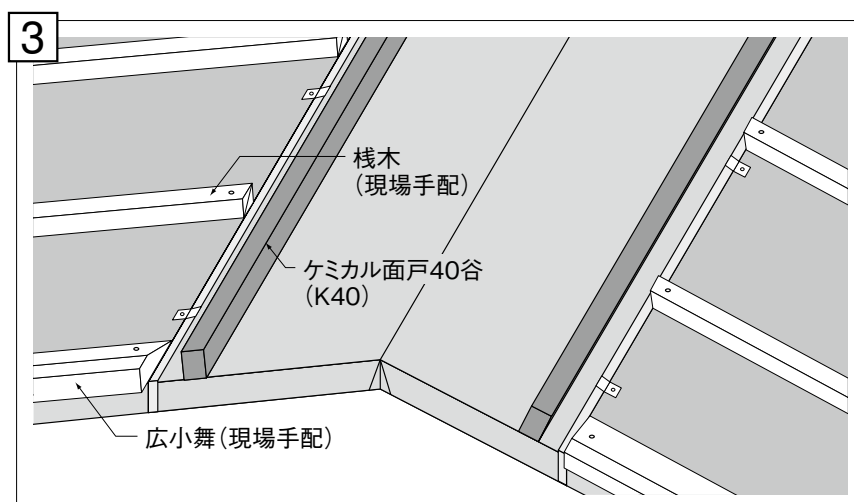
(2) 谷樋の縦継ぎ

縦継ぎは、100mm以上重ねてください。重なり部は3列に分けてシーリングをしてください。

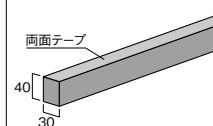


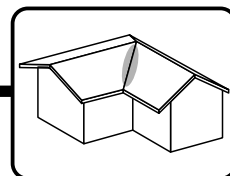
(3) 広小舞・桟木・ケミカル面戸の取付け

ケミカル面戸 40 谷を取付けます。
広小舞 (30×30×120)・桟木 (30×30～40) を取付けます。
広小舞 (を軒先から 20～30mm ほど出して取付けます。
桟木は谷樋の位置に合わせて取付けてください。



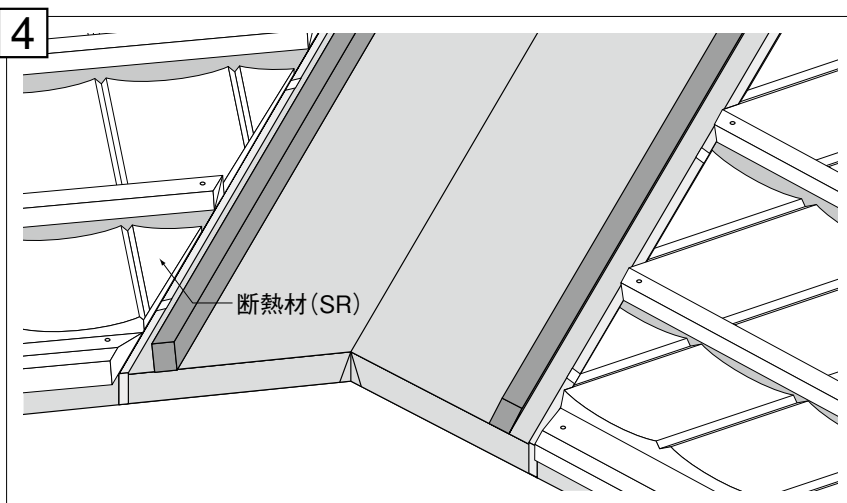
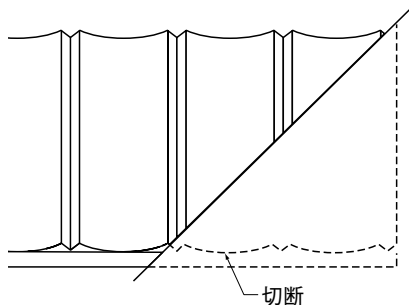
ケミカル面戸40谷 K40





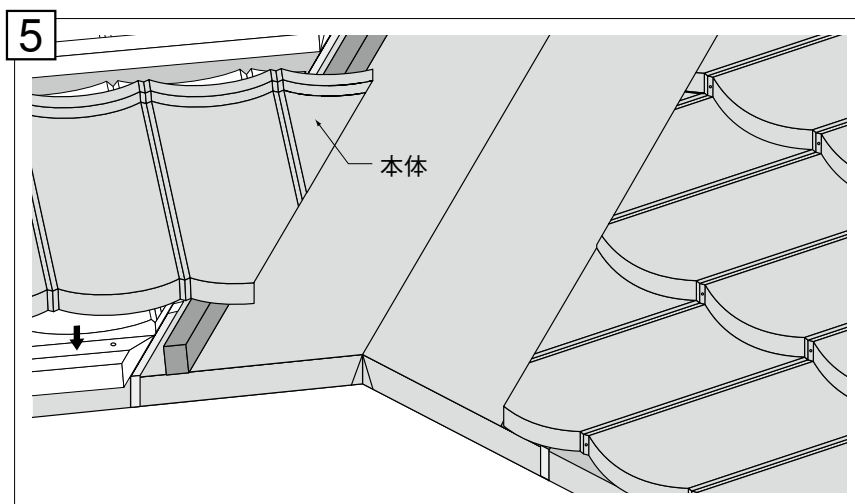
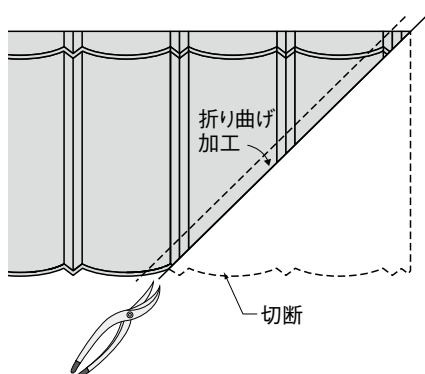
(4) 断熱材の加工・敷き込み

断熱材を斜めに切断して、椀木の間に断熱材を敷きます。



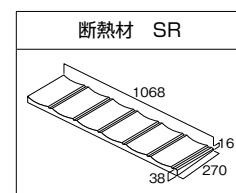
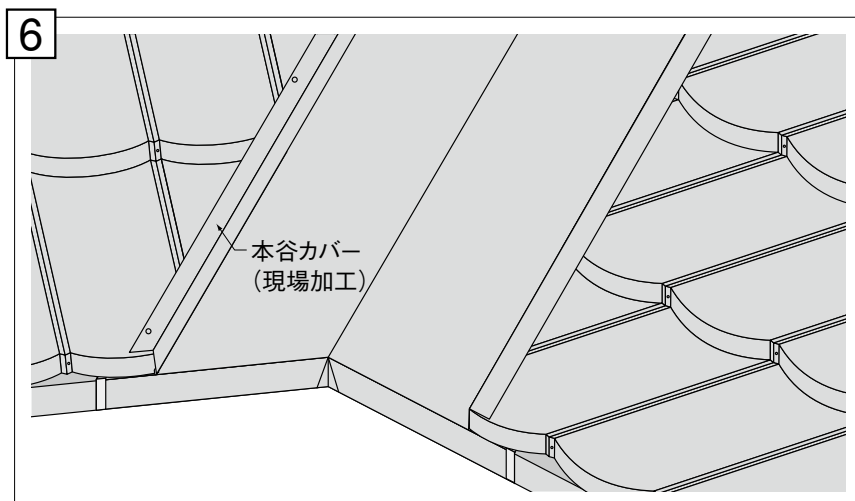
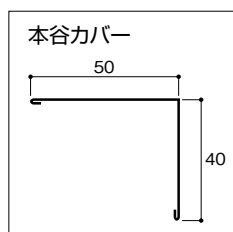
(5) 本体の加工・取付け

本体を斜めに切断して取付けます。



(6) 本谷カバーの取付け

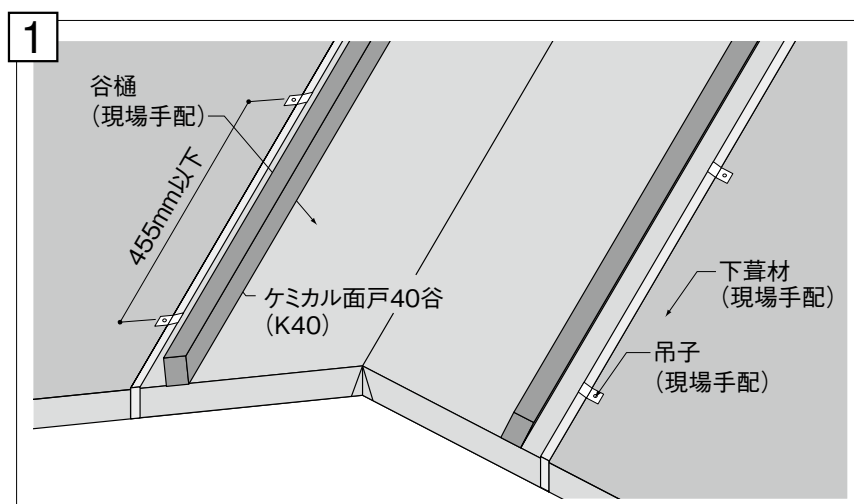
本谷カバーは役物用コイルまたはシートより切り出して現場加工し、化粧ねじを用いて固定します。



屋根材現場加工の場合

(1) ケミカル面戸の取付け

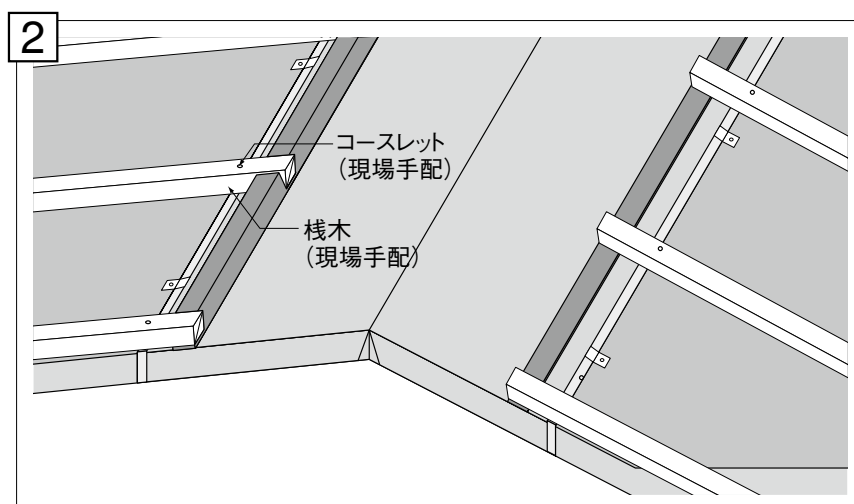
ケミカル面戸を取付けます。



(2) 栈木の取付け

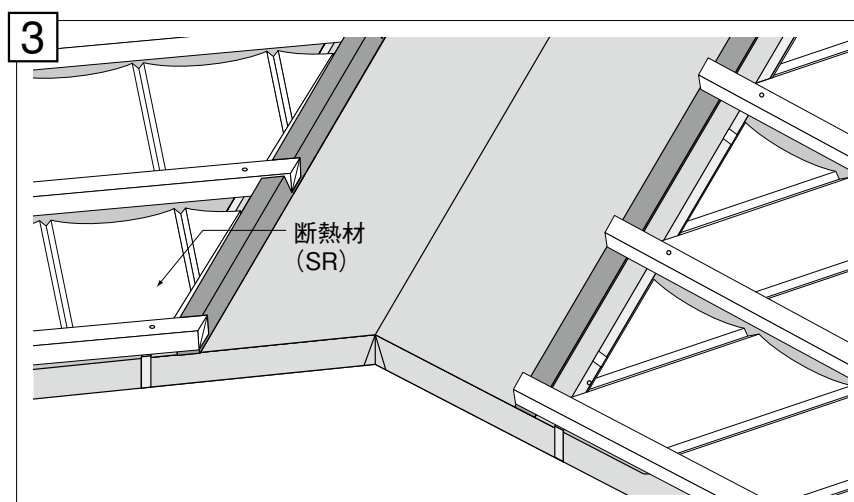
栈木(30×30～40)はケミカル面戸の位置に合わせて取付けてください。

長さ90mm以上のコーススレット等を用い、450mm以下の間隔で固定します。

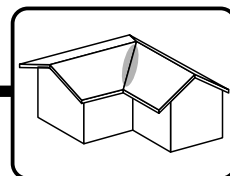


(3) 断熱材の敷き込み

栈木の間に断熱材を敷きます。

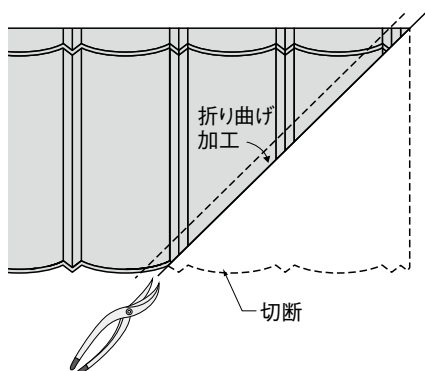


断熱材 SR	ケミカル面戸40谷 K40

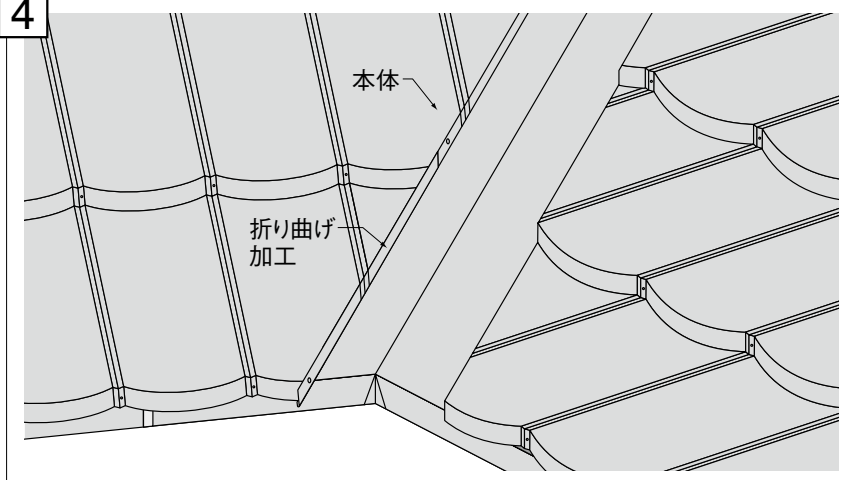


(4) 本体の折り曲げ加工・取付け

本体を斜めに切断し、折り曲げ加工して取付けます。



4

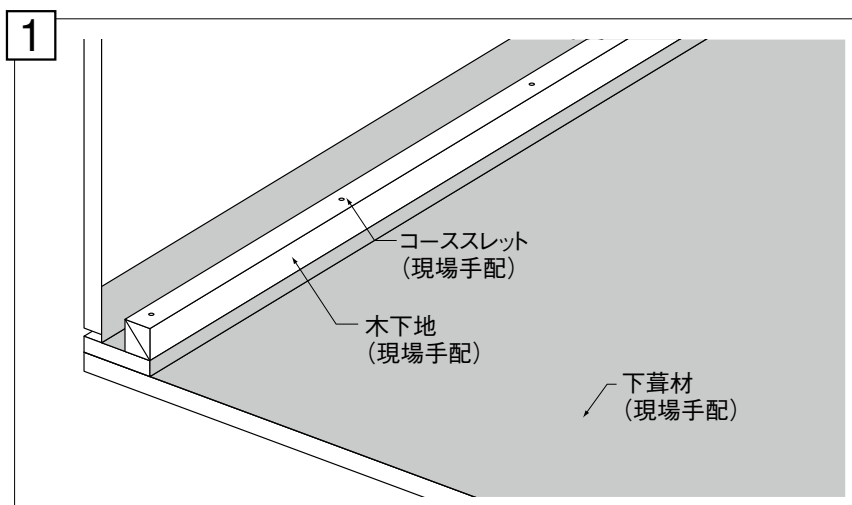


12. 下屋部(壁取合い)の施工方法

12-1 側面雨押え部(流れ方向)

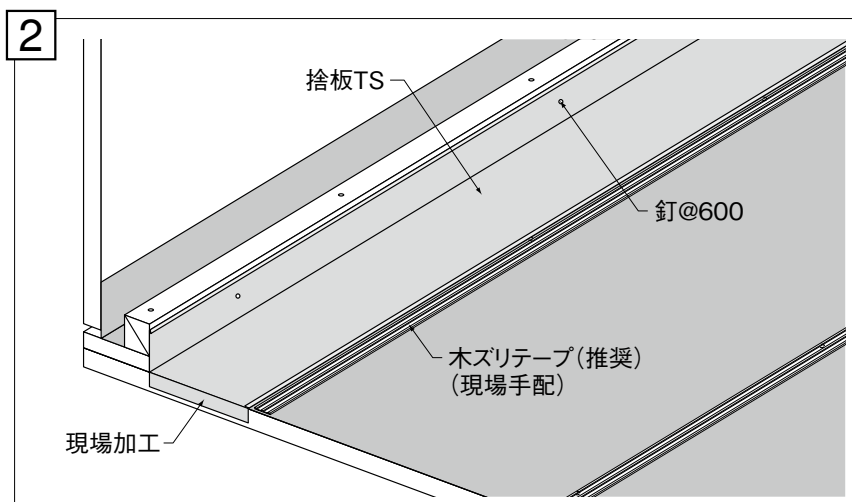
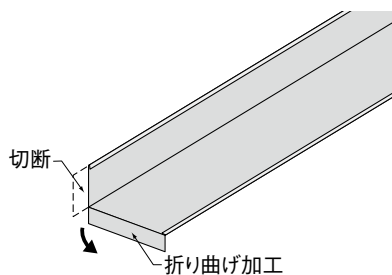
(1) 下葺材・木下地の取付け

木下地(30×40または45×45)を取付けます。
長さ75mm以上のコーススレット等を用い、
300mm以下の間隔で固定します。



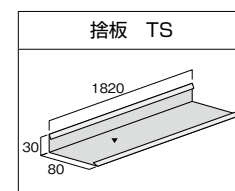
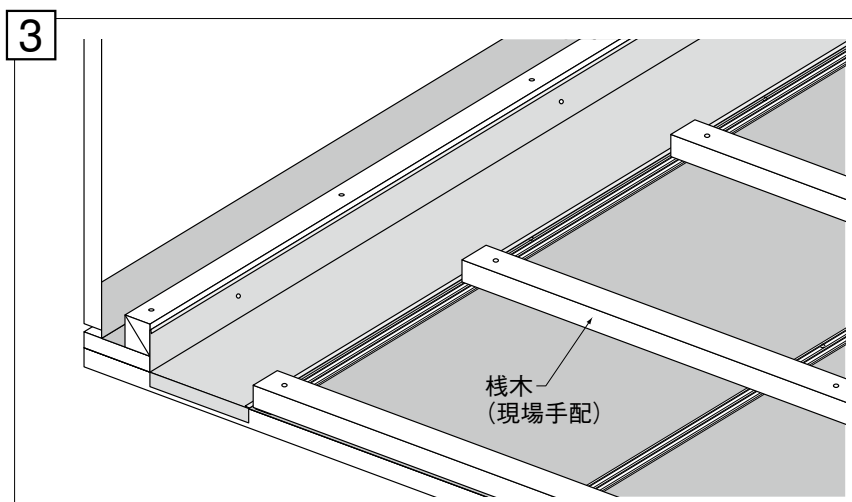
(2) 捨板の取付け

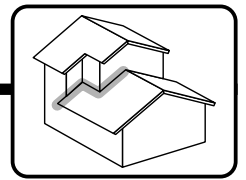
捨板を現場加工し、釘で固定します。



(3) 栈木の取付け

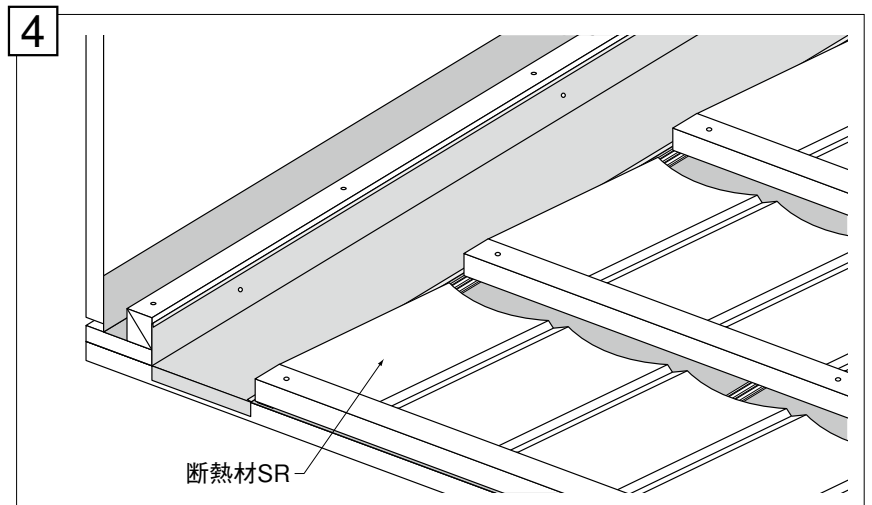
捨板の位置まで栈木(30×30～40)を取付け
ます。





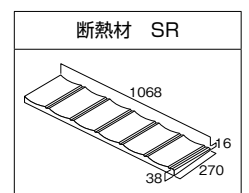
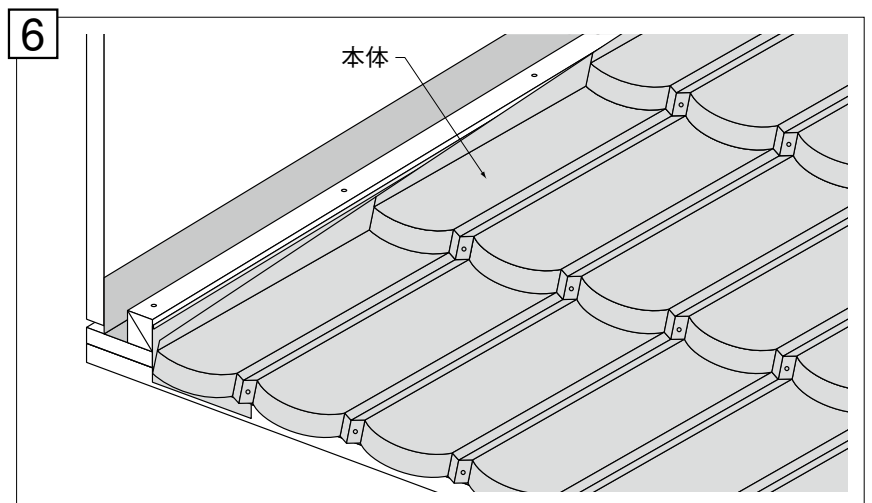
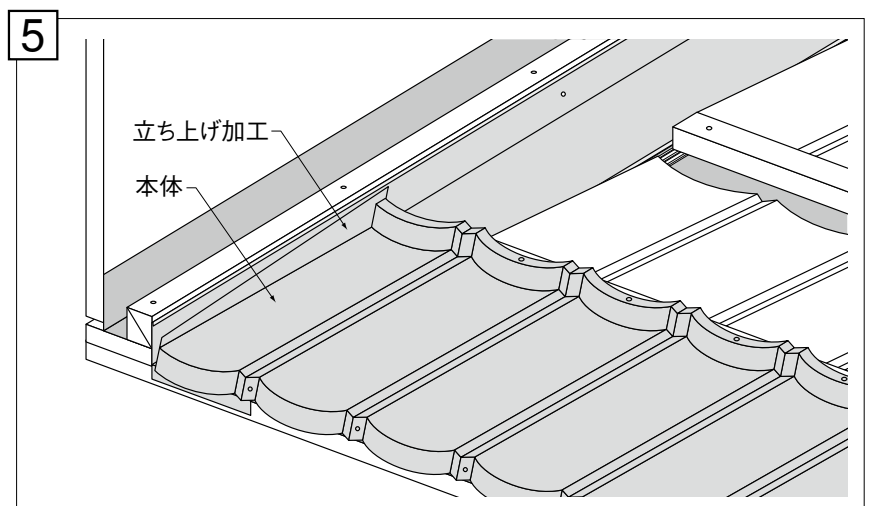
(4) 断熱材の敷き込み

栈木の間に断熱材を敷きます。



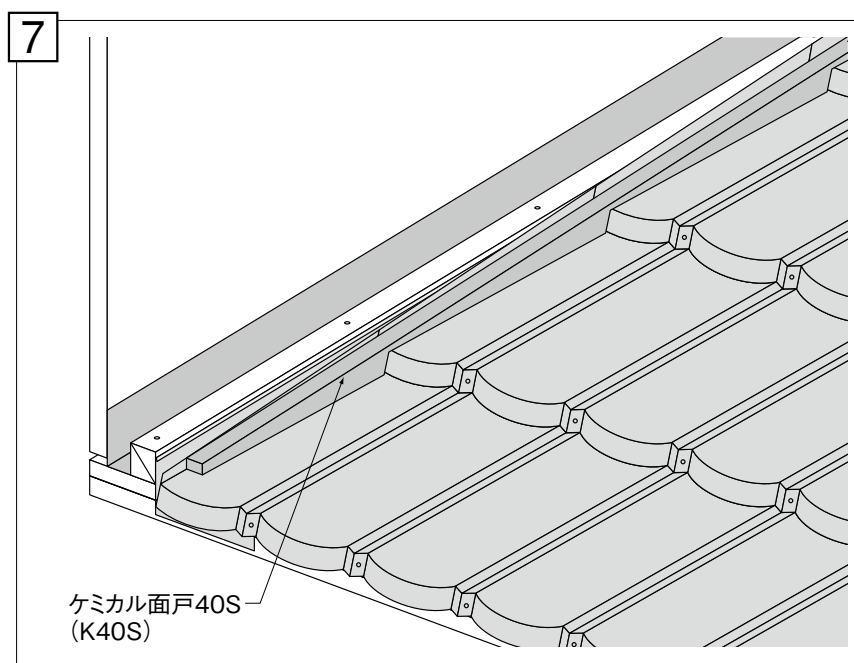
(5) 本体の取付け

本体に立上げ加工を施して取付けます。



(7) ケミカル面戸の取付け

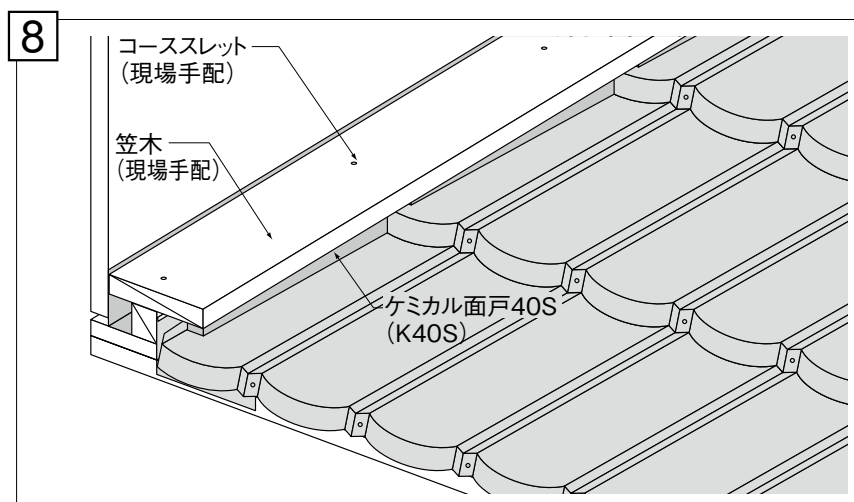
ケミカル面戸40Sを取付けます。



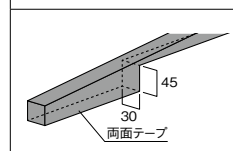
(8) 笠木の取付け

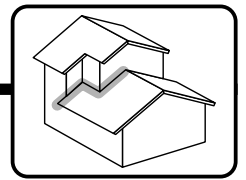
笠木(24~30×105)を取付けます。

長さ75mm以上のコーススレット等を用い、
300mm以下の間隔で固定します。



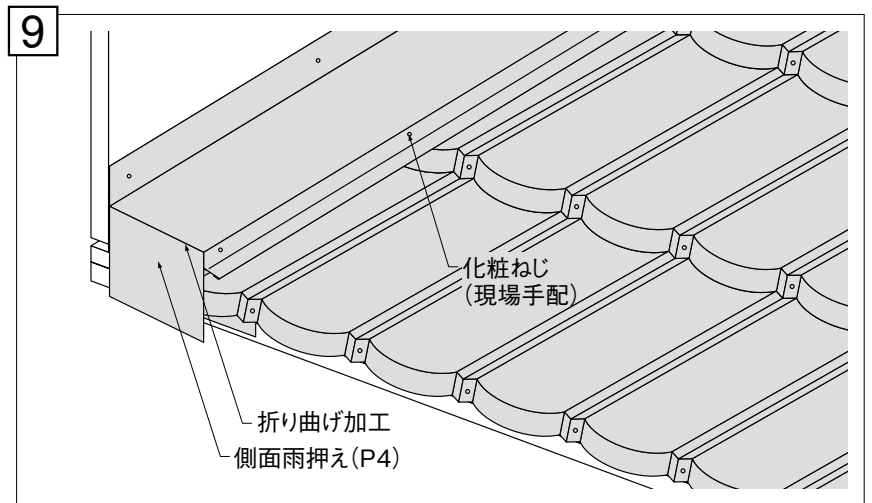
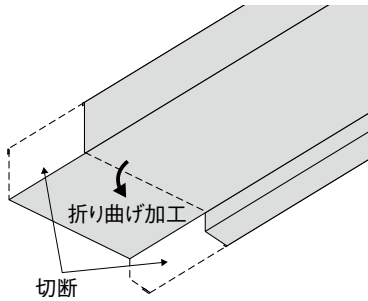
ケミカル面戸40S K40S



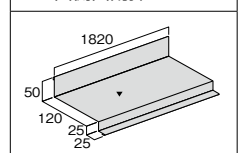


(9) 側面雨押えの取付け

側面雨押えを現場加工して、取付けます。



正面側面雨押え P4

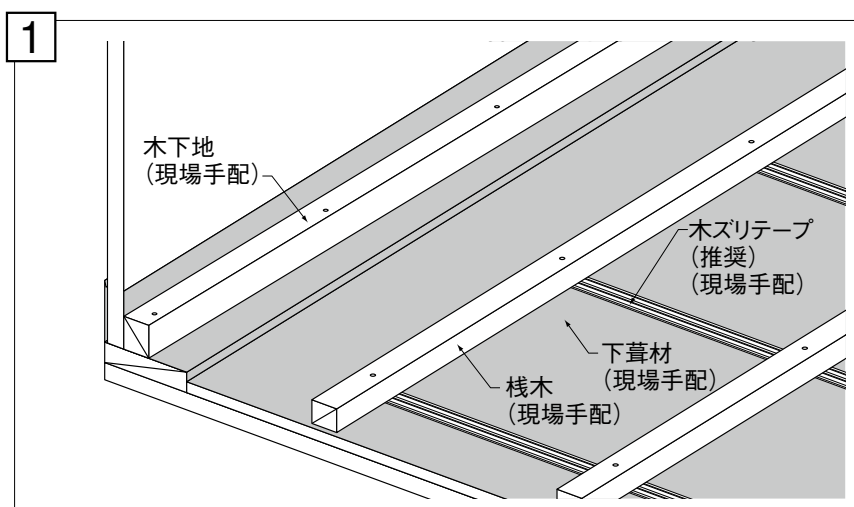


12-2 正面雨押え部(桁行方向)

(1) 木下地・栈木の取付け

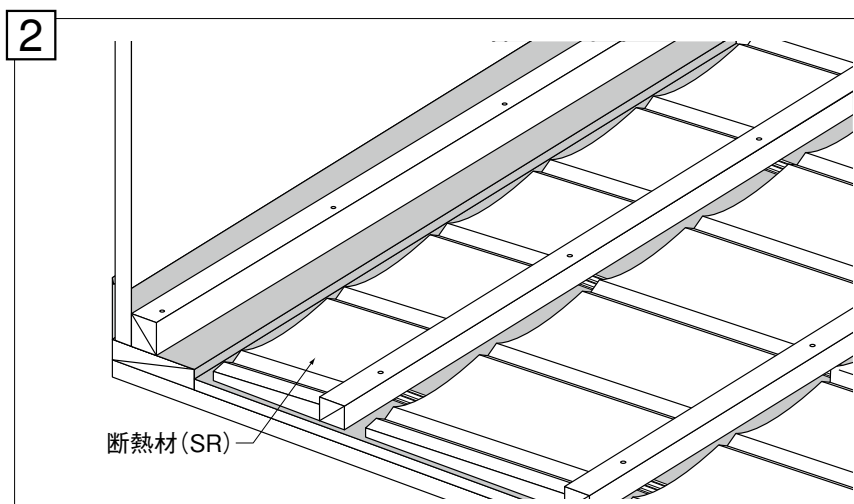
木下地(30×40または45×45)を取付けます。

栈木(30×30 ～ 40)を取付けます。



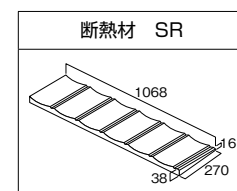
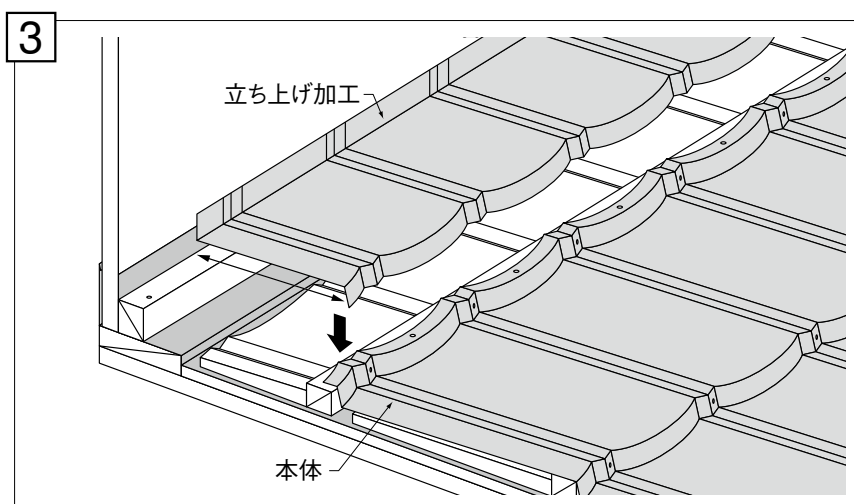
(2) 断熱材の敷き込み

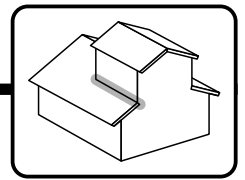
栈木の間に断熱材を敷きます。



(3) 本体の加工・取付け

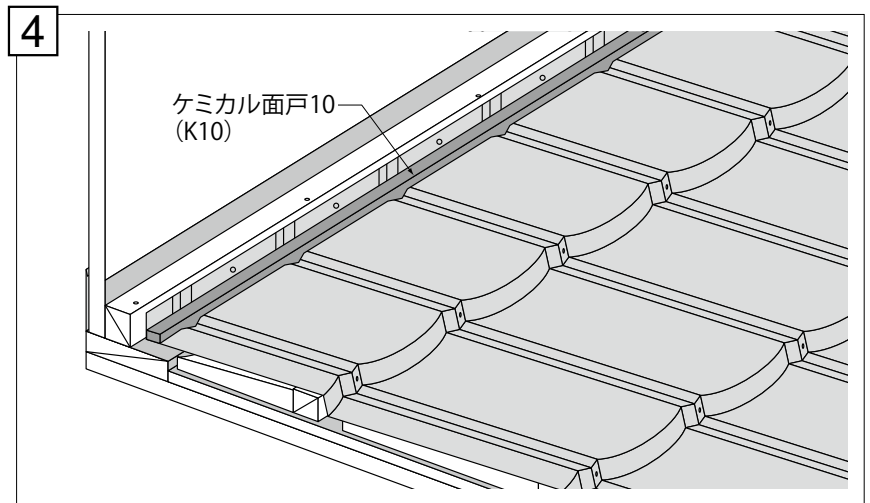
本体に切断、立ち上げ加工を施して取付けます。





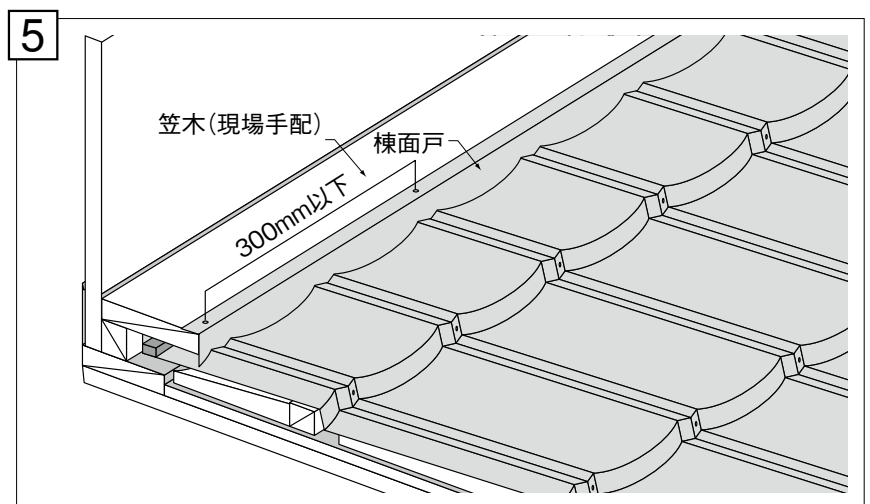
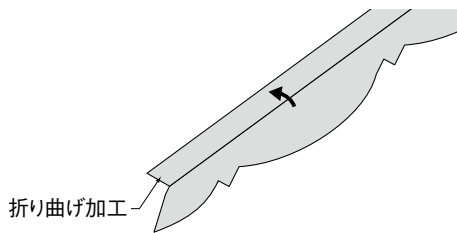
(4) ケミカル面戸の取付け

ケミカル面戸10を取付けます。



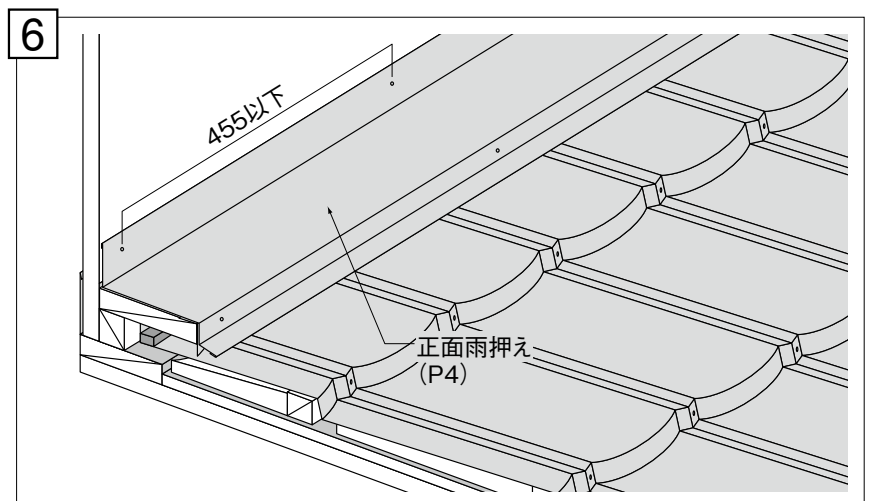
(5) 笠木・棟面戸の取付け

笠木(18~24×105)を取付けます。
棟面戸を現場で合わせて、折り曲げ加工し、取付けます。(3ヶ所固定)



(6) 正面雨押えの取付け

正面雨押えを取付けます。

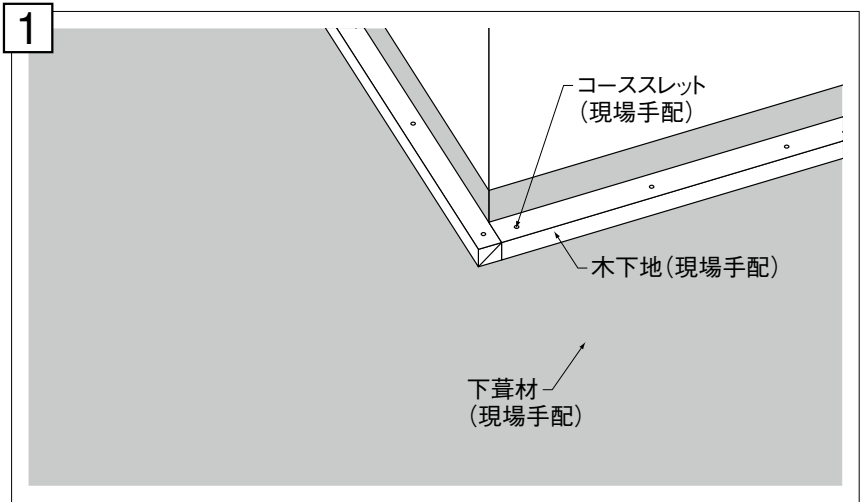


ケミカル面戸10 K10	棟面戸 Q3	正面側面雨押え P4

12-3 流れ方向 出隅

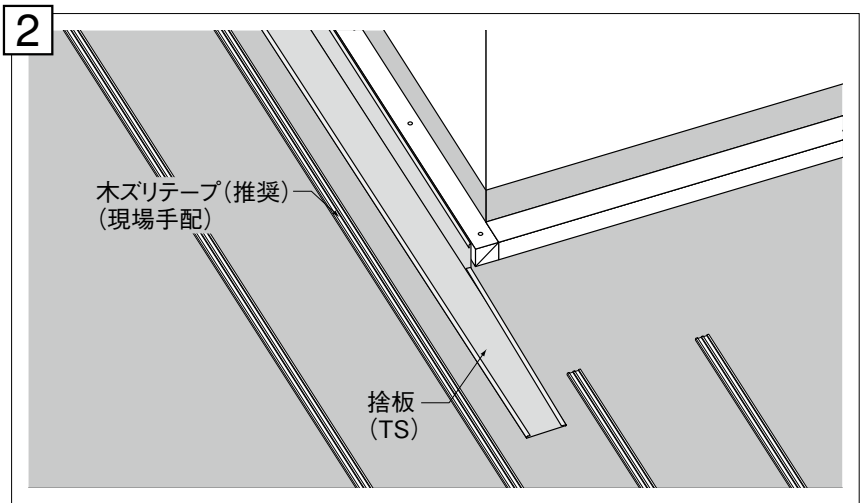
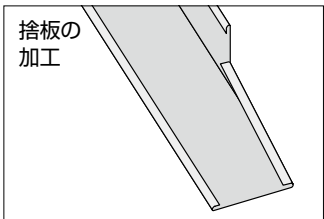
(1) 下葺材の確認

下葺材を取付け、壁面に50mm程度に立上げてください。
木下地(30×40または45×45)を取付けます。
長さ90mm以上のコーススレット等を用い、300mm以下の間隔で固定します。



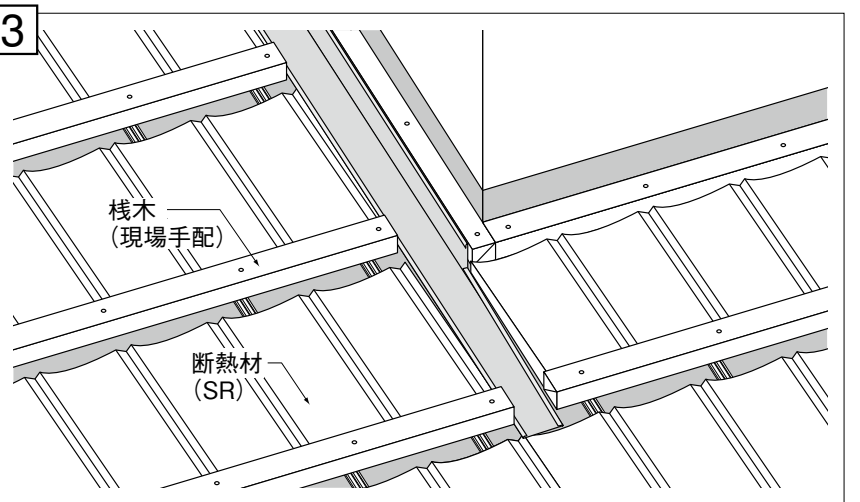
(2) 捨板の取付け

捨板は図のように加工し、軒先まで通します。
栈木の取付けは、木ズリテープの厚みを利用し、捨板の上に取付けます。
木ズリテープを使用しない場合、捨板部分で栈木を切り欠いてください。

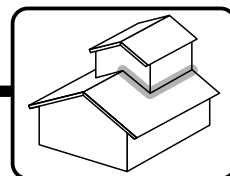


(3) 栈木・断熱材の取付け

栈木(30×30 ~ 40)を取付けます。
捨板の通る部分は栈木と断熱材を切断します。
栈木の間に断熱材を敷きます。

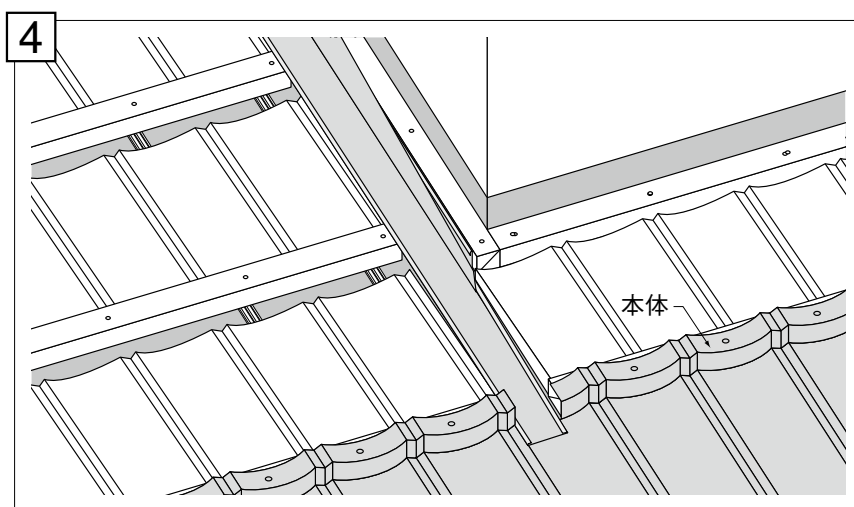


捨板 TS	断熱材 SR



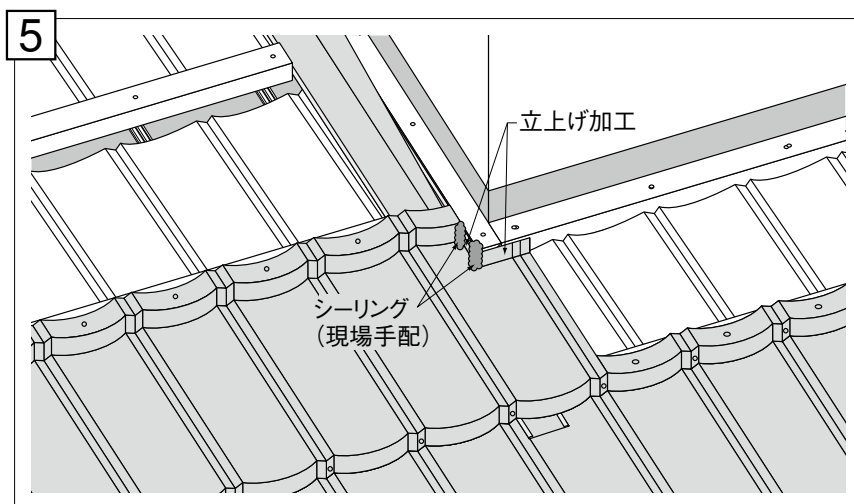
(4) 本体の取付け

本体を桟木に固定し、葺いていきます。
捨板の通る部分は本体を図のように切断します。



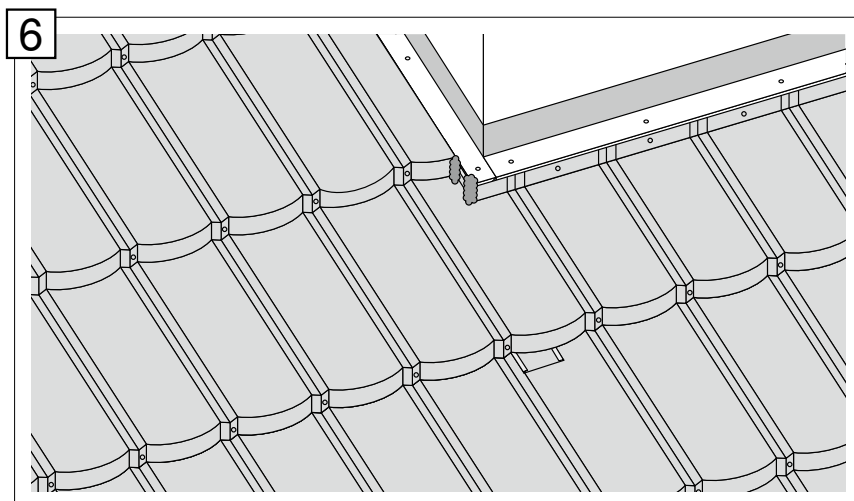
(5) 本体の加工（出隅部分）

出隅部分は図のように立上げ加工を施します。

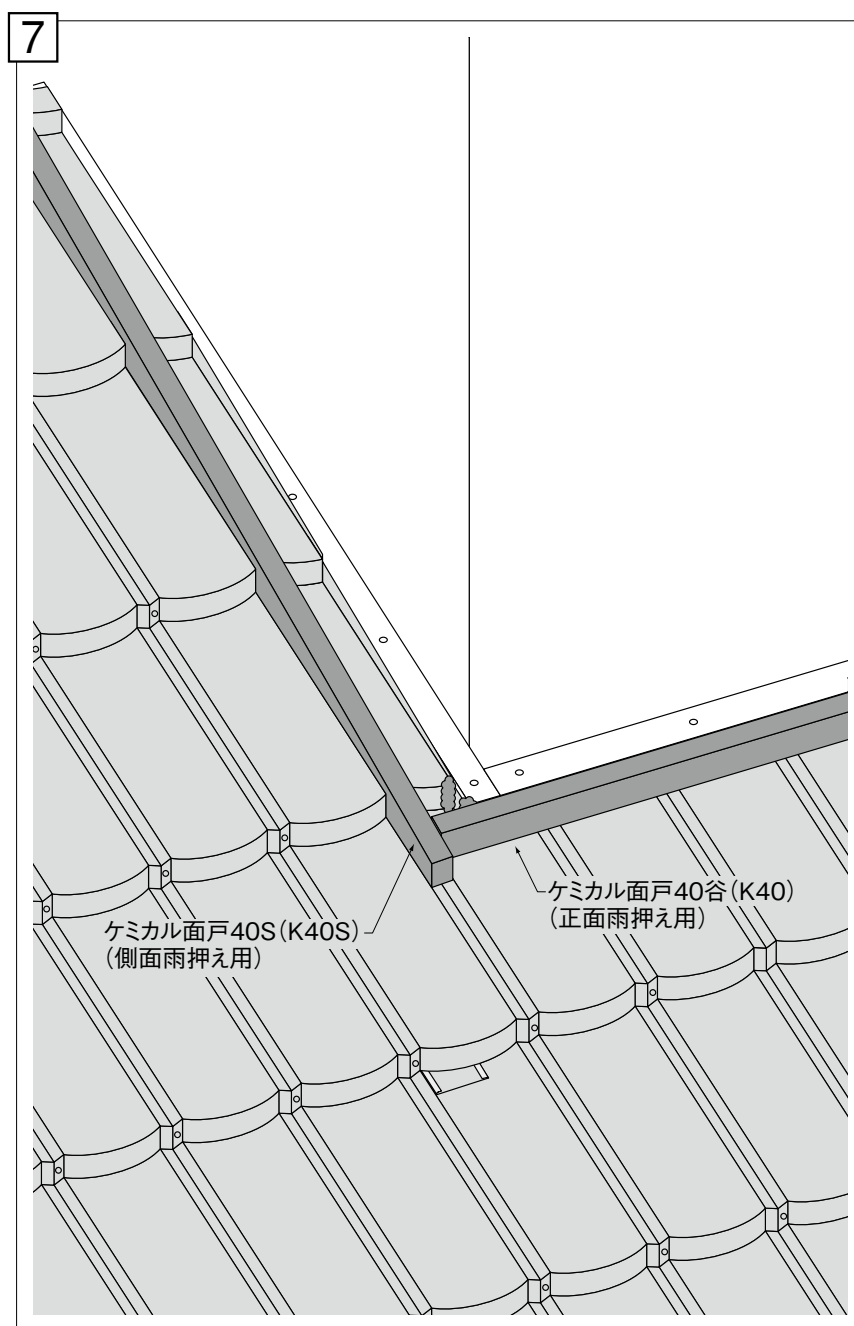


(6) 本体の加工・施工

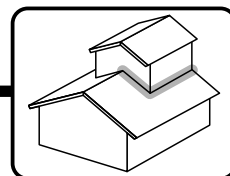
流れ方向・桁方向共に、本体に立上げ加工を
施して葺いていきます。



(7) ケミカル面戸の取付け
ケミカル面戸を取付けます。

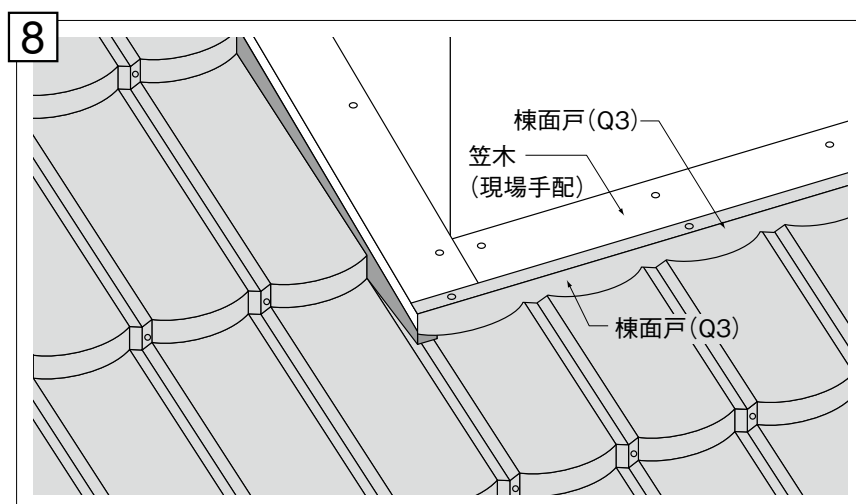


ケミカル面戸40S K40S	ケミカル面戸40谷 K40



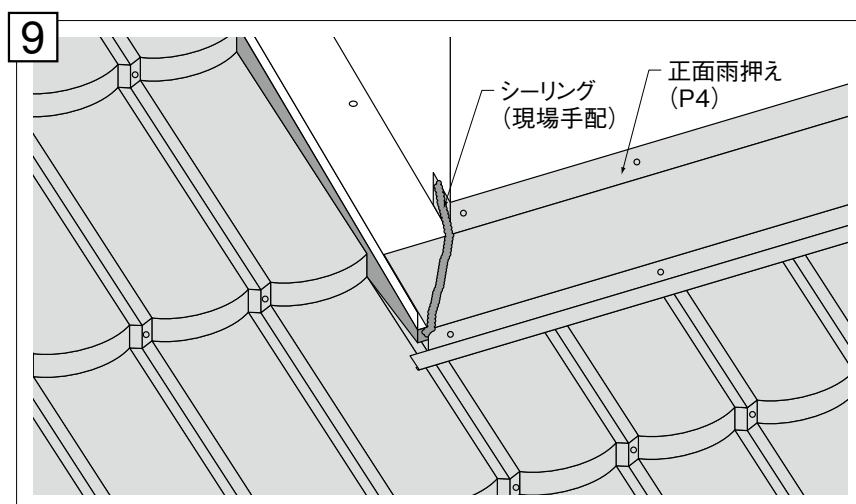
(8) 笠木・棟面戸の取付け

笠木(18~24×105)を取付けます。
棟面戸を現場で合わせて、折り曲げ加工し、ケミカル面戸10を押し込む状態で取付けます。
(3ヶ所固定)



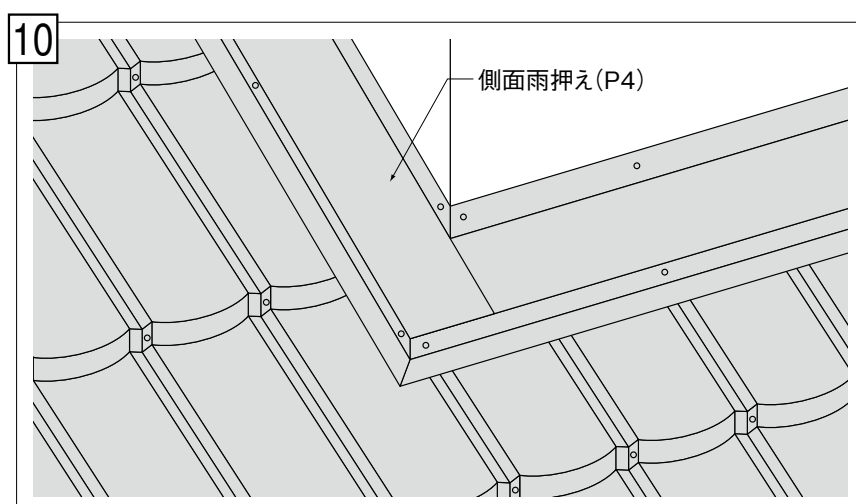
(9) 正面雨押えの取付け

正面雨押え(桁行方向)を図のように加工して取付けます。
立ちげライン、側面雨押え(流れ方向)との重なり部にシーリングをしてください。



(10) 側面雨押えの取付け

側面雨押え(流れ方向)を切断加工して取付けます。
重ね部は浮きが無いように、スクリュー釘で固定してください。

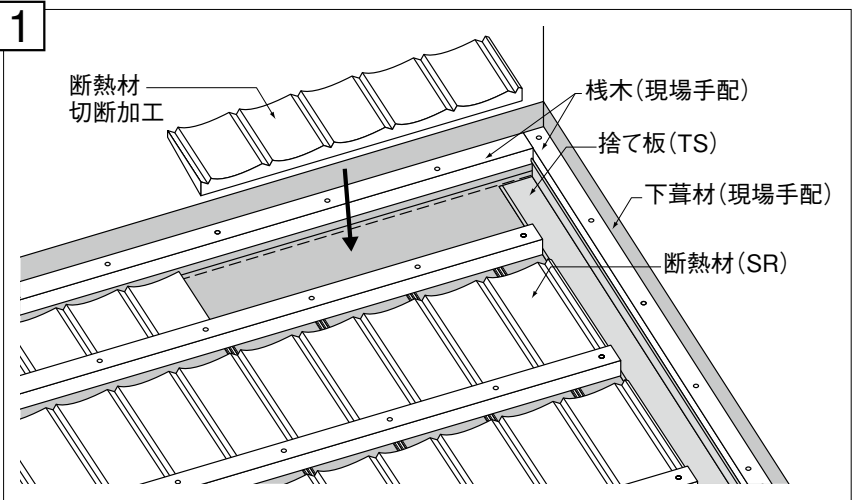


棟面戸 Q3	正面側面雨押え P4

12-4 流れ方向 入隅

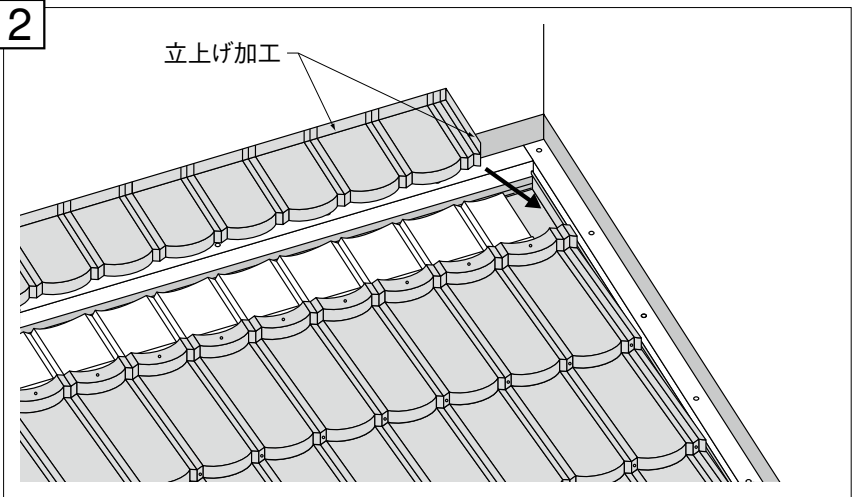
(1) 棧木・断熱材の取付け

棧木(30×30～40)を取付けます。
棧木の間に断熱材を敷きます。



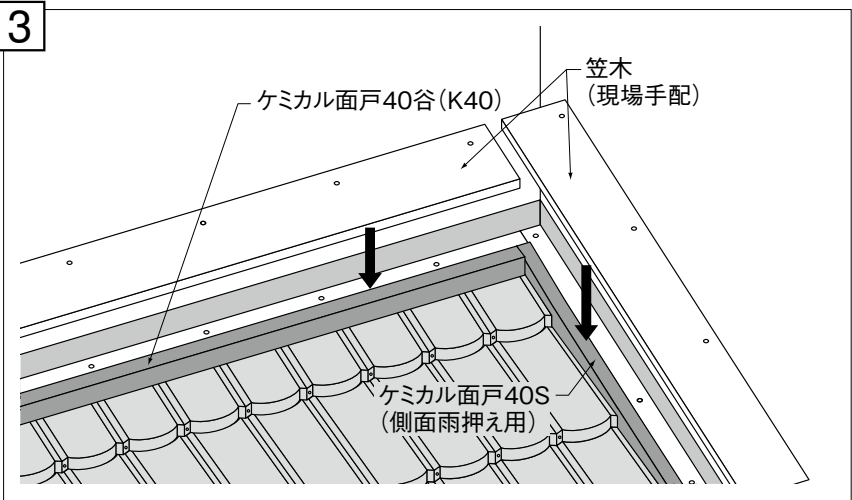
(2) 入隅部棧木の取付け

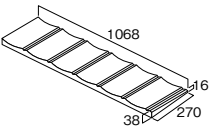
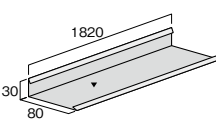
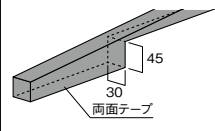
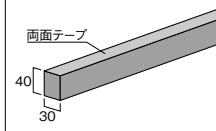
桁行方向・流れ方向の棧木、捨て板を取付けた後、本体を取付けます。
本体は、側面・水上側に立上げ加工を行い取付けます。

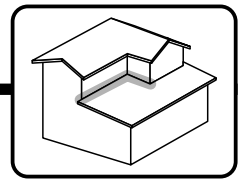


(3) ケミカル面戸・笠木の取付け

桁方向にケミカル面戸40谷を取付けます。
流れ方向にケミカル面戸40Sを取付けます。
笠木(18～24×105)を取付けます。

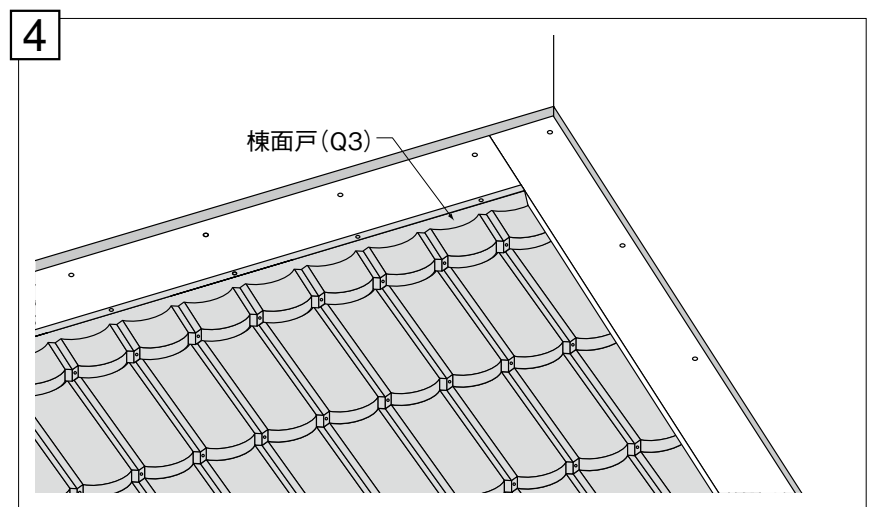


断熱材 SR	捨て板 TS	ケミカル面戸40S K40S	ケミカル面戸40谷 K40
			



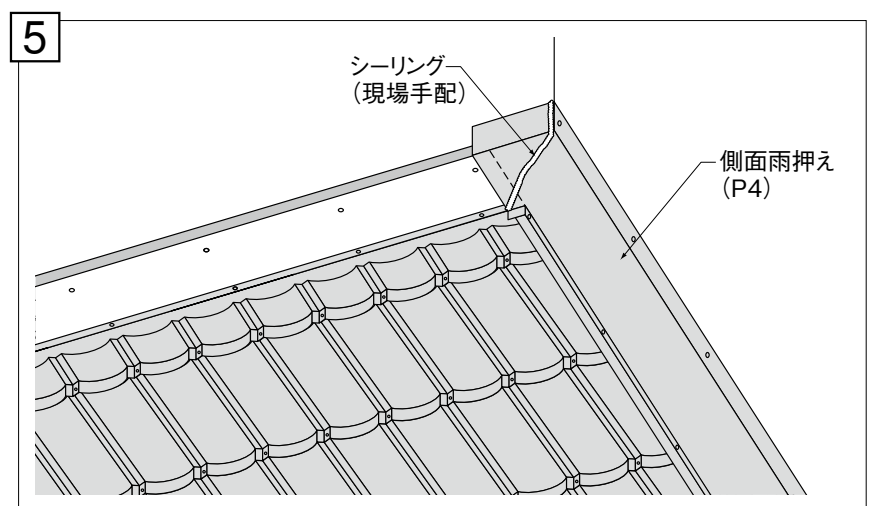
(4) 棟面戸の取付け

棟面戸を現場で合わせて、折り曲げ加工し取付けます。(3ヶ所固定)



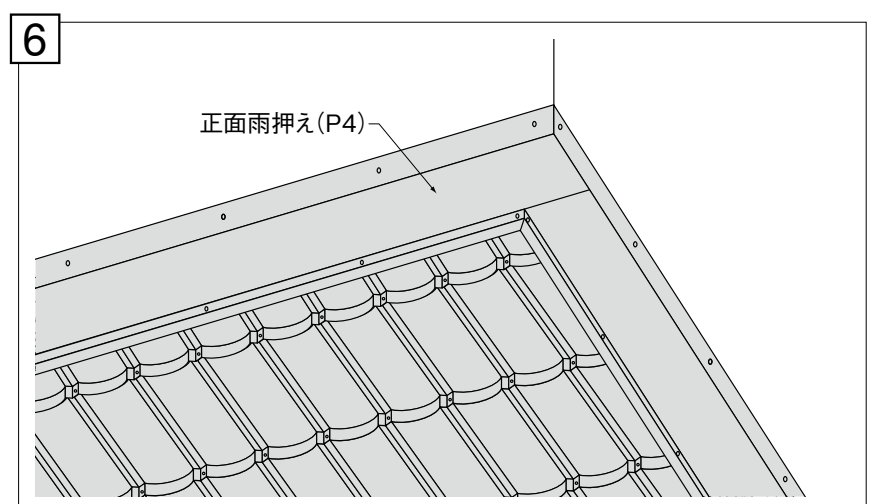
(5) 側面雨押えの取付け

側面雨押え(流れ方向)を図のように加工して取付けます。
立上げライン、正面雨押え(桁行方向)との重なり部にシーリングをしてください。



(6) 正面雨押えの取付け

正面雨押え(桁行方向)を斜め加工して取付けます。
重ね部は浮きがないように、釘で固定してください。

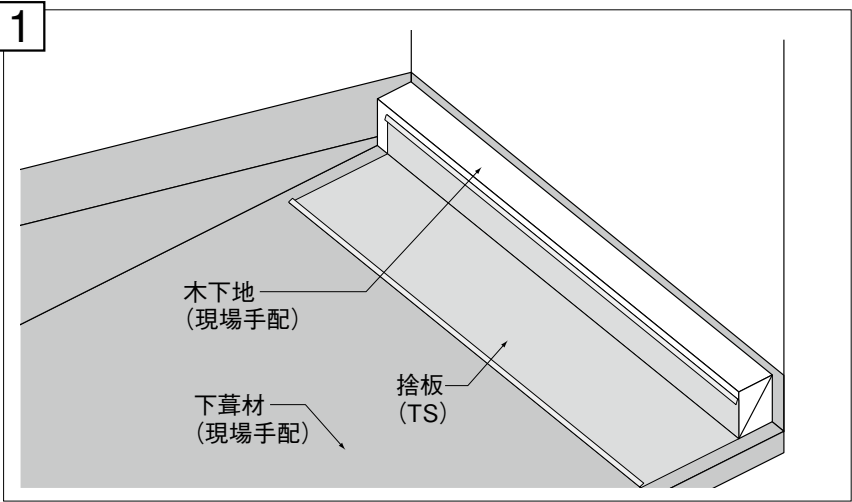


棟面戸 Q3	正面側面雨押え P4

12-5 流れ方向 軒先～棟

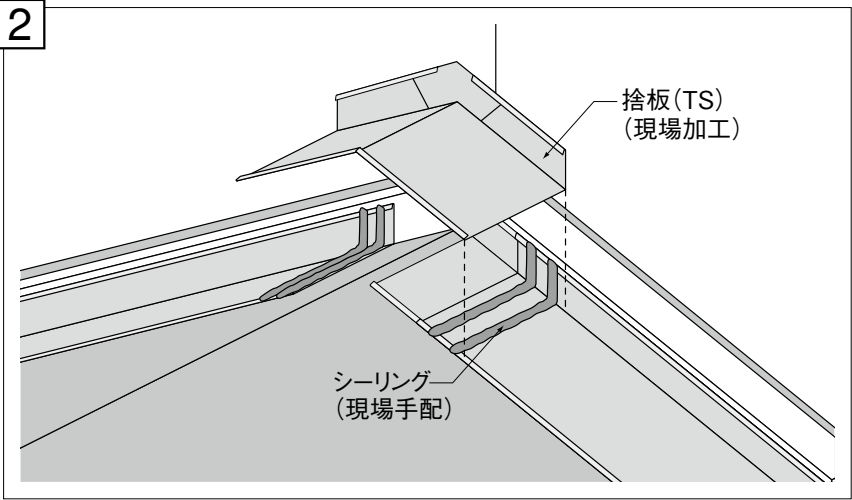
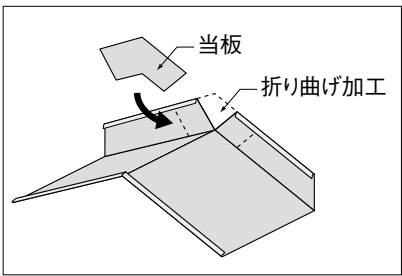
(1) 捨板の取付け

木下地(30×40または45×45)を取付け、
捨板を木下地に沿って取付けてください。
縦継ぎは、2重シーリングを行い、60mm以上
重ねます。



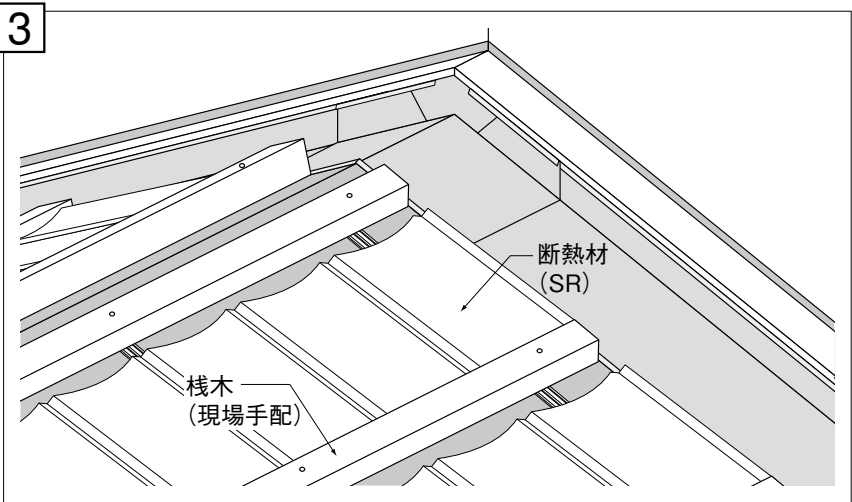
(2) 捨板の棟側の加工

捨板は捨棟芯をまたぎ、折り曲げ加工し取付
けます。

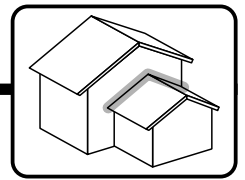


(3) 栈木・断熱材の取付け

栈木(30×40または45×45)を取付けます。
栈木の間に断熱材を敷きます。

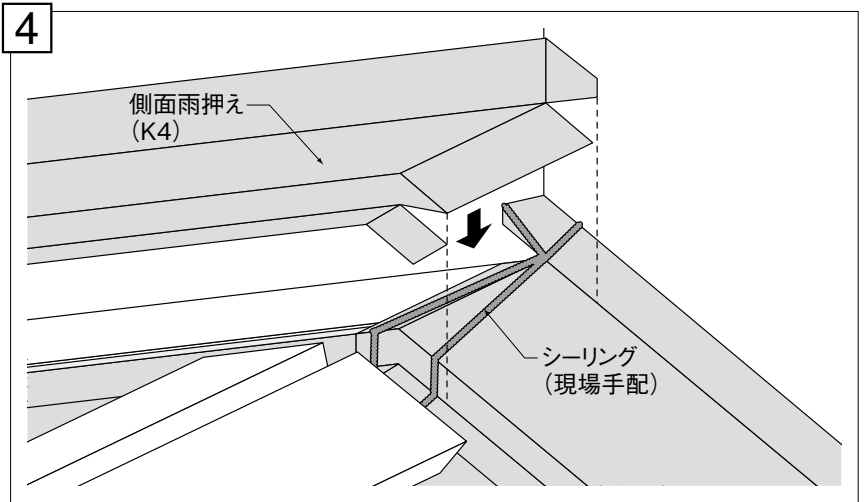


捨板 TS	断熱材 SR



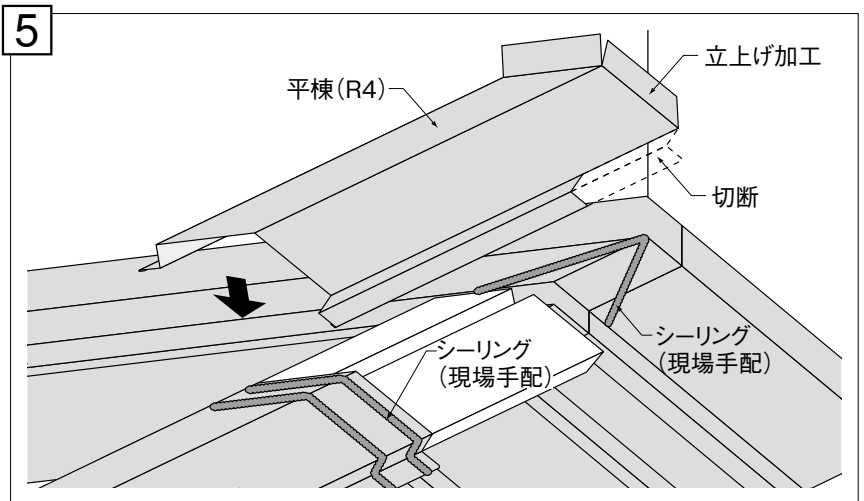
(4) 側面雨押えの棟加工・本体の取付け

棟加工は棟芯をまたぎ、30mm程度折り曲げて取付けます。
シーリングを施し、もう一方を重ねます。
縦継ぎは2重シーリングを行い重ねます。
本体に立ち上げ加工を施して取付けます。



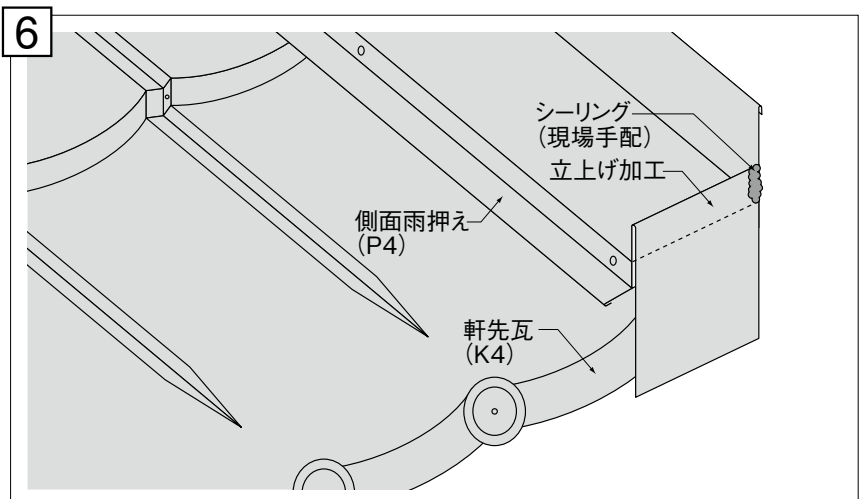
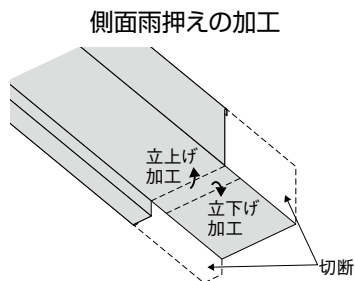
(5) シーリングと下屋の平棟加工

両側の側面雨押えを施工後、平棟を加工し、重ねる部分にシーリングをしてください。
縦継ぎは2重シーリングを行い、60mm以上重ねます。



(6) 側面雨押えの軒先加工

側面雨押えの軒先側は、平面を30mm立上げてから、立下げ加工します。
立上げラインには、シーリングをしてください。



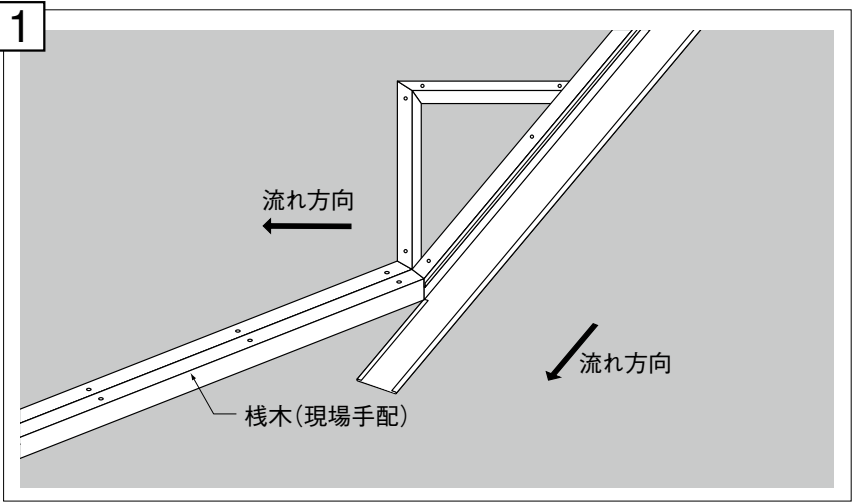
正面側面雨押え P4	平棟 R4	軒先瓦 K4

13. 他納め部の施工方法

13-1 入母屋の施工 新築(葺替え)

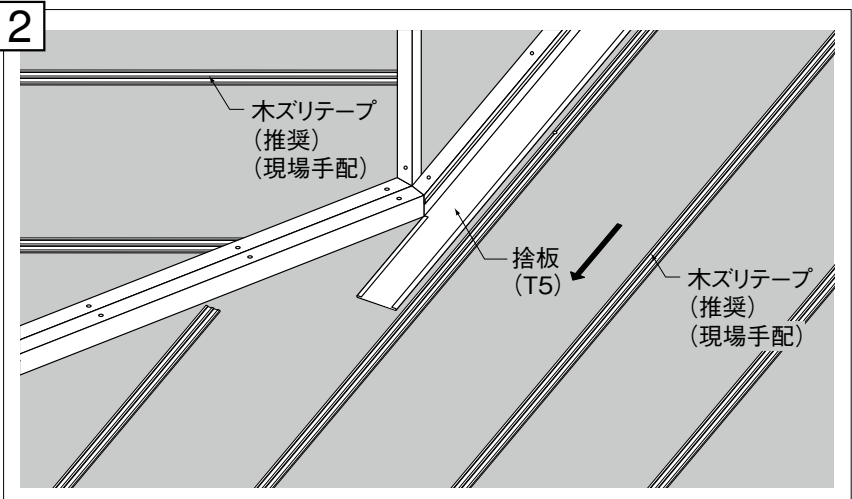
(1) 棧木の取付け

けらば・隅棟の納めと同様に、棧木(30×30～40)を取付けます。



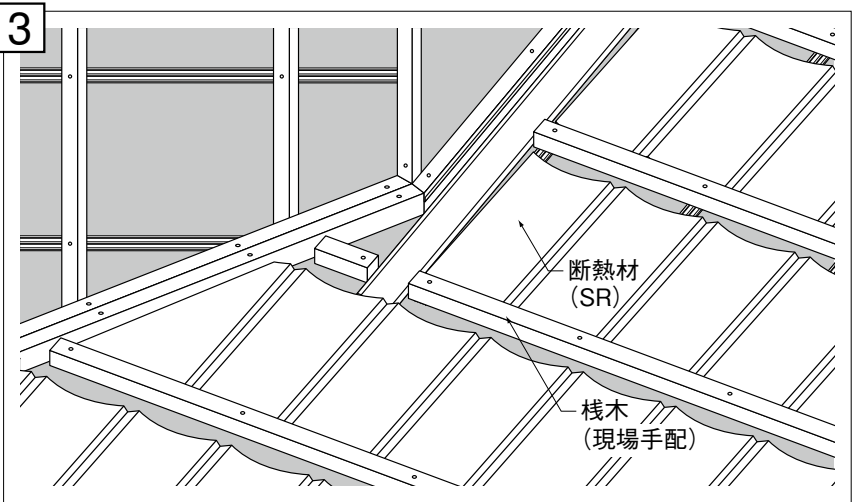
(2) 捨て板の取付け

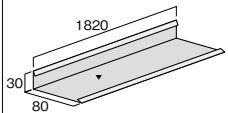
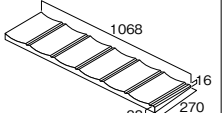
屋根棧木を施工後、本体を施工します。
けらば部の捨て板は、屋根材に切り込みを入れ、表面に出しておきます。

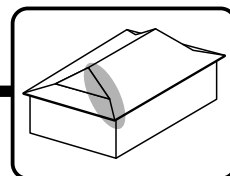


(3) 棧木・断熱材の取付け

棧木(30×30～40)を取付けます。
棧木の間に断熱材を敷きます。

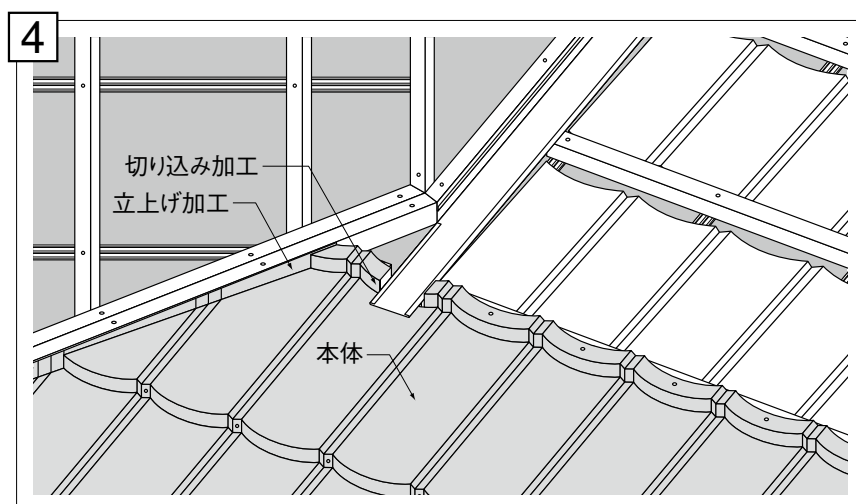


捨て板 TS	断熱材 SR
	



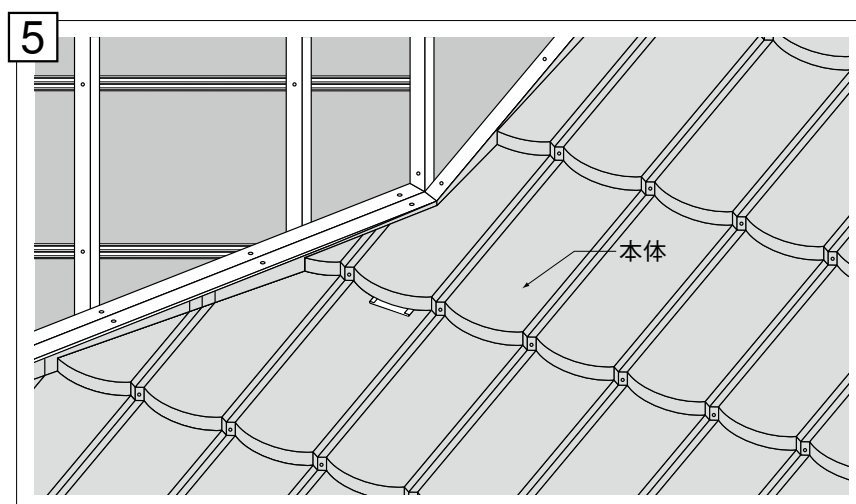
(4) 本体の加工

けらば部の捨板は、屋根材に切り込みを入れ、表面に出しておきます。



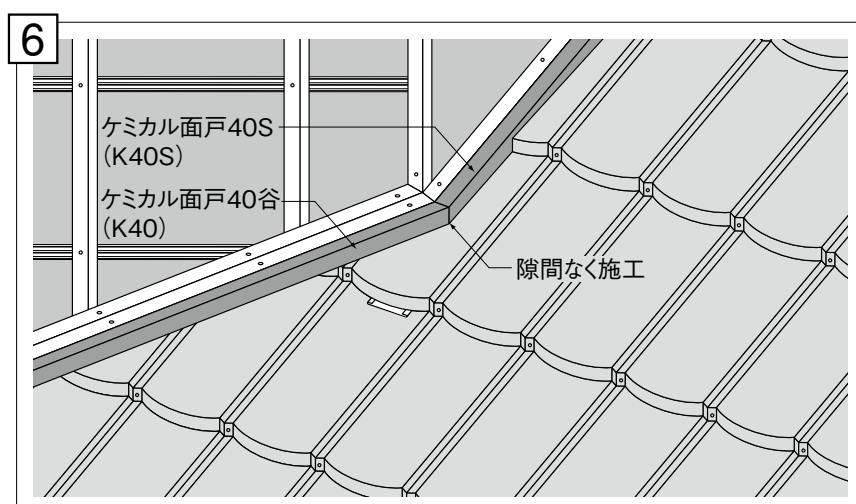
(5) 本体の取付け

本体を施工します。



(6) ケミカル面戸の取付け

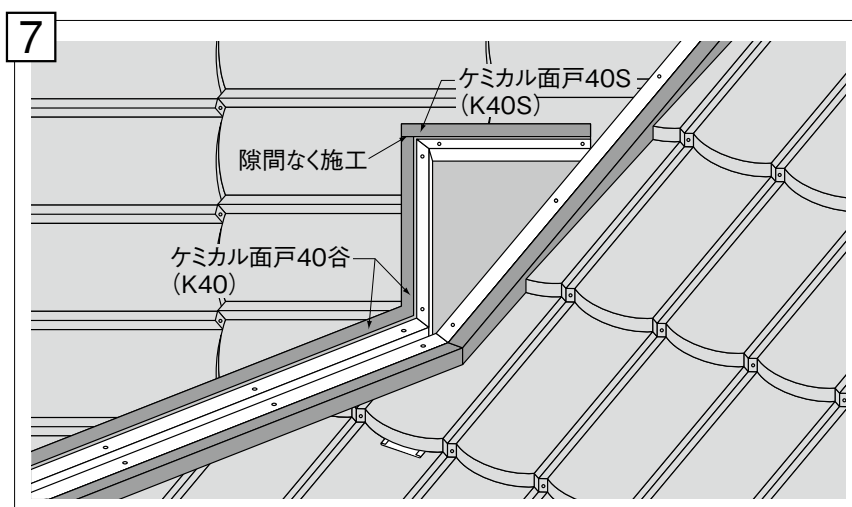
けらば部にはケミカル面戸40S、隅棟部にはケミカル面戸40谷を取付けます。
取合い分は、止水ラインを保つよう隙間をあけないでください。



ケミカル面戸40S K40S	ケミカル面戸40谷 K40

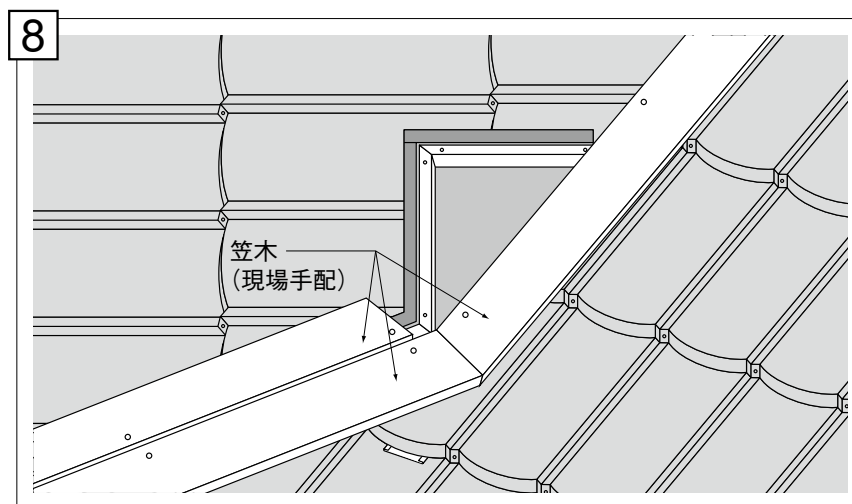
(7) 妻側の施工

妻側も本体を取付けた後、ケミカル面戸40谷とケミカル面戸40Sを取付けます。
取合い部は、止水ラインを保つよう隙間をあけないでください。



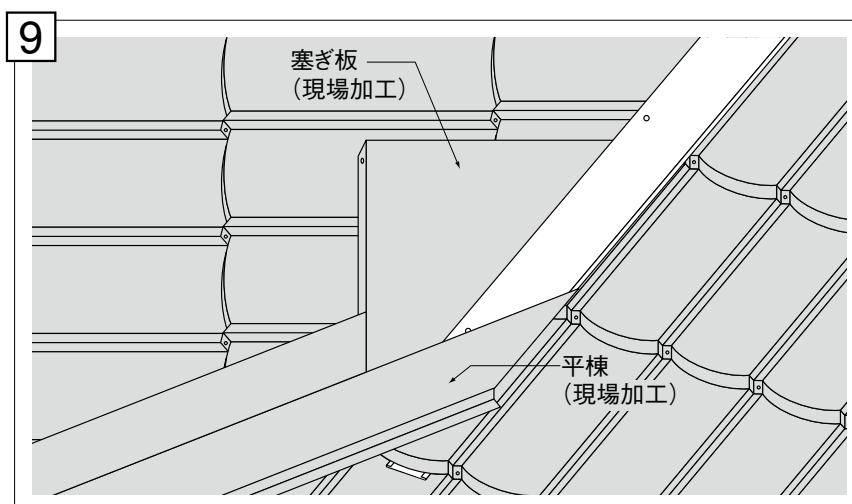
(8) 笠木の取付け

ケミカル面戸を押え込むように、けらば・隅棟・壁取合い部に笠木(19～24×105)を取付けます。

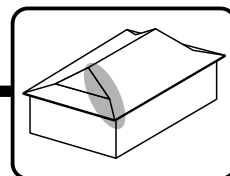


(9) 隅棟包み・雨押えの取付け

隅棟包みを取付けます。
妻側の雨押えを取付けます。
塞ぎ板を現場加工にて取付けます。
平棟を現場にて切断加工して取付けます。



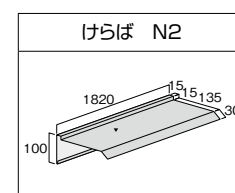
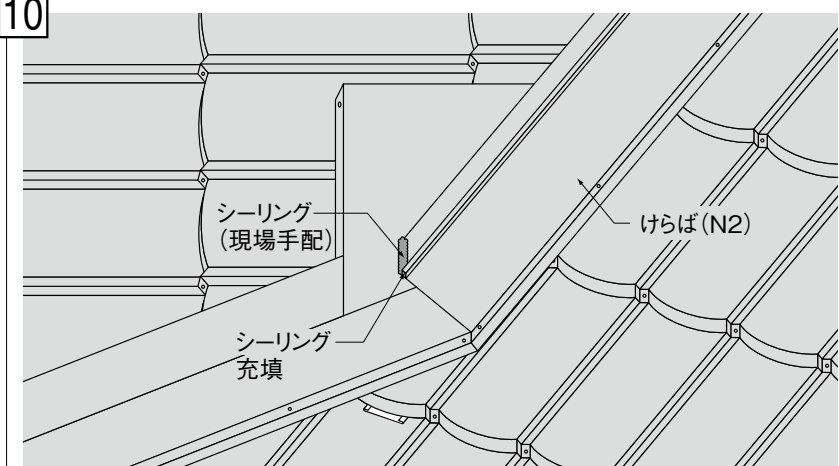
ケミカル面戸40S K40S	ケミカル面戸40谷 K40	平棟 R4



(10) けらばの取付け

けらば部にけらばを取付け、シーリングを行います。

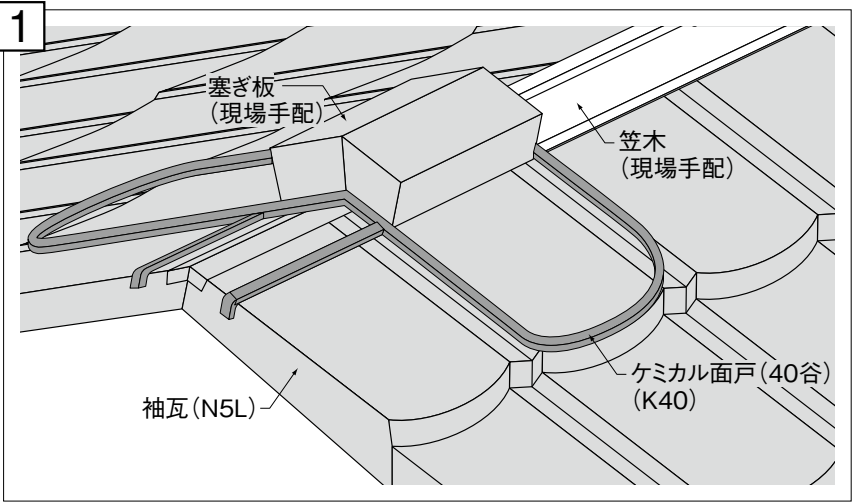
10



13-2 鬼飾りの納め

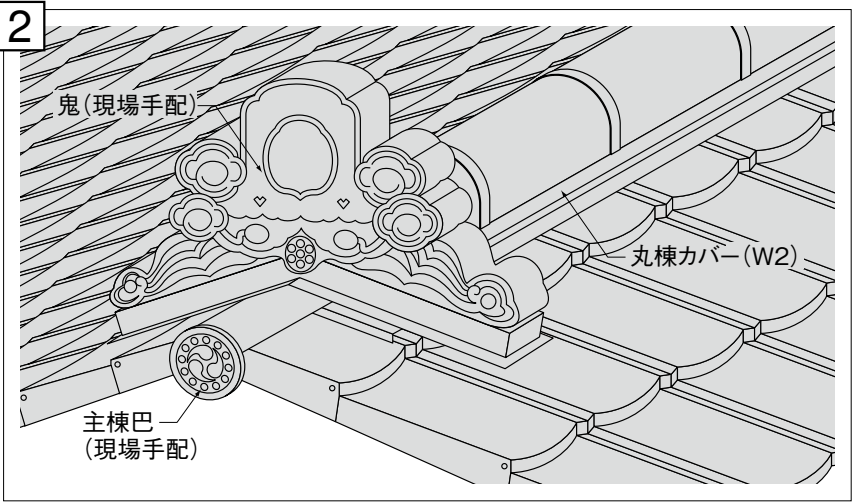
(1) 塞ぎ板の取付け

袖瓦は棟まで施工します。
 棧木(30×40または45×45)は袖瓦の手前
 まで施工し、塞ぎ板(現場手配)を取付けケミ
 カル面戸40谷を笠木(18～24×105)の幅に
 合わせて取付けます。
 鬼飾り取付け位置を確認し、ケミカル面戸(40
 谷)を貼り、防水処理を行います。

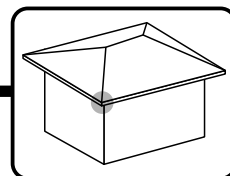


(2) 鬼飾りの取付け

鬼飾りをリベット・釘等を用いて固定します。
 巴の寸法を調整し、リベットを用いて固定しま
 す。
 棟のケミカル面戸・笠木・面戸を取付けます。
 丸棟カバーを取付け、鬼飾りとの取り合い部に
 シーリング処理を行います。



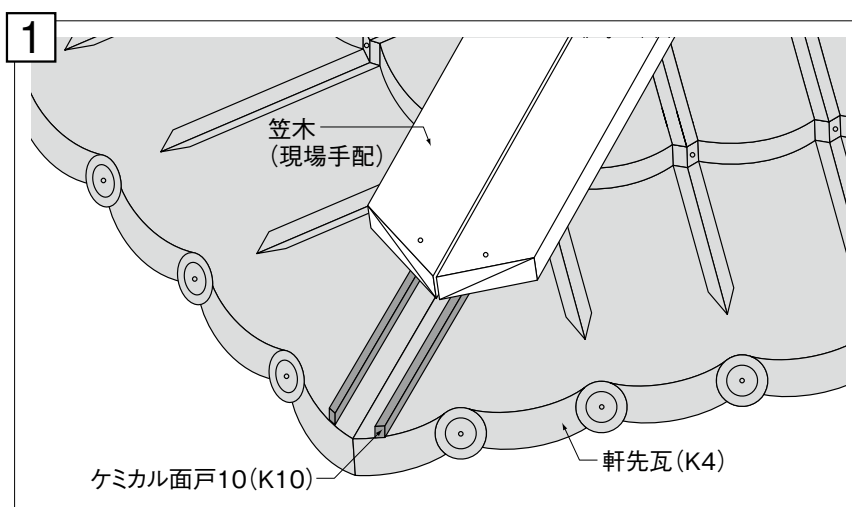
ケミカル面戸40谷 K40	袖瓦 N5 (L・R)	丸棟カバー W2
両面テープ 10 20	高さ 35 165 70 40	有効 915 305 50 120 65 220 1000 水上側 水下側



13-3 入隅鬼飾り(そり巴付)の納め

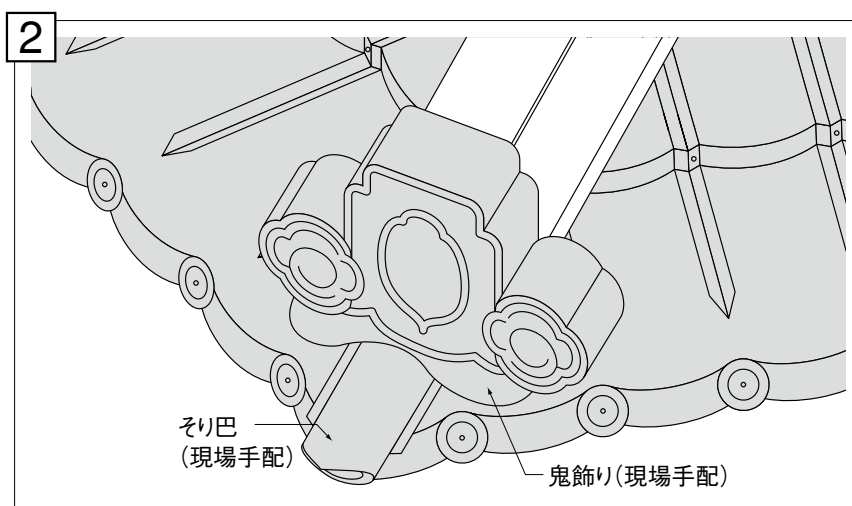
(1) 軒先瓦の取付け

軒先瓦を隅棟中心まで施工します。
隅棟の木は2段目より施工します。鬼飾り取付け位置を確認し、ケミカル面戸10を貼り、防水処理を行います。
隅棟のケミカル面戸を取付け後、笠木(18~24×105)を取付けます。



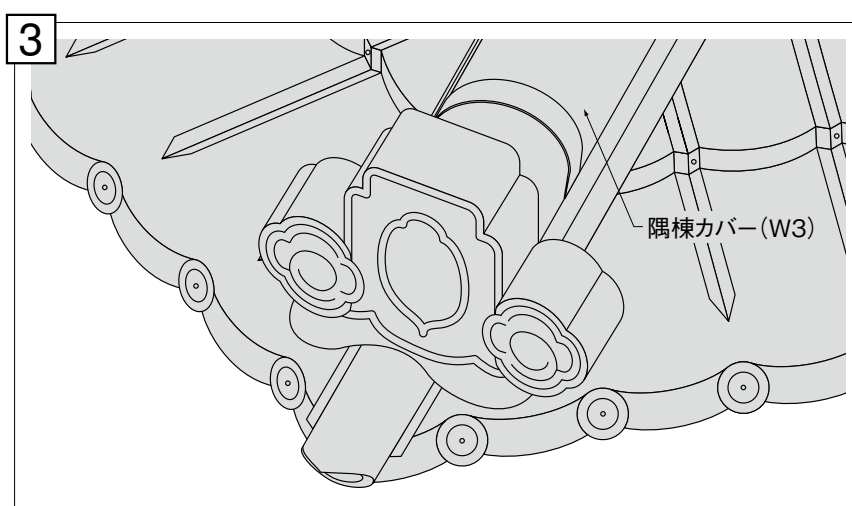
(2) 鬼飾りの取付け

鬼飾りをリベットを用いて固定します。



(3) 隅棟カバーの取付け

隅棟カバーを取付け、鬼飾りとの取合い部にシーリング処理を行います。

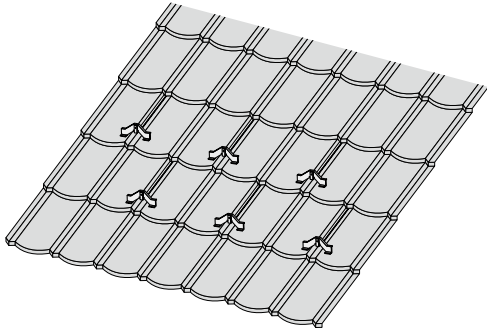


軒先瓦 K4	ケミカル面戸10 K10	ケミカル面戸40谷 K40	隅棟カバー

14. 雪止め金具の取付け

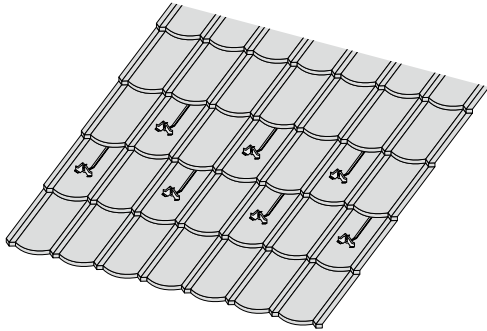
雪止め金具の取付け位置<参考>

〈積雪地用〉



●メタルルーフ2列にわたり1山とばしに「山部」に千鳥に取付けます。

〈温暖地用〉



●メタルルーフ2列にわたり1山とばしに「谷部」に千鳥に取付けます。

※雪止め金具の配置については積雪の状況、建物の形状などを考慮して現場で判断してください。

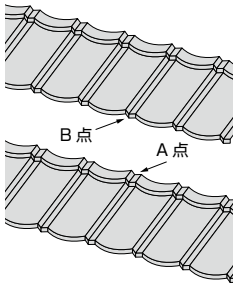
取付け方法

〈積雪地用〉

- メタルルーフ軒先側凸部(A点)をハンマーでつぶして支持材のすわりをよくします。
- メタルルーフ棟側凸部(A点の上にかぶさるB点)の先端を切り下段との隙間をできるだけ小さくします。
- 支持材または富士型を桟木とたるきに釘止めします。

(注)釘止めの箇所がたるきから外れた時は、たるきに当て物をして釘が利くようにしてください。

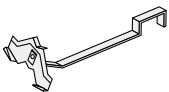
B部の隙間はコーキング処理をしてください。



〈温暖地用〉

- メタルルーフの谷部にセットします。富士型を桟木に釘打ち後、そのまま棟側のメタルルーフをかぶせ、押えて取付けます。
- 積雪地用のようにA・B部に手を加える必要はありません。

羽根(温暖地用)



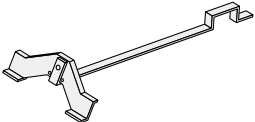
2列にわたり1山とばしに「谷部」に千鳥に取付け

※桟木サイズ30×40の場合、取付けにくい場合があります。桟木寸法を調整してください。

許容荷重	1000N
------	-------

最大流れ長さ					
	3寸	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸
30cm	25.77	21.78	18.99	16.94	15.37
50cm	15.46	13.07	11.39	10.16	9.22
80cm	9.66	8.17	7.12	6.35	5.76
100cm	7.73	6.53	5.69	5.08	4.61

羽根(積雪地用)

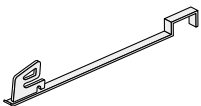


2列にわたり1山とばしに「山部」に千鳥に取付け

許容荷重	2000N
------	-------

最大流れ長さ					
	3寸	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸
100cm	15.46	13.07	11.39	10.16	9.22
120cm	12.88	10.89	9.49	8.47	9.68
150cm	10.31	8.71	7.59	6.77	6.15

アングル雪止め



3山とばしに「山部」に取付け

許容荷重	2000N
------	-------

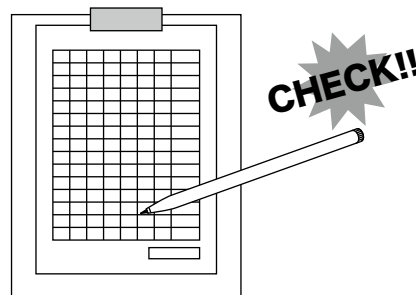
最大流れ長さ					
	3寸	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸
100cm	5.15	4.35	3.79	3.38	3.07
120cm	4.29	3.63	3.16	2.82	2.56
150cm	3.40	2.90	2.53	2.25	2.05

15. 点検/清掃・補修方法

15-1 屋根面の点検

- 点検・検査箇所は下記部分についてチェックしてください。
 - ①かみ合わせ、組み合わせ不良等による浮き上がり
 - ②各種の仕舞いのチェック（突起物、軒先、コーナー等）
 - ③要所のシーリング
 - ④取扱い上のキズの補修
 - ⑤雨の吹き上がり、吹き溜りの予想箇所へのチェック等

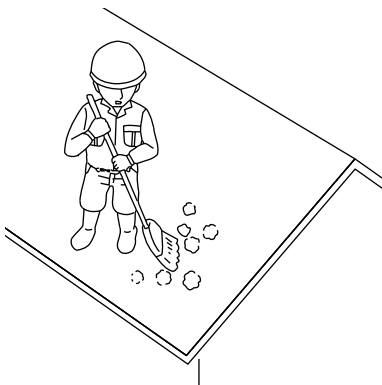
- 点検の結果、手直しを必要とする箇所には、カラーテープ等を使って、マーキングし、補修もれを起こさぬように配慮します。



15-2 屋根面の清掃・補修

- 「キリコ」や「汚れ」の付着は必ず清掃し除去してください。

⚠ 注意
「キリコ」や「ゴミ」を放置しますと錆発生の原因になります。

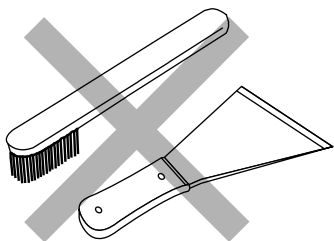


- 屋根表面の塗膜のキズは、清掃後にまず、布などで油・ゴミを完全に除去し、それぞれ表面材と同色の純正補修塗料で塗装補修をしてください。

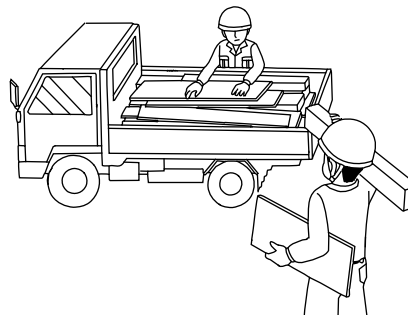


- 清掃用具は、表面塗膜にキズをつけないよう配慮してください。

- ①金属ブラシ・プラスチック製ブラシ、スチールウール、金属ヘラなどは使用しないでください。



- 残材は作業現場に残さないよう処理し、検査に支障を来さないよう、周辺環境の整備を行ってください。



- 簡単に取れない汚れを取る清掃には、中性洗剤を使用し、布で拭き取ってください。



※注意表示

- ⚠ 必ず実行しなければならない「強制」
- ① 禁止マーク

16. メンテナンス

16-1 メンテナンス項目

屋根の維持管理

屋根部は日頃から紫外線や風雨にさらされる条件下にあります。
正しい方法で定期的な点検とメンテナンスを行うことが、住まいや屋根の性能を長く保つ秘訣です。

項 目		点検項目	メンテナンス内容
屋根材	表面	腐食・さびの確認	赤さびが認められる場合は除去し指定の塗料で再塗装
	端部		
		屋根材のズレ有無	ずれが認められた場合は補修工事
役物材	表面	腐食・さびの確認	赤さびが認められる場合は除去し指定の塗料で再塗装
	端部		
		役物材のズレ有無	ずれが認められた場合は補修工事
役物材固定ねじ		腐食、抜けの確認	問題が認められた場合は、打ち締めもしくは増し打ち
シーリング		表面の亀裂有無確認	再施工
下葺き材		棟部の亀裂の確認	亀裂が認められた場合は、補修メンテナンス工事の実施
雨漏りがある場合		野地板の確認	小屋裏から確認し、専門工事店で補修工事

16-2 屋根材補修塗料について

補修方法（アクリル系塗料を使用した場合の一例）

(1) タッチアップの場合

	塗料名 (塗料系)	適用シンナー	希釈率	塗装方法	標準塗布量 (g/m ² /回)	塗回数	塗り重ね乾燥時間 (20℃)
素地調整	ゴミ、ホコリ、その他の付着物は、完全に除去してください。						
塗装	補修塗料A (アクリル系)	No.105 or No.580シンナー	0～10%	筆または刷毛	100～140	1～2回	1時間以上 48時間以内

(2) 原板が露出した場合

	塗料名 (塗料系)	適用シンナー	希釈率	塗装方法	標準塗布量 (g/m ² /回)	塗回数	塗り重ね乾燥時間 (20℃)
素地調整	ゴミ、ホコリ、その他の付着物は、完全に除去してください。 #400～600サンドペーパーを用い軽く研磨し、錆を完全に除去してください。 研磨で発生した研ぎカスも完全に除去してください。						
下塗塗装	ハイボン20 テクロ	ハイボンエポキシシンナー	0～5%	刷毛	200	1回	16時間以上 7日以内
上塗塗装	補修塗料A (アクリル系)	No.105 or No.580シンナー	0～10%	筆または刷毛	100～140	1～2回	1時間以上 48時間以内

注) 上記の各数値は、すべて標準のものです。施工方法、条件により、各々の多少の幅が生じることがあります。

施工上の要点

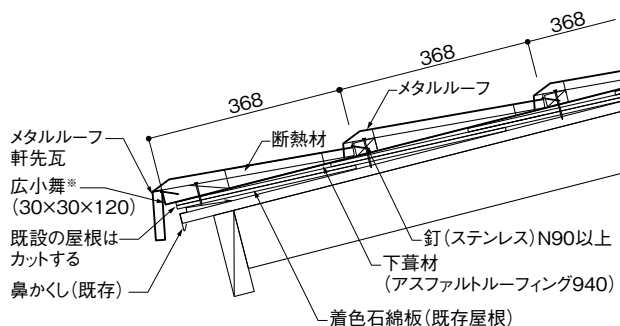
- ① 塗替え塗膜の寿命は、素地調整(浮き上がった旧塗膜、浮錆及び油脂、塩類等の除去清掃)の程度により多大の影響を受けます。
素地調整には十分留意してください。また、劣化した塗膜上への塗装は、早期剥離、発錆の原因になります。
- ② 補修塗装は浮き上がった旧塗膜、浮き錆等を除去した後、素地の露出した部分及び仕上げの際、膜圧不足になりやすい部分に素地調整後速やかに行ってください。
- ③ 補修塗装は、原則として刷毛塗りでを行い、凹凸箇所塗料がゆきわたるように念入りに塗り込んでください。

注意事項

- ① この塗料の乾燥時間は、低温になると著しく遅くなります。乾燥過程で種々の塗膜欠陥を生じるおそれがありますので、5℃以下の気温が連続する場合は施工しないください。
- ② 常温乾燥型の塗料です。特にタッチアップ塗装の場合、元の部分とは耐候性に差があります。補修面積は極力少なくするようお願いします。
- ③ 塗り替え及び補修塗料については、色相により塗料メーカーが異なりますのでご注意ください。

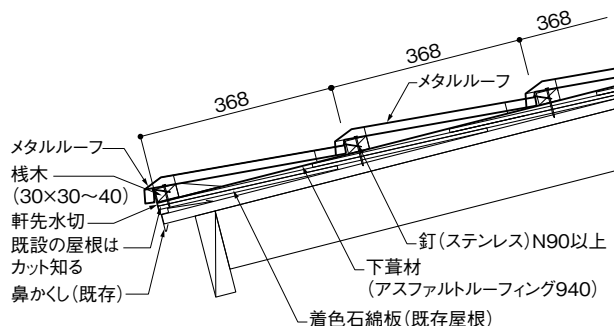
17. 納まり断面図集(スレートカバー工法)

軒先部(軒先瓦)

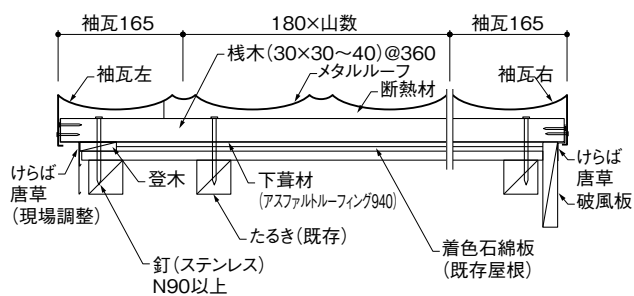


※既存の鼻かくしに干渉しないように広小舞を軒先から20～30mmほど出す。

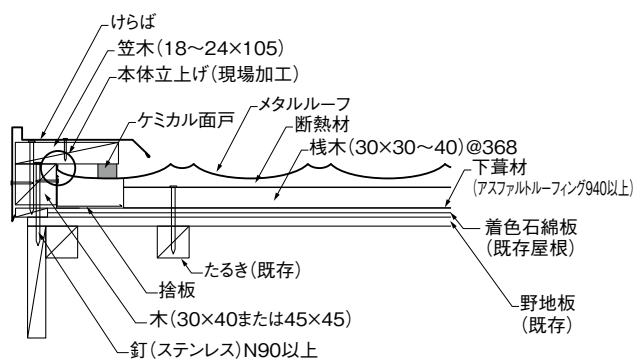
軒先部(軒先水切)



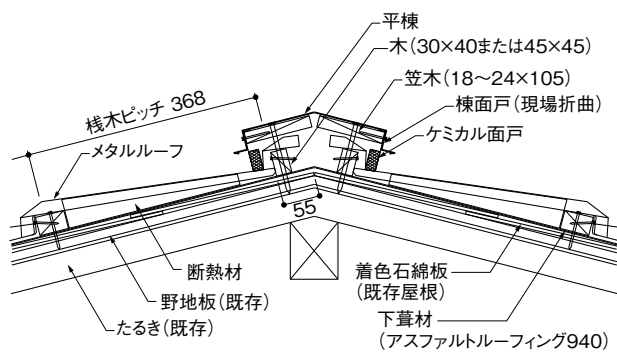
けらば部(袖瓦)



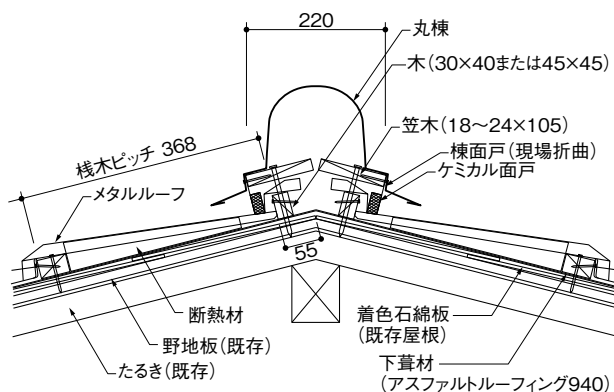
けらば部(けらば)



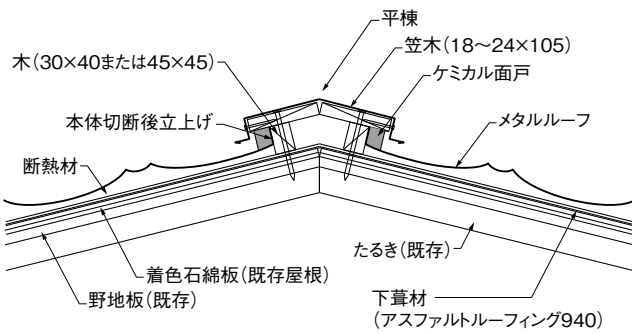
主棟部(平棟)



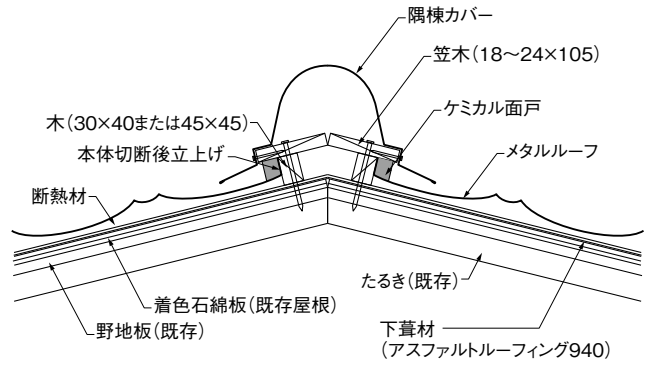
主棟部(丸棟)



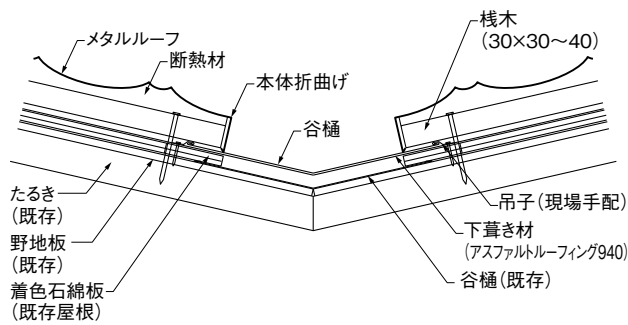
隅棟部(平棟)



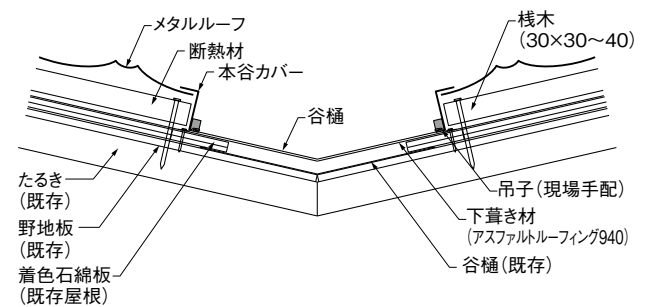
隅棟部(丸棟)



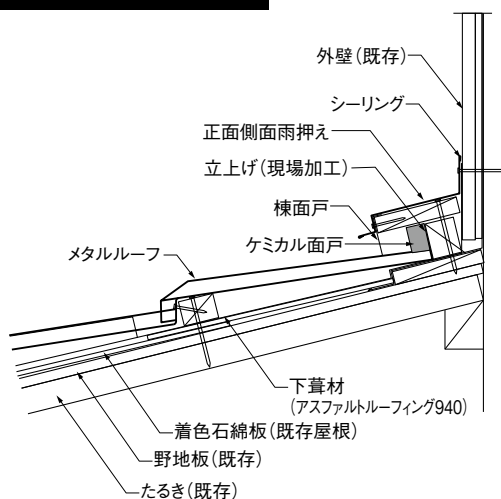
谷樋部(屋根材曲げ加工)



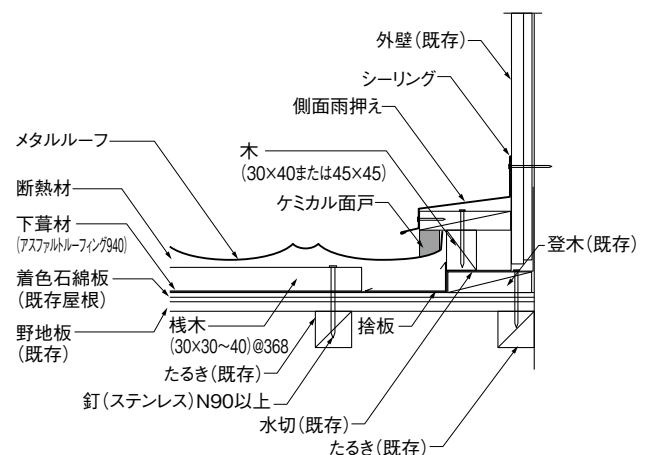
谷樋部(本谷カバー)



壁取合い部(水平方向)



壁取合い部(流れ方向)





NIPPON STEEL

株式会社メタル建材

日鉄鋼板グループ

営 業 部 〒273-8502 千葉県船橋市西浦 1-1-1 TEL(047)433-9651 FAX(047)433-9665

<http://www.metalkenzai.co.jp>

Copyright(c)Metal kenzei Corporation. All Rights Reserved.

- 記載された試験データは弊社で実施した試験データの一例であり、その結果を保証するものではありません。
- 本資料に掲載されている仕様等は、予告なく変更することがあります。
- 本資料に記載された内容の無断転載や複写はご遠慮ください。